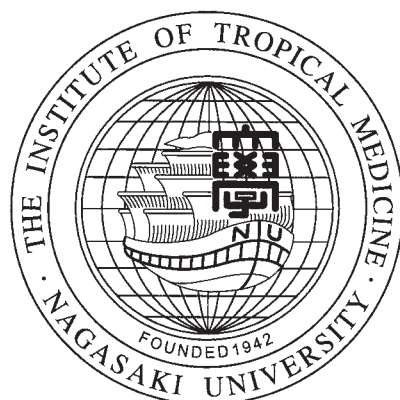


長崎大学熱帯医学研究所

年 次 要 覧

平成25年度
(2013)



長崎大学熱帯医学研究所
平成26年(2014) 12月

長崎大学熱帯医学研究所

総 合 目 標

熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境が、熱帯病をはじめとする錯綜した健康問題を引き起こし続けている。国際交流の進展が著しい今日、これらの問題は世界的視野に立って解決されなければならない。

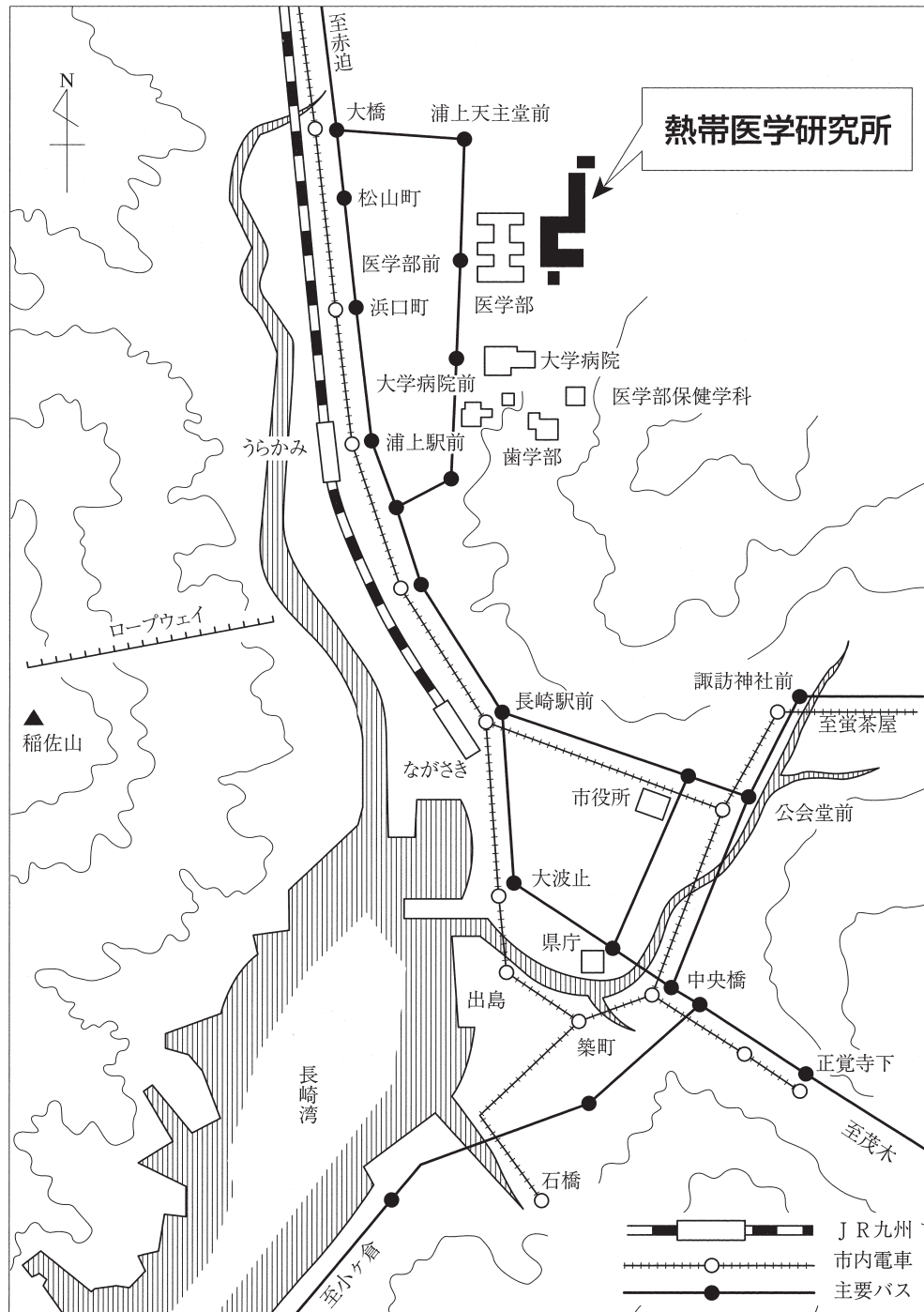
長崎大学熱帯医学研究所は、上述の認識に基づき、熱帯病の中でも最も重要な領域を占める感染症を主とした疾病と、これに随伴する健康に関する諸問題を克服することを目指し、関連機関と協力して以下の項目の達成を図るものである。

1. 熱帯医学及び国際保健における先導的研究
2. 研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
3. 上記に係る研究者と専門家の育成



研 究 所 全 景

長崎大学熱帯医学研究所位置図



所在地 長崎市坂本1丁目12-4(〒852-8523)
電話 095-819-7800 (総合案内)

はじめに

長崎大学熱帯医学研究所

所 長 森 田 公 一

長崎大学熱帯医学研究所は、昭和17年(1942)に長崎医科大学附属東亜風土病研究所として開設され、昭和42年(1967)に長崎大学附置熱帯医学研究所となりました。日本において熱帯医学研究を目的とする唯一の公的機関として活動しています。本研究所は平成元年(1989)に全国共同利用研究所となり、平成5年(1993)には世界保健機関(WHO)からWHO協力センター(熱帯性ウイルス病に関する資料と研究)に、平成7年度(1995)には文部省から熱帯医学に関する国際的に卓越した研究拠点の指定を受けています。また、平成21年度(2009)に文部科学省より全国共同利用「熱帯医学研究拠点」の認定を受け、新たな運営制度のもと全国の研究者コミュニティに開かれた研究所として活動を強化しております。さらに、平成25年度(2013)には、医歯薬学総合研究科と共同して、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」事業に採択され、リーディング大学院「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を開設いたしました。平成25年度(2013)の研究所の組織は4大部門(15研究分野、1客員分野、1外国人客員分野を含む)、2附属施設、1診療科で構成されています。

さて、熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境はそこに位置する開発途上国において古典的熱帯病に加え、新興感染症から生活習慣病まで錯綜した健康問題を引き起こしています。また、国際交流の進展が著しい今日、これらの問題は温帯に位置する先進諸国にも重大な影響を及ぼしており、世界的な視野に立って解決すべき課題であります。当研究所はこの課題克服を目指し、下記に掲げる総合目標(Mission Statement, 平成11年5月策定)を掲げてこの分野での研究、国際貢献、教育の各領域で関連機関と協力した活動を展開しているところです。

(熱帯医学研究所 総合目標)

1. 熱帯医学及び国際保健における先導的研究
2. 研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
3. 研究者と専門家の育成

この年次要覧は総合目標の達成を目指して、平成25年度に熱帯医学研究所が共同利用研究所として実施した共同研究、研究所各分野と附属施設での研究、JST-JICAのSATREPS事業等の外部資金による大型研究の実施状況、海外からの研究者の受け入れ状況、研究所が実施した教育活動、研究所の財務状況、研究成果出版物等を網羅的に記録したものです。当研究所のさらなる発展の為、皆様のご意見とご協力をお願いする次第です。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧 平成25年度（2013）

目 次

総合目標

長崎大学熱帯医学研究所位置図

はじめに

1	沿革	1
	歴代所長	2
2	組織及び規模	
2. 1	組織	3
2. 2	職員	4
2. 3	経費	12
2. 4	敷地と建物	12
3	熱帯医学研究拠点共同研究	
3. 1	特定領域共同研究	13
3. 2	一般共同研究	14
3. 3	研究集会	18
4	研究活動	
4. 1	ウイルス学分野	21
4. 2	新興感染症学分野	23
4. 3	細菌学分野	25
4. 4	原虫学分野	26
4. 5	寄生虫学分野	30
4. 6	分子疫学分野	32
4. 7	免疫遺伝学分野	32
4. 8	生態疫学分野	35
4. 9	国際保健学分野	36
4. 10	病害動物学分野	39
4. 11	臨床感染症学分野	40
4. 12	小児感染症学分野	43
4. 13	臨床開発学分野	45

5	附属施設	
5. 1	アジア・アフリカ感染症研究施設	
5. 1. 1	ケニアプロジェクト拠点	50
5. 1. 2	ベトナムプロジェクト拠点	54
5. 2	熱帯医学ミュージアム	59
5. 3	共同研究室	
5. 3. 1	分子生物学実験室	60
5. 3. 2	病理実験室	60
5. 3. 3	電子顕微鏡室	62
5. 3. 4	マラリア研究室	63
6	特別事業費による事業	
6. 1	熱帯医学研修課程	66
7	外部資金による研究	
7. 1	文部科学省科学研究費助成事業（平成25年度）	69
7. 2	厚生労働省科学研究費補助金（平成25年度）	73
7. 3	受託研究費等（平成25年度）	74
8	海外活動	77
9	外国人研究者の受け入れ	
9. 1	平成25年度に受け入れた外国人研究者	91
10	研究成果の発表状況	
10. 1	研究業績	94
10. 2	学会発表演題	108
10. 3	国際会議における研究発表	126
10. 4	報告書等印刷物	134
11	講演会	
11. 1	熱帯医学研究所における所外講師による講演	137
11. 2	熱帯医学研究所教員による講演	140
11. 3	熱帯医学研究所主催の市民公開講座	147
12	主要な研究設備	148
13	刊行物	149

1 沿革

昭和17年 3 月	長崎医科大学附属東亜風土病研究所設立	昭和60年 8 月	本館の第三次増築竣工
昭和20年 8 月	原爆投下により研究所建物及び研究資料消失	昭和62年 4 月	病害動物学部門の増設
昭和21年 4 月	長崎医科大学風土病研究所に改称	平成元年 4 月	熱帯医学研究所は共同利用研究所に改組
昭和21年 5 月	諫早市に移転し、研究活動再開	平成 3 年 4 月	感染生化学部門の増設
昭和24年 5 月	新制長崎大学に附置され、長崎大学附置風土病研究所に改称	平成 6 年 3 月	本館の第四次増築竣工
昭和32年 7 月	諫早大水害により、施設、機器、研究資料等に壊滅的な被害	平成 6 年 4 月	大部門制に改組（3 大部門12 研究分野）
昭和34年 3 月	長崎市興善町の元長崎大学医学部附属病院外来患者診療所跡に移転	平成 7 年 4 月	世界の最先端の学術研究を推進する卓越した研究拠点（COE）の研究所に指定
昭和36年 3 月	長崎市坂本町に新庁舎竣工	平成 8 年 4 月	病原体解析部門に分子疫学分野（外国人客員分野）の新設
昭和36年 4 月	新庁舎に移転	平成 9 年 4 月	附属熱帯医学資料室の廃止・転換に伴い、附属熱帯病資料情報センターの新設
昭和39年 4 月	疫学部門の増設	平成13年 4 月	附属熱帯病資料情報センターの廃止・転換に伴い、附属熱帯感染症研究センターの新設
昭和40年 4 月	寄生虫学部門の増設	平成15年 3 月	本館の第五次増築（熱帯性病原体集中研究管理棟）竣工
昭和41年 4 月	ウイルス学部門の増設	平成17年 9 月	ナイロビ研究拠点 設置
昭和42年 2 月	本館の第一次増築竣工	平成18年 3 月	本館の改修工事竣工
昭和42年 6 月	風土病研究所が熱帯医学研究所に改称	平成20年 4 月	附属熱帯感染症研究センターの廃止・転換に伴い、附属アジア・アフリカ感染症研究施設及び熱帯医学ミュージアムの新設
昭和42年 6 月	熱帯医学研究所内科として、医学部附属病院に設置	平成21年 6 月	共同利用・共同研究拠点「熱帯医学研究拠点」に認定
昭和49年 4 月	附属熱帯医学資料室設置	平成23年 4 月	臨床研究部門（3 研究分野）の増設
昭和49年 4 月	病原細菌学部門の増設	平成24年 3 月	「熱帯医学研究コース」終了
昭和53年 3 月	感染動物隔離実験棟竣工	平成25年 6 月	熱帯性病原体感染動物実験施設廃止
昭和53年 4 月	防疫部門（客員部門）の新設		
昭和53年 4 月	熱帯医学研修課程の新設		
昭和54年 4 月	感染動物隔離実験棟が熱帯性病原体感染動物実験施設に昇格		
昭和55年 3 月	本館の第二次増築竣工		
昭和58年 4 月	国際協力事業団（JICA）の集団研修コース「熱帯医学研究コース」開設		
昭和59年 4 月	原虫学部門の増設		

歴 代 所 長

(長崎医科大学附属東亜風土病研究所)

角	尾	晋	自	昭和17年 (1942)	5 月 4 日
			至	昭和20年 (1945)	8 月22日
古	屋	宏	自	昭和20年 (1945)	12月22日
	野	平	至	昭和23年 (1948)	1 月23日
高	瀬	清	自	昭和23年 (1948)	1 月24日
			至	昭和23年 (1948)	8 月31日
登	倉	登	自	昭和23年 (1948)	9 月 1 日
			至	昭和24年 (1949)	5 月30日

(長崎大学風土病研究所)

登	倉	登	自	昭和24年 (1949)	5 月31日
			至	昭和33年 (1958)	8 月31日
大	森	南 三 郎	自	昭和33年 (1958)	9 月 1 日
			至	昭和38年 (1963)	11月30日
福	見	秀 雄	自	昭和38年 (1963)	12月 1 日
			至	昭和42年 (1967)	5 月31日

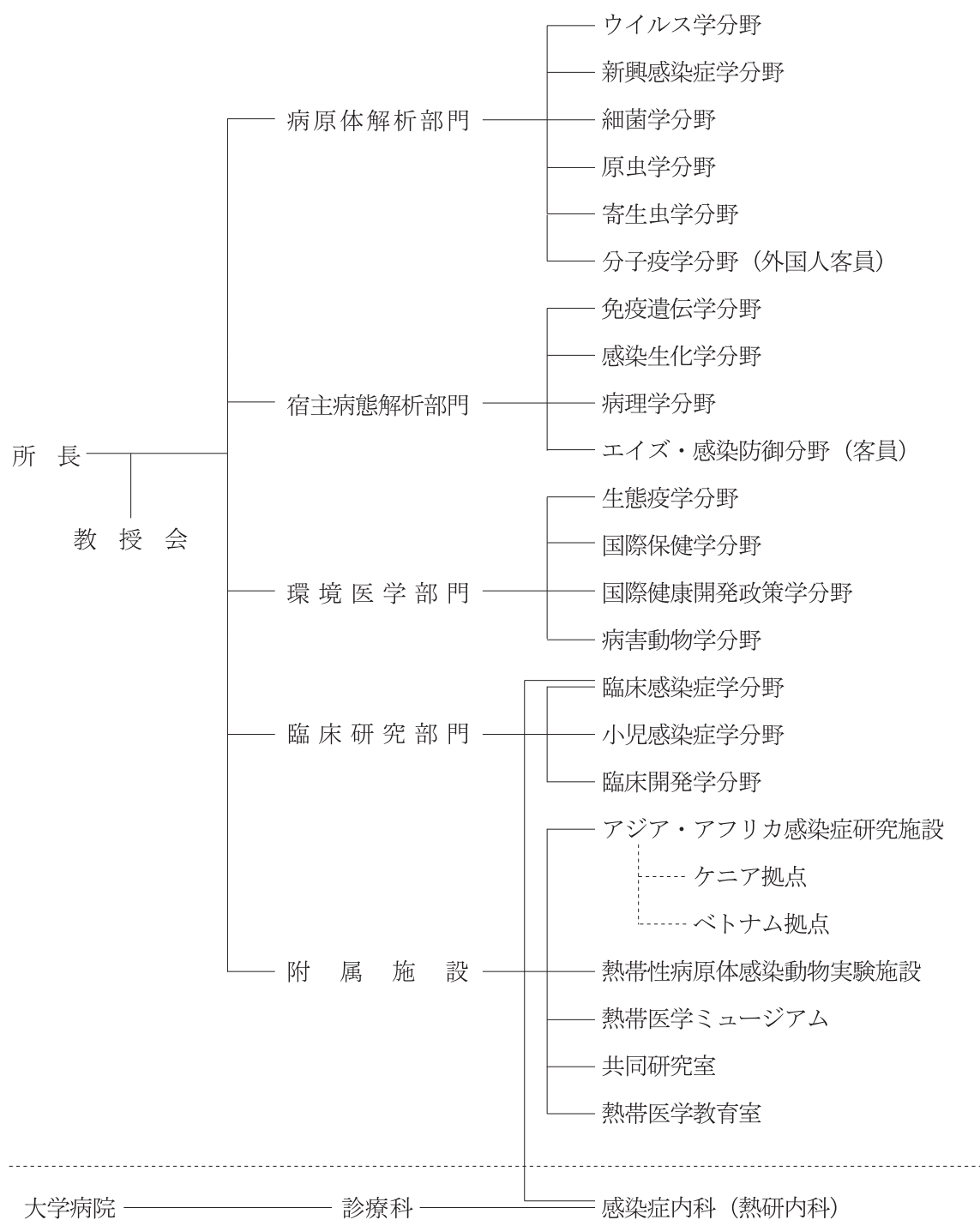
(長崎大学熱帯医学研究所)

福	見	秀 雄	自	昭和42年 (1967)	6 月 1 日
			至	昭和44年 (1969)	11月30日
片	峰	大 助	自	昭和44年 (1969)	12月 1 日
			至	昭和48年 (1973)	11月30日
林		薫	自	昭和48年 (1973)	12月 1 日
			至	昭和52年 (1977)	11月30日
内	藤	達 郎	自	昭和52年 (1977)	12月 1 日
			至	昭和54年 (1979)	11月30日
片	峰	大 助	自	昭和54年 (1979)	12月 1 日
			至	昭和56年 (1981)	4 月 1 日
松	本	慶 藏	自	昭和56年 (1981)	4 月 2 日
			至	平成 3 年 (1991)	4 月 1 日
板	倉	英 吉	自	平成 3 年 (1991)	4 月 2 日
			至	平成 5 年 (1993)	4 月 1 日
小	坂	光 男	自	平成 5 年 (1993)	4 月 2 日
			至	平成 9 年 (1997)	4 月 1 日
五 十 嵐		章	自	平成 9 年 (1997)	4 月 2 日
			至	平成13年 (2001)	3 月31日
青	木	克 己	自	平成13年 (2001)	4 月 1 日
			至	平成19年 (2007)	3 月31日
平	山	謙 二	自	平成19年 (2007)	4 月 1 日
			至	平成23年 (2011)	3 月31日
竹	内	勤	自	平成23年 (2011)	4 月 1 日
			至	平成25年 (2013)	3 月31日
森	田	公 一	自	平成25年 (2013)	4 月 1 日
			至	現 在	

2 組織及び規模

2.1 組織

平成25年4月1日



2. 2 職 員

平成25年4月1日

1) 定員内職員

区 分	教 員						そ の 他 の 職 員	合 計
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	計		
現 員	(4) 13	(1) 5	3	(18) 14	1	(23) 36	(3) 1	(26) 37

※ () は有期雇用職員で外数

2) その他の職員

非常勤講師 15名 外国人研究員(客員教授) 1名 客員教授 3名
 客員准教授 1名 産学官連携研究員 5名 プロジェクト研究員 0名
 科学研究費補助金研究支援員 2名 研究機関研究員 1名 研究支援推進員 6名
 事務補佐員及び技能補佐員 30名

3) 教職員・大学院学生等氏名

所	長 (命)教 授	医 学 博 士	森 田 公 一
副 所	長 (命)教 授	医 学 博 士	金 子 修
	(命)教 授	医 学 博 士	平 山 謙 二
ウ イ ル ス 学 分 野	教 授	医 学 博 士	森 田 公 一
	(兼)教 授		長 谷 部 太
	助 教	獣 医 学 博 士	井 上 真 吾
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	余 福 勲
	助教(有期雇用)	農 学 博 士	鍋 島 武
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	早 坂 大 輔
	技術職員(有期雇用)		戸 田 み つ る
	産学官連携研究員	医 学 博 士	ポサダス ヘレラ ギエルモ
	研究機関研究員	医 学 博 士	アロンゾマリアテリス ガルベズ
	客 員 准 教 授		吾 郷 昌 信
	客 員 研 究 員		久 保 亨
	客 員 研 究 員		ミヤ ミヤット ヌグェ トン
	技 能 補 佐 員		城 臺 和 美
	大 学 院 生		吉 川 亮
	大 学 院 生		ムハレバ ライキエンシヤ
	大 学 院 生		高 松 由 基
	大 学 院 生		レ ルアット シュアン
	大 学 院 生		内 田 玲 麻
	大 学 院 生		ウランダイ・ジアン・エドワード・リンボ

	大 学 院 生 研 究 生		アドウンゴフェルドナード アウン キョウ キョウ
新 興 感 染 症 学 分 野	教 授	理 学 博 士	安 田 二 朗
	助 教(TT)	薬 学 博 士	黒 崎 陽 平
	助 教(TT)	薬 学 博 士	浦 田 秀 造
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	坂 部 沙 織
	技 能 補 佐 員		神 山 智 美
	研 究 支 援 員		小 野 真 帆 美 子
	研究支援推進員		小 林 繭 子
	大 学 院 生		檜 原 知 里
細 菌 学 分 野	教 授	農 学 博 士	平 山 壽 哉
	講 師	理 学 博 士	和 田 昭 裕
	助 教(TT)	医 学 博 士	中 野 政 之 代
	研究支援推進員		前 田 香
原 虫 学 分 野	教 授	医 学 博 士	金 子 修
	講 師	薬 学 博 士	上 村 春 樹
	助 教	医 学 博 士	中 澤 秀 介
	助 教	薬 学 博 士	矢 幡 一 英
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	麻 田 正 仁
	客 員 研 究 員		ペドロエドゥアルド・メンデシュ・フェレイラ
	客 員 研 究 員		キショール パンディー
	客 員 研 究 員		後 藤 美 穂
	客 員 研 究 員		駒 形 朋 子
	産学官連携研究員		サンサヤラート パンパディット
	研 究 支 援 員		宮 崎 真 也
	技 能 補 佐 員		木 下 美 紀
	技 能 補 佐 員		松 尾 佳 美
	技 能 補 佐 員		大 越 桃 子
	大 学 院 生		ジョウ キマンティ ムトウング
	大 学 院 生		アムザ ビャルハンガ ラッキ
寄 生 虫 学 分 野	教 授	医 学 博 士	濱 野 真 二 郎
	助 教	医 学 博 士	三 井 義 則
	助 教(TT)	薬 学 博 士	加 藤 健 太 郎
	助教(有期雇用)	獣 医 学 博 士	園 田 梨 沙
	技術職員(有期雇用)		榊 田 京 子

	研究支援推進員		林 田 昌 子
	技能補佐員		濱 崎 め ぐ み
	技能補佐員		小 田 裕 美
	大学院生		神 戸 俊 平
	大学院生		ヨンボ ダン ジャスティン カレンダ
	大学院生		凧 幸 世
	大学院生		延 末 謙 一
分 子 疫 学 分 野	客 員 教 授		Bucrano Corazon Cerilla
免 疫 遺 伝 学 分 野	教 授	医 学 博 士	平 山 謙 二
	講 師	医 学 博 士	菊 池 三 穂 子
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	シュアイブ モハマド ナシル
	技術職員(有期雇用)		柳 哲 雄
	客 員 研 究 員		片 上 幸 美
	技能補佐員		早 嶋 順 子
	技能補佐員		宮 崎 修 治
	技能補佐員		下 田 邦 子
	技能補佐員		近 俊 志 穂
	大学院生		ラム ウォック バオ
	大学院生		ムバネフォ エヴァリストウヌ チグナ
	大学院生		ダ ン ミ ニ
	大学院生		ナット クーン ランセソンプーン
	研 修 生		ヴァスケス ヴェラケス クララアレハンドラ
生 態 疫 学 分 野	教授(有期雇用)	医 学 博 士	金 子 聰
	助教(有期雇用)	医 学 博 士	藤 井 仁 人
	助教(有期雇用)	工 学 博 士	後 藤 健 介
	産学官連携研究員	理 学 修 士	谷 川 智 洋
	産学官連携研究員	理 学 博 士	三 浦 雅 史
	技能補佐員		田 中 準 一
	大学院生		星 友 矩
国 際 保 健 学 分 野	教 授	保 健 学 博 士	山 本 太 郎
	准 教 授	医 学 博 士	山 奥 村 順 子
	助 教(TT)	医 学 博 士	和 田 崇 之
	客 員 研 究 員		秦 亮
	客 員 研 究 員		張 卓
	客 員 研 究 員		角 康 人

	客員研究員					市川智生
	客員研究員					江口克之
	客員研究員					センチャン クナフォン
	客員研究員					ウビドウル ハク
	技能補佐員					江崎拓也
	技能補佐員					林 暁子
	事務補佐員					新井聡子
	大学院生					猪飼 桂
	大学院生					水本 憲治
	大学院生					V u H a i H a
	大学院生					高橋 宗康
	大学院生					高山 義浩
病 害 動 物 学 分 野	教 授		理 学 博 士	皆 川		昇
	准 教 授		農 医 学 博 士	川 田		均
	助 教		医 学 博 士	砂 原	俊	彦
	助教		医 学 博 士	比 嘉	由 紀	子
	助教(有期雇用)		学 術 博 士	角 田		隆
	助教(有期雇用)		農 学 博 士	二 見	恭	子
	助教(有期雇用)		医 学 博 士	都 築		中
	助教(有期雇用)	P h D		チャベス サナブリア ルイス フェルナンド		
	研究支援推進員			鶴 川	千	秋
	技 能 補 佐 員			川 島	恵 美	子
	技 能 補 佐 員			森	奈 緒	子
	技 能 補 佐 員			皆 川	こ ご み	
	事務補佐員			酒 本	淳	子
	大学院生			Endang Pujiyati		
	大学院生			山 田	晃	嗣
	大学院生			岩 下	華	子
大学院生			住 田	雄	亮	
大学院生			Eugenio Fonzi			
大学院生			フィン ティー トゥイー チャン			
大学院生			今 西		望	
大学院生			オウオア ガブリエル オウイノ			
臨 床 感 染 症 学 分 野	教 授		医 学 博 士	有 吉	紅	也
	教授(有期雇用)		医 学 博 士	安 波	道	郎
	准 教 授		医 学 博 士	森 本	浩 之	輔

助 教(TT)	熱 帯 医 学 修 士	鈴 木	基
助教(有期雇用)	医 学 士	佐 藤	光
助 手		渡 邊	貴 和 雄
客 員 教 授	医 学 博 士	前 川	知 之 子
客 員 教 授	医 学 博 士	三 浦	聡 明 正 彦
客 員 研 究 員		高 木	明 正 彦
客 員 研 究 員		森 切	江 満 里 代
技 能 補 佐 員		白 水	村 仁 奈
技 能 補 佐 員		中 村	崎 由 美
技 能 補 佐 員		濱 岡	田 沙 弥 香
事 務 補 佐 員		岡 山	下 嘉 郎
事 務 補 佐 員		小 笠	原 徹
大 学 院 生		濱 口	杉 大 介
大 学 院 生		高 橋	健 子
大 学 院 生		宮 原	麗 子
大 学 院 生		レ ニ ャ ッ ト	ミ ン
大 学 院 生		齊 藤	信 夫
大 学 院 生		島 崎	貴 治
大 学 院 生		島 田	郁 美
大 学 院 生		柿 内	聡 志
大 学 院 生		石 藤	智 子
大 学 院 生		山 梨	啓 友
大 学 院 生		ド バ デ ル	ビ ム グ ッ パ ル
大 学 院 生		泉 田	真 生
大 学 院 生		ン ゴ ク	オ ン チ
大 学 院 生		北 庄	司 絵 美
大 学 院 生		林	健 太 郎
大 学 院 生		寺 田	真 由 美
研 究 生		原 田	義 高
研 究 生		高 木	理 博
小 児 感 染 症 学 分 野	医 学 博 士	橋 爪	真 弘
教 授	医 学 博 士	吉 田	レ イ ミ ン ト
准 教 授		樋 泉	道 子
産 学 官 連 携 研 究 員		岡	希 望
研 究 支 援 推 進 員			

	大 学 院 生 大 学 院 生			古 尾 谷 法 子 今 井 智 里
臨 床 開 発 学 分 野	教 授 准教授(有期雇用) 客 員 教 授 客 員 研 究 員 技 能 補 佐 員	P h D 学 術 博 士		ローサボーン チャントラ グエン フィ ティエン ナーバンチャン ケセラ プレンスリヤカン トゥラヤコン フ リ ッ ツ 郁 美
アジア・アフリカ感染症 研 究 施 設 (ケ ニ ア 拠 点)	拠点リーダー(命)教授 教 授 教 授 教授(有期雇用) 教授(有期雇用) 教授(有期雇用) 准 教 授 助 教 助教(有期雇用) 助教(有期雇用) 助教(有期雇用) 助教(有期雇用) 技術職員(有期雇用) 産学官連携研究員 産学官連携研究員 事務職員(有期雇用) 事務職員(有期雇用) 事 務 職 員 事務職員(有期雇用) 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生 大 学 院 生	医 学 博 士 理 学 博 士 医 学 博 士 医 学 博 士 獣 医 学 博 士 医 学 博 士 農 学 博 士 農 医 学 博 士 獣 医 学 博 士 医 学 博 士 農 学 博 士 工 学 博 士 学 術 博 士 理 学 修 士 理 学 博 士		一 瀬 休 生 皆 川 昇 濱 野 真 二 郎 嶋 田 雅 暁 堀 尾 政 博 金 子 聰 川 田 均 井 上 真 吾 藤 井 仁 人 二 見 恭 子 後 藤 健 介 シャー モハマド モニル 戸 田 み つ る 谷 川 智 洋 三 浦 雅 史 風 間 春 樹 齊 藤 幸 枝 坂 田 忠 久 俵 と も か 神 戸 俊 平 岩 下 華 子 ガブリエル ディダ アーネスト アボンディ
アジア・アフリカ感染症 研 究 施 設 (ベ ト ナ ム 拠 点)	拠点リーダー(命)教授 (兼)教 授 助教(有期雇用) 助教(有期雇用) 助教(有期雇用)	医 学 博 士 医 学 博 士 学 術 博 士 獣 医 学 博 士 人間・環境学博士		山 城 哲 長 谷 部 太 角 田 隆 堀 田 こ ず え 竹 村 太 地 郎

	助教(有期雇用) 産学官連携研究員 事務職員 技能補佐員(熱研内) 事務補佐員(熱研内)	国際関係学修士	時樋中田福	沢泉尾中岩	亜佐子 道子 隆宏 香苗 由美子
熱帯医学ミュージアム	館長 教授(有期雇用) 技術職員 事務職員(有期雇用) 技能補佐員	理学博士 獣医学博士	皆堀荒秋須	川尾木田田	昇博生 政一 亜希子 清美
共同研究室	室長(命)教授 准教授 助教 技能補佐員 研究支援推進員	農学博士 PhD 医学博士 理学博士	平山 リチャード 千坂川外	馬口嶋間	壽哉 カレトン 正敬 美亜子 順子 沙里菜
診療科 (熱研内科)	科長(命)教授 副科長(命)准教授 講師 助教 医員 医員 医員 医員 医員 修練医 修練医 事務補佐員	医学博士 医学博士 医学士 医学士	有森古神齊高石山垣大西望北	吉本白藤木藤梨内澤山月村	紅也 浩之 朗嗣 麻衣子 信夫 理博 智子 啓友 聡志 令奈 明太 恒子 絢子
非常勤講師	長崎県環境保健研究センター・保健科長 大分大学・教授 大阪大学・教授 (株)グラクソスミスクライン・部長 東京大学大学院薬学系研究科・特任教授		吾西堀野津	郷園口呂谷	昌信 晃彦 安弘 信一 喜一郎

東京大学大学院医学
系研究科・教授
WHO世界フィラリア
症根絶計画・リーダー
大阪市立大学・教授

東京医科歯科大学・教授
「動く→動かす」(GCAP
JAPAN)・事務局長
AMDA ・代 表
国連人口基金東京
事務所・所 長
岩手県立高田病院・院長
大学共同利用機関法人情報・
システム研究機構・准教授

北			潔
一	盛	和	世
金	子		明
太	田	伸	生
稲	場	雅	紀
菅	波		茂
佐	崎	淳	子
石	木	幹	人
島	谷	健 一	郎
前	川	知	之

2. 3 経 費

年度別決算額（平成20年～平成25年度）

年度	区分	人 件 費	物 件 費	合 計
平成 20 年		651, 898, 818 円	265, 358, 082 円	917, 256, 900 円
平成 21 年		605, 260, 738	271, 544, 815	876, 805, 553
平成 22 年		532, 702, 260	471, 523, 873	1, 004, 226, 133
平成 23 年		607, 943, 166	483, 626, 501	1, 091, 569, 667
平成 24 年		598, 138, 424	420, 465, 416	1, 018, 603, 840
平成 25 年		489, 567, 605	476, 723, 671	966, 291, 276

年度別決算額：外部資金等（平成20年～平成25年度）

年度	区分	人 件 費	物 件 費	合 計
平成 20 年		262, 345, 094 円	658, 352, 116 円	920, 697, 210 円
平成 21 年		326, 227, 542	746, 606, 269	1, 072, 833, 811
平成 22 年		296, 164, 175	850, 841, 443	1, 147, 005, 618
平成 23 年		156, 919, 028	925, 992, 376	1, 082, 911, 404
平成 24 年		208, 595, 480	608, 765, 460	817, 360, 940
平成 25 年		131, 139, 405	479, 535, 519	610, 674, 924

2. 4 敷地と建物

所在地 長崎市坂本 1 丁目12－ 4

敷 地 長崎大学医学部構内 3, 305m²

建 物

建 物 名 称	構 造	建面積(m ²)	延面積(m ²)	備 考
本 館	鉄筋コンクリート 3 階，一部 4 階建	1, 763	6, 454	昭和36. 3 建築 昭和42. 2 増築 昭和55. 3 増築 昭和60. 8 増築 平成 6 . 3 増築 平成18. 3 改修
熱帯性病原体 集中研究管理棟	鉄筋コンクリート 4 階 建	329	1, 328	平成15. 3 建築
薬 品 庫	ブ ロ ッ ク 建	20	20	昭和47. 3 建築
計		2, 112	7, 802	

3 熱帯医学研究拠点共同研究

3. 1 特定領域共同研究 (◎は研究代表者)

1. 熱帯地域, 特にアフリカおよびベトナムで発生している真菌症・放線菌症の原因菌の収集と形態学的, 生理学的, 分子生物学的解析

千葉大学真菌医学研究センター・センター長	◎笹川 千尋
千葉大学真菌医学研究センター・教授	亀井 克彦
千葉大学真菌医学研究センター・教授	川本 進
千葉大学真菌医学研究センター・教授	五ノ井 透
千葉大学真菌医学研究センター・准教授	矢口 貴志
千葉大学真菌医学研究センター・准教授	横山 耕治

2. マラリアと結核に対するワクチン開発と臨床免疫学解析

琉球大学熱帯生物圏研究センター・センター長	◎屋 宏典
琉球大学熱帯生物圏研究センター・教授	松崎 吾朗
琉球大学熱帯生物圏研究センター・教授	渡部 久実
琉球大学熱帯生物圏研究センター・准教授	新川 武
琉球大学熱帯生物圏研究センター・准教授	梅村 正幸
琉球大学熱帯生物圏研究センター・ポスドク研究員	福井 雅之
長崎大学熱帯医学研究所・助教	秋山 剛

3. アジア地区におけるHIV感染防止ワクチン及び新規抗HIV薬の開発のための基盤研究

熊本大学エイズ学研究センター・センター長	◎滝口 雅文
熊本大学エイズ学研究センター・教授	松下 修三
熊本大学生命科学研究部・教授	原田 信志
熊本大学エイズ学研究センター・教授 (客員)	岡 慎一
熊本大学エイズ学研究センター・助教	阪井 恵子

3. 2 一般共同研究 (◎は研究代表者)

1. 一塩基多型プロファイリングによるサルモネラ属菌の迅速血清型別法の開発

帯広畜産大学・教授	◎倉園 久生
帯広畜産大学・助教	山崎 栄樹
マヒドール大学・教授	Wanpen Chicumpa
Translational Health Science and Technology Institute・ Executive director	G. B. Nair
マレーシア大学・医学部・教授	Zaw Lin

2. 日本脳炎ウイルス感染における脳内浸潤特異的T細胞の生物学的意義の検討

国立感染症研究所・流動研究員	◎北浦 一孝
長崎大学熱帯医学研究所・助教	早坂 大輔

3. “森林マラリア”の分子疫学的研究

藤田保健衛生大学医学部・准教授	◎前野 芳正
カンフーマラリア研究センター所長	グエン・チュエン・クオン
オランダベトナム医学委員会・上級アドバイザー	ロン・A・マシヤン
長崎大学熱帯医学研究所・助教	中澤 秀介
長崎大学熱帯医学研究所・准教授	リチャード・カレトン

4. ケニアにおける住血吸虫症の水系伝播リスクのアセスメント法の開発と実践

九州大学大学院医学研究院・保健学部門・講師	◎小島 夫美子
長崎大学熱帯医学研究所・教授	濱野 真二郎

5. 熱帯熱マラリア原虫の好適な地理的拡散経路の解明：アジアからアフリカへ

順天堂大学大学院医学研究科・教授	◎美田 敏宏
東京女子医科大学医学部・助教	本間 一
長崎大学熱帯医学研究所・教授	山本 太郎

6. 新しいウイルス検査装置のロタウイルス定量への応用

長浜バイオ大学バイオサイエンス学部・准教授	◎長谷川 慎
長崎大学熱帯医学研究所・教授	一瀬 休生
長崎大学熱帯医学研究所・講師	和田 昭裕

7. 集団治療実施に関連するヒト・熱帯熱マラリア原虫の分子疫学的研究 ～ビクトリア湖島嶼マラリア撲滅に向けて～

大阪市立大学大学院医学研究科・病院講師	◎五十棲 理恵
大阪市立大学大学院医学研究科・教授	金子 明
大阪市立大学大学院医学研究科・講師	木俣 勲
大阪市立大学大学院医学研究科・准教授	木村 政継
長崎大学熱帯医学研究所・教授	一瀬 休生
長崎大学熱帯医学研究所・講師	上村 春樹
長崎大学熱帯医学研究所・教授	平山 謙二
長崎大学熱帯医学研究所・准教授	リチャード・カレトン

8. ベトナム高次医療機関感染症科の未分類熱性疾患入院例におけるスピロヘーター感染症の 検索

国立感染症研究所・細菌第一部・主任研究官	◎小泉 信夫
国立感染症研究所・細菌第一部・室長	川端 寛樹
長崎大学医歯薬学総合研究科・大学院生	濱口 杉大

9. マラリア感染赤血球の機械的性質及び生物学的指標評価デバイスの構築

東海大学工学部・講師	◎木村 啓志
東京大学生産技術研究所・教授	藤井 輝夫
東京大学生産技術研究所・特任助教	金 秀炫
東京大学生産技術研究所・特任研究員	中村 寛子
長崎大学熱帯医学研究所・助教	矢幡 一英
長崎大学熱帯医学研究所・教授	金子 修

10. 下痢症起因菌および薬剤耐性菌のヒトへの伝播に関わる食用動物の役割

鳥取大学農学部・教授	◎村瀬 敏之
鳥取大学農学部・准教授	尾崎 弘一
ベトナム国立衛生疫学研究所・細菌学部門・部長	Nguyen Binh Minh
ベトナム獣医師会	Phuong Song Lien
長崎大学熱帯医学研究所・教授	山城 哲

11. 腸管感染症原因細菌の分子疫学解析法の開発とその活用

国立感染症研究所・細菌第一部・部長	◎大西 真
国立感染症研究所・細菌第一部・第二室長	泉谷 秀昌
長崎大学熱帯医学研究所・教授	山城 哲

12. 免疫複合体解析によるシャーガス病感染抵抗メカニズムの解明

長崎大学医歯薬学総合研究科健康薬科学講座・准教授	◎大山 要
長崎大学医歯薬学総合研究科健康薬科学講座・教授	黒田 直敬

13. キノコからのフラビウイルス感染増殖阻害活性成分の同定および性状解析

会津大学短期大学部・食物栄養学科・教授	◎左 一八
静岡県立大学大学院薬学研究科・教授	鈴木 隆
静岡県立大学大学院薬学研究科・博士前期課程	安倍 智子
静岡県立大学大学院薬学研究科・教授	野口 博司
静岡県立大学大学院薬学研究科・講師	梅原 薫

14. トリパノソーマ14-3-3はどのように細胞分裂を制御するか？

久留米大学医学部 真核微生物学部門・教授	◎井上 雅広
長崎大学熱帯医学研究所・講師	上村 春樹

15. *Trypanosoma cruzi* トランスシアリダーゼの基質結合に伴う変化を検出する物理化学的システムの開発と阻害剤探索への応用

熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）・教授	◎森岡 弘志
長崎大学熱帯医学研究所・講師	上村 春樹

16. 赤痢アメーバマイトソームの新規含硫脂質の機能解析

佐賀大学医学部・助教

◎見市(三田村)文香

佐賀大学医学部・教授

吉田 裕樹

長崎大学熱帯医学研究所・助教

中村 梨沙

長崎大学熱帯医学研究所・教授

濱野 真二郎

17. フィリピン住血吸虫症浸淫地における日本住血吸虫の分子系統ネットワーク解析

高知大学医学部・環境保健学教室・教授

◎吾妻 健

獨協医科大学・助教

林 尚子

獨協医科大学・教授

千種 雄一

18. バングラデシュにコレラ流行をもたらす大気水文環境に関する疫学研究

香川大学教育学部・教授

◎寺尾 徹

海洋研究開発機構・特任研究員

名倉 元樹

京都大学防災研究所・准教授

林 泰一

長崎大学熱帯医学研究所・教授

橋爪 真弘

19. バベシア原虫の赤血球侵入・発育メカニズムの可視化

帯広畜産大学原虫病研究センター・教授

◎河津 信一郎

長崎大学熱帯医学研究所・教授

金子 修

長崎大学熱帯医学研究所・助教

麻田 正仁

長崎大学熱帯医学研究所・助教

矢幡 一英

3. 3 研究集会

1. 熱帯医学におけるリスクコミュニケーショントレーニング

開催日：平成25年12月13日(金)，平成25年12月20日(金)

場 所：長崎大学熱帯医学研究所（長崎市）

代表者：長崎大学広報戦略本部・准教授 堀口 逸子

参加者：延べ20名

内 容：感染症とその研究施設におけるリスクコミュニケーションでは，情報提供者となる研究施設に勤務する研究者等のコミュニケーションスキルが問われる。コミュニケーションスキルを身につけ能力を維持するためには，継続したトレーニングが必要不可欠である。

今回は，熱帯医学研究所におけるリスクコミュニケーションの在り方，方針などを明確にし，研究所職員（研究者，事務職員，大学院生等）を対象としたリスクコミュニケーショントレーニングの研修プログラムの構築と実施を目的として行った。

2. 医学研究のための倫理に関する国際セミナー

開催日：平成25年 7 月 7 日(日)～ 平成25年 7 月 9 日(火)

場 所：長崎大学医学部ポンペ会館（長崎市）

代表者：長崎大学病院・薬剤部・教授 佐々木 均

参加者：62名

内 容：本集会は，「医学研究のための倫理に関する国際研修コース」との共催として，長崎大学医学部ポンペ会館にて平成25年 7 月 7 日から 7 月 9 日までの 3 日間，講師12名（うち外国から 4 名）と参加者50名（うち外国35名）を集め開催された。World Health Organization/Special Programme for Research and Training in Tropical Diseases (TDR) (スイス国) のFabio Zickerのプログラムマネージャのほか，日本国内の倫理関係の研究者を多数講師として招聘し，質の高い研修コースを運営することができた。取り上げた内容としては，倫理委員会の構成，役割，機能，インフォームドコンセント（同意書），利益不利益の評価，誘導，発展途上国での倫理問題である。参加者は今日の医学研究倫理に関して何がコンセンサスで，何が論議的なのかについて理解し，その対処の仕方について討論した。

3. 東アフリカの「うなづき症候群」に関する学際的研究集会

開催日：平成25年10月3日(木)

場 所：長崎大学熱帯医学研究所（長崎市）

代表者：大阪産業大学人間環境学部・講師 佐藤 靖明

参加者：40名

内 容：長崎で開催された第54回日本熱帯医学会大会のサテライトセミナーとして下記概要のとおり開催し、病気の存在や問題の焦点を参加者に知らせるとともに、これからの方策を考える上で貴重な催しとなった。

概要

1980年代から20年以上にわたり内戦が続いた東アフリカのウガンダ北部と南スーダン南部において、「うなづき症候群（Nodding syndrome）」という原因不明の病気が広がっている。ほぼ5～15歳の子どもが特異的に罹患し、てんかん様神経症状を呈し死に至るケースも多い。患者数は数千人規模にのぼる。治療法やケアの方法が確立されていない困難な状況を打開するため、アフリカ地域研究者と健康・医学系研究者の有志が学際的に協働し、長期的な保健医療の観点から対策を考えるネットワークが2013年3月につくられた。このネットワークが中心となって企画した本研究集会の目的は、最新の現地状況および研究動向について学問分野を越えて共有して今後の課題を多角的に明らかにすることである。具体的には、1)～3)の課題について議論し、医学、人類学等さまざまな専門分野からの知見を組み合わせて行うこととした。

1) 患者とその家族がおかれている実態とそのケア方針

患者家族に関する調査結果にもとづき、全体像の把握に努めるとともに、持続可能な対処方法の討議。

2) コミュニティにおける差別等の社会的問題への対処

病気の実態を患者個人の問題としてとらえるだけでなく、かれらを取りまく社会的な文脈において理解するための枠組みを、コミュニティにおける差別と包摂の視点からの検討。

3) 病因の究明

症例研究動向を整理するとともに、自然・社会環境の急激な変化を経験してきた地域の脈絡において、病因の推定。

4. アフリカにおけるNTD対策と研究の実施に関する研究集会：アジアとアフリカを繋ぐ研究ネットワーク

開催日：平成26年 3 月24日(月)

場 所：長崎大学熱帯医学研究所（長崎市）

代表者：愛知医科大学・教授 伊藤 誠

参加者：20名

内 容：ケニアにおいて現在、実施中である「社会システム改革と研究開発の一体的推進事業」による「貧困層を中心とする複数感染症の一括・同時診断技術開発のアフリカ拠点整備とその技術を用いた多種感染症の広域監視網と統合的感染症対策の構築」（代表研究者：長崎大学 調漸）プログラムの関係者があつまり、ケニア、さらにはアフリカでの展開について協議した。

まず、ケニアにおけるNTD対策の現状について、ケニア保健省のDr. Sultaniが講演を行った。その後、熱研の金子教授よりケニアでのプロジェクトの全般に関する報告がなされ、引き続き、アジアでの知見をアフリカに生かすことを趣旨に、愛知医科大学の伊藤教授が、スリランカ、ラオスを中心に展開されている尿検体を用いた抗体測定の研究についての講演を行った。開発途上国のフィールドでの採血の問題、その解決策としての尿検体を用いたMultiplexによる抗体測定についての議論が活発に行われた。その後、熱研藤井助教のグループ（藤井助教、三浦研究員、Muuo研究員）による診断用マイクロビーズ開発の進捗報告がなされた。また、開発を共同で行っている医学生物学研究所（MBL）より樽井研究員がモノクローナル抗体の開発状況について説明を行った。本開発は、診断用マイクロビーズの品質管理に必要な工程であり、問題なく開発が進んでいる旨、報告があった。引き続き、小林教授グループ（小林教授、秋山助教）から学校保健活動についての報告があった。最後に、金子教授グループ（星大学院生、Muuo研究員、Mohamed大学院生）から、ケニア並びにスーダンでの調査状況の報告がなされ、全体討議を行った。

今後、尿検体を含め、非侵襲的な調査体制の確立に向けて、検討を行うと共に、アジア・アフリカのネットワークを活用したNTD対策への展開を図ることで、全体討論を終えた。

4 研究活動

4. 1 ウイルス学分野

I. 熱帯ウイルス病の疫学研究

1) 日本脳炎ウイルスの分子疫学解析

日本脳炎ウイルスの生態をより詳細に明らかにするため、前年度に引き続き東南アジアと日本において分子疫学解析を実施した。日本脳炎ウイルスの一部は日本本土に土着しているが、多くは東南アジアから中国を経由して日本に飛来している。1990年以降には東アジア全域で遺伝子型が入れ替わる現象 (Genotype shift) が観察されたが、日本でも従来のⅢ型が姿を消し、飛来しているウイルスは遺伝子型Ⅰ型のA群ウイルスのみである平成25年度もこの状況が続いている。

2) デングウイルスの分子疫学解析

平成24年度に引き続き、アジア各国でウイルスを分離して分子疫学解析を実施した。ベトナム、フィリピン、バングラデシュ、ミャンマー、ケニアでのデングウイルスを分離して遺伝子解析を実施した。またベトナムでは脳炎患者の髄液からデングウイルスが分離され現在解析を実施している。

3) ベトナムでのコウモリに生息するウイルスの調査

コウモリは多くのウイルスの保有動物として知られており、ベトナムの熱帯雨林に生息するコウモリの調査を実施している。平成25年度も長崎大学ベトナム拠点、およびベトナム国立衛生疫学研究所の協力のもと、調査地域を拡大し捕獲した種々のコウモリから血液を採取して血清疫学調査を実施し未同定のウイルスを分離し、遺伝子解析を実施しており新種のヘルペスウイルスを発見した。

4) 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) ウイルスの調査

平成25年1月、日本にSFTSウイルス患者が発生していることが明らかになり、長崎を中心に、ヒト、野生動物、マダニの調査を実施した。その結果、患者周辺には不顕性感染者は発見されずマダニからもウイルスは分離されていない。しかしながら野生動物(イノシシ)およびイヌからは抗体陽性例が確認された。地域の感染リスクを明らかにするため現在も調査を継続している。

II. 迅速診断法とウイルス同定手法の開発

1) LAMP法を用いた迅速診断法の開発

平成25年度も前年度に引き続き、熱帯ウイルスや新興感染症ウイルスの迅速診断法の開

発を実施した。LAMP法は我が国で開発された迅速、簡便な遺伝子増幅技術である。この手法を用いて本教室ではこれまでに、ウエストナイルウイルス、リフトバレー熱ウイルス、チクングニアウイルス、日本脳炎ウイルス、ダニ媒介性脳炎ウイルス等の診断法を開発し発表してきたが、平成25年度には黄熱病ウイルスのシステムを開発しその有効性を確認して発表した。

2) 質量分析手法やメガシーケンサーによるウイルス網羅的な迅速同定手法の開発

ウイルス学分野が実施している熱帯地域の動物、昆虫が保持するウイルスの調査においては、多くのウイルス株が分離され、当教室で開発した、安価な網羅的迅速同定法であるnLC/MS質量分析によるプロテオーム解析手法やメガシーケンスを応用した網羅的な同定手法の研究をおこなった。

3) 黄熱病とリフトバレー熱の迅速診断法の開発

JICAとJSTとが共同して実施する国際研究事業である地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS)「ケニアにおける黄熱病およびリフトバレー熱に対する迅速診断法の開発とそのアウトブレイク警戒システムの構築」を継続した。この事業は熱帯医学研究所とケニア国立中央医学研究所とが共同して黄熱病とリフトバレー熱のイムノクロマト法を用いたPoint of Care (POC) Testや携帯電話網を用いた早期警戒システムの構築のための研究開発を実施している。

Ⅲ. ウイルス病原性の解析

1) 日本脳炎ウイルスのトリでの高増殖性の分子基盤の解明

日本脳炎ウイルスは自然界ではトリを宿主としている。ウイルスはトリで高増殖し蚊へのウイルスの供給源となるためにウイルス非構造蛋白質NS1をトリ細胞ではリボゾームフレームシフトというメカニズムで本来のNS1よりも大きなNS1'という蛋白質が合成されウイルス遺伝子の増幅を増加させることで生産ウイルス量を増加させていることを発見した。種特異的なウイルス高増殖メカニズムの1つとして注目された。

2) デングウイルスの病原性の解析

デングウイルスはヒトの体内では高い増殖性を示し媒介蚊へのウイルス供給源となっている。一方、ヒト以外の動物ではウイルスの増殖は低く、また症状もしめすことはない。この研究ではヒト細胞や霊長類培養細胞を用い、細胞レベルで感染伝搬性を日本脳炎ウイルスと比較することで、ヒトでの高増殖性の分子レベルでの要因を探索している。昨年までの研究で、デングウイルスがヒト細胞においてインターフェロンを抑制することで高い増殖性を獲得していることを明らかにしたが本年度はこれがウイルス特異的dsRNAが粗面小胞体にウイルス特異的に形成される小胞内に隠されることにより、細胞内の自然免疫系

のRIG-I等のウイルス検知システムを回避する結果であることを証明した。

IV. ワクチン、抗ウイルス薬の開発

1) フラビウイルス治療薬の開発

デングウイルスや日本脳炎ウイルスの治療薬開発を目指して、ウイルス粒子表面の細胞接着に関与する糖鎖構造類似物質による感染防御の研究を中部大学鈴木博士と静岡県立大学薬学部の左博士らと共同で開発している。平成25年度はこれに加えて、アステラス製薬や東京工業大学とのコンソーシアム研究を開始してウイルスのプロテアーゼとポリメラーゼ等を標的とした抗ウイルス薬の開発を開始した。

2) 西ナイルウイルスワクチンの開発

(財)阪大微研究会との共同で西ナイル熱ワクチンの開発を実施している。これまでにニューヨークで分離された西ナイルウイルス株を種株としてGMPを満たす環境下で活化ワクチン候補を作成しその有効性をマウスを使った系で確認するとともにGLP試験を完了して研究開発を継続している。

V. WHO研究協力センターとしての活動

アジアの開発途上国からフラビウイルスの診断に関する研修生を受け入れた。本年度はセンターの更新年度であり、WHOによる審査の結果、「熱帯・新興ウイルス感染症」に関する研究協力センターとしての更新が決定された。

4. 2 新興感染症学分野

当分野では、エボラウイルス、マールブルグウイルス、南米出血熱ウイルスなどアフリカや南米でアウトブレイクを繰り返す出血熱ウイルスや西アフリカで常在化しているラッサウイルス、世界的な流行を引き起こすインフルエンザウイルス、そして最近我が国でも発症者が報告されて問題となっているSFTS(重症熱性血小板減少症候群)ウイルスなど重篤な疾患を引き起こす高病原性ウイルスに注目し、これらのウイルスに対する抗ウイルス戦略の確立に資する研究を進めている。また、農林水産省等からも競争的資金を獲得し、内在性レトロウイルスやウシのウイルス感染症に関する研究にも取り組んでいる。

本年度は、11月に弘田幸子、12月に宇野有紀子、2月に岡田沙弥香が産学官連携研究員として当分野に加わった。

I. ウイルス出芽機構の解明

ラッサ熱の原因ウイルスであるラッサウイルスの粒子形成に重要なウイルスマトリクスタンパク質のドメインおよび宿主因子を明らかにした(論文投稿中)。また、SFTSウイルスの増殖に細胞内コレステロールが重要な役割を果たすことを明らかにした(論文投稿中)。

II. 抗ウイルス活性をもつ細胞性因子Tetherin/BST-2の解析

Tetherin/BST-2(以下Tetherin)は様々なエンベロープウイルスに対して抗ウイルス活性をもつインターフェロン(IFN)誘導性の細胞性因子である。重篤な出血熱を起こすクリミア-コンゴ出血熱ウイルスのモデル系として同じナイロウイルス属のハザラウイルスを用いて解析を進め、Tetherinがこのウイルスに対しても抗ウイルス活性を示すことを明らかにし、更にI型IFNによるウイルスの増殖抑制に重要な役割を担っていることを英国PHEポートンダウン研究所との共同研究で明らかにした(論文投稿中)。この結果はTetherinがナイロウイルスの増殖を制御する有用な細胞性因子であることを示唆する。

また、より強力な抗ウイルス活性分子の人工デザインを目的としてTetherinの抗ウイルス活性の強弱に影響する分子構造の同定も行った(論文準備中)。

III. 病態モデル・感染モデル動物の作出

動物個体レベルでSFTSウイルスの感染・増殖機構や病態発現機序を解析するために、各種近交系マウス、ノックアウトマウスやトランスジェニックマウスを用いてSFTSウイルスの感受性と病態発現を解析し、感受性モデルおよび病態再現モデルの確立を進めている。

IV. 抗ウイルス剤の開発

リバビリン、IFN α 、S1P阻害剤がSFTSウイルスの増殖を抑制することを明らかにした(論文投稿中)。また、ラッサウイルスやエボラウイルスに対する抗ウイルス剤の候補となり得る化合物の探索も進めており、*in silico*スクリーニングや独自に開発したハイスループットスクリーニング(HTS)系を用いて化合物ライブラリーからの抗ウイルス活性物質の同定を行っている。

V. ナイジェリアにおけるラッサ熱の疫学調査

ナイジェリア大学研修病院との共同研究でナイジェリア南東部のラッサ熱疑い患者の疫学調査を行っている。過去6年間、遺伝子変異の少ない近縁のウイルス株が流行を繰り返していることを明らかにした。また、ラッサウイルス陰性の検体、病態の詳細についても解析を進めている。

VI. レトロウイルスに関する研究

Tetherin/BST-2を恒常的に発現する細胞株を樹立し、これらの細胞がワクチン・生物製剤に細胞由来の内在性レトロウイルスが迷入するリスクを軽減したワクチン・生物製剤作製用細胞株として有用であることを示した(PLoS One, 2013)。京都大学との共同研究でコアラレトロウイルスの感染性クローンの樹立およびウイルス出芽に関与する宿主因子の同定に成功した(J Virol, 2013; Microbiol Immunol, 2013)。

4. 3 細菌学分野

細菌学分野は熱帯地に蔓延または熱帯地から伝播される細菌感染症とその原因細菌に関する研究、とくに感染成立に関与する種々の病原因子の研究を展開している。

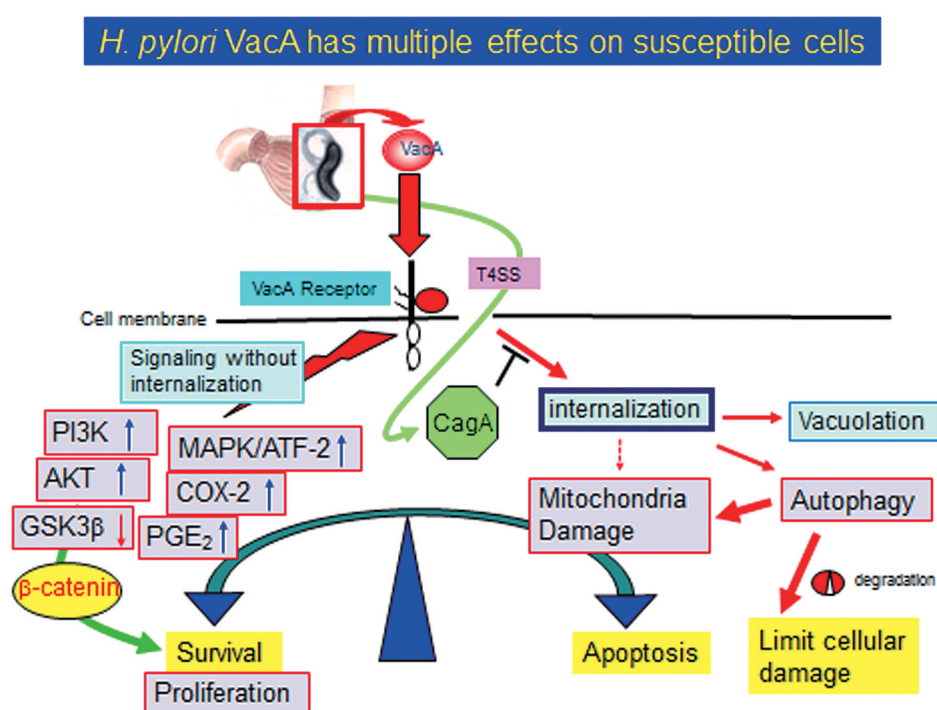
- 1) ヘリコバクター・ピロリ (Hp) は消化性潰瘍, MALTリンパ腫, 胃癌などの原因細菌であり, 熱帯地域を含む発展途上国においては20歳前に約80%のヒトが感染している。本菌の病原性について, 空胞化毒素VacAおよび4型分泌装置で宿主に注入されるエフェクター分子 CagAに焦点を当ててこれらの病原因子の感染における役割を解析している。

VacAが胃炎や胃潰瘍などの胃粘膜障害を引き起こすためには受容体型チロシンフォスファターゼRPTP β との結合が必須であることを明らかにした (Nat. Genet. 2003)。一方, VacAのみならずCagAが宿主ホスファターゼを介して毒性発現に至る情報伝達を行っているにもかかわらず, 感染におけるこれら2つの主たる病原因子の相互の働きが明確ではない。そこでHpが産生するこれら2つの主たる因子が及ぼす互いの影響を究明し, Hpの持続感染が引き起こす広範多岐な疾患との関連を説明する分子基盤とすることを現在の目的としている。その結果, VacAの新規な宿主受容体としてlow-density lipoprotein receptor-related protein-1 (LRP1)を同定し, このLRP1を介してオートファジーを誘導することを明らかにした (J Biol Chem. 2012)。この知見はLRP1がオートファジー誘導に機能することを示す初めてのものであった。一方, LRP1は腫瘍マーカーでもあるCD44と結合していることやCagAがVacA依存的なオートファジーによって分解され, 加えて, ある種のCD44を発現している胃癌幹細胞ではVacA依存オートファジーによるCagAの分解が抑制されており, このような細胞から発癌へのプロセスが進められることを示した (Cell Host Microbe. 2012)。CagA自体もVacAの細胞内移行を阻止することも明らかにしている(実に複雑巧妙な仕組みと考えている。Dis Model Mech. 2010)。かかる事実, ピロリ菌感染症でのVacAが消化性潰瘍などの発症のみならず, 発癌蛋白であるCagAの機能とも密接に関連していることを示している。

2) サルモネラエンテロトキシンStnについての構造と機能を調べている (Dis Model Mech. 2012)

教授	平山 壽哉
講師	和田 昭裕
助教	中野 政之
研究支援推進員	前田 香代

図の説明：ヘリコバクター・ピロリが産生するVacA毒素の多様な毒性発現



4. 4 原虫学分野

金子修が着任して7年目を迎えた。4月にはラッキー・アムザが博士課程教育リーディングプログラムの一期生に進学した。5月には東京医科歯科大学博士課程大学院生の加賀谷渉が協力研究員として分野に参画した。7月には田中玲子が技能補佐員として復帰するとともに、本年度に熱帯医学研修課程を修了した竹田美香が研究支援員として参加した。三日熱マラリア原虫の培養の研究に従事していたパンパディット・サンサヤラートは10月に退職し、平成26年1月に着任したキッティサク・タナションが実験を引き継いだ。11月には、米国コーネル大学医学部から分子疫学分野の客員教授としてトーマス・テンブルトン博士が着任し、原虫学分野の

一角で研究を始めた。ペドロ・フェレイラは12月にシンガポール南洋工科大学へ転出し、技能補佐員の松尾佳美が3月で退職した。10月には分子寄生虫学・マラリアフォーラムを、2月には第3回感染症若手フォーラムを長崎にて開催した。

I. マラリアに関する研究

1) マラリア原虫の赤血球侵入分子機構

矢幡一英とジョー・ムトゥンギは赤血球侵入中のネズミマラリア原虫を観察するために、ネズミマラリア原虫のメロゾイトを精製する条件を検討し、超解像顕微鏡による侵入関連分子の局在解析を行った。また、ムトゥンギはネズミマラリア原虫の赤血球侵入関連分子RON5に関する解析結果を第83回日本寄生虫学会大会等で発表した。金子はネズミマラリア原虫EBLについて、鳥取大学の大槻均博士との共同研究による第3-5領域の機能解析の結果を第83回日本寄生虫学会大会にて発表した。また、米国国立衛生研究所のXin-zhuan Su博士および熱研共同研究室マラリアユニットのRichard Culletonとの共同研究として行われた、以前に報告した系統とは異なるネズミマラリア原虫系統間の遺伝子交配実験によっても、EBL遺伝子座が増殖速度や病原性と関連していることを示す結果を得た(Genes Immun 15(3):145-52, 2014; 第12回あわじしま感染症・免疫フォーラム等)。麻田正仁はネズミマラリア原虫の赤血球侵入機構の解析に向けたテトラサイクリン発現調節システムの開発を開始した。矢幡は東海大学の木村啓志博士と、マラリア原虫の赤血球侵入を効率よく観察することができるデバイスの開発を継続した。金子はネズミマラリア原虫を三日熱マラリア原虫の赤血球侵入のモデルとする共同研究を韓国Kangwon大学のEun-Taek Han博士と開始した。また、金子は第86回日本生化学大会の国際セッションに招待され、マラリア原虫の赤血球侵入に関する講演を行った。

2) マラリア原虫感染赤血球に発現する分子の機能解析

宮崎真也は熱帯熱マラリア原虫SURFINの赤血球内への輸送に関わる分子の同定を継続した。加賀谷渉はマラリア原虫分子がマウレル裂から赤血球膜に輸送される機序に関する研究を開始した。中国医科大学のXiaotong Zhu博士が客員研究員として7月から3カ月間滞在し、SURFINの輸送について研究を行った。金子は組換え部分Pf332を発現する熱帯熱マラリア原虫について、熱研共同研究室電子顕微鏡室の坂口美亜子との共同研究を継続した。また、国立感染症研究所の中野由美子博士との共同研究としてマラリア原虫のRab5bが原虫感染赤血球へ輸送されていることを見出した。金子は韓国Cheonanにて開催された韓国寄生虫学熱帯医学会主催によるシンポジウムにて、SURFINの感染赤血球への輸送について招待講演を行った。さらに、第36回日本分子生物学会年会にてワークショップを共同オーガナイズし、上述したSURFINの輸送等について発表した。

3) 三日熱マラリア原虫培養株の樹立およびサルマラリア原虫 *Plasmodium knowlesi* の培養

実用的な培養系が確立していない三日熱マラリア原虫の培養系の確立を目的に研究を進めた。サンサヤラートは必要な多くのプラスミドを構築するとともに、三日熱マラリア原虫人工染色体作製に必要な本原虫のセントロメア領域の機能を調べるための遺伝子組換えネズミマラリア原虫を作出した。サンサヤラートは、9月から2カ月間タイに出張し、三日熱マラリア原虫への遺伝子導入法の条件検討を行うとともに、熱帯熱マラリア原虫のリガンドを発現する三日熱マラリア原虫の作製を試みた。サンサヤラートを引き継いだタナシオンはセントロメア領域の機能解析を継続した。平成24年度に作製した三日熱マラリア原虫の遺伝子断片を有する組換え *P. knowlesi* をオランダから輸入したが、研究室内で培養を再開することができなかった。そのため、獨協医科大学の川合覚博士らと共同で *P. knowlesi* の培養条件を検討することとし、1カ月間、培養を継続することに成功した。金子は3月にマドリッドで開催されたゲイツ財団主催マラリア原虫培養コンソーシアム年会議にて進捗状況を報告し、今後の研究について協議を行った。

4) マラリア原虫のカルシウムシグナル

キショール・パンディーとフェレイラは、カルシウムセンサータンパク質を発現する遺伝子組換え熱帯熱マラリア原虫を用いて、細胞内カルシウム濃度に影響を与えることが知られている薬剤の本原虫への効果を検討し、第12回あわじしま感染症・免疫フォーラム等にて発表した。また、麻田らはバベシア原虫が赤血球から放出される際に見られるカルシウムイオンの動態についての共同研究を進めた。

5) マラリア原虫ガメトサイトの解析

ベトナムカンホア省カンフー地域で伝播している熱帯熱マラリア原虫と三日熱マラリア原虫の伝播の実態解明に向けて、ガメトサイト抗原の解析を継続した。矢幡はマラリア原虫ガメトサイト期におけるカルシウム分布と酸性オルガネラに関して国立感染症研究所の永宗喜三郎博士と共同研究を継続した。

6) 人獣共通感染症サルマラリアのヒトとサルでの感染ダイナミクス

中澤秀介とフェレイラ、金子は、共同研究室のCulletonらとマラリア原虫が感染した宿主の糞便中からPCR検出される原虫遺伝子の由来は肝臓ステージの原虫であることを示唆する研究成果を論文報告した(Int J Parasitol 44(7):467-73, 2014)。また、中澤はJSPSアジア・アフリカ学術基盤形成事業「マラリア伝播環境の変容と人獣共通感染性マラリアの出現の理解に向けた学際的研究」の最終年度にあたり、11月末にサルマラリアのシンポジウムを長崎にて開催し、現在までの研究成果と今後の方針について協議を行った。

7) マラリアに対する創薬と薬剤耐性の研究

上村春樹は世界各地域における熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺伝子を解析、比較して

いる。マラリア感染率の高いインドネシア・カリマンタン島の熱帯熱マラリア患者から得た *pfdhfr* と *pfdhps* 遺伝子の塩基配列を調べ、これまでに報告のない2種類のアミノ酸置換、PFDHPS K504TとI588Fが存在し、これらが薬剤耐性に強く関連していることを報告した(Malaria J 13:135 2014)。これらの変異が一般的に認められるのか、どのような広がりを示しているのか、解析を行っている。また、サンサヤラートと中澤、金子は、米国ペンシルバニア州立大学のLiwang Cui博士と共同で、東南アジアの熱帯熱マラリア原虫のATP6遺伝子の多型に関する解析結果を論文報告した(PLoS One 8:e59192, 2013)。フェレイラらはアルテミシニン耐性に関する総説を発表した(Trends Parasitol 29:318-320, 2013)。

8)マラリア原虫抗原の抗原性と多様性に関するフィールド調査研究

タイ・ナレスワン大学のティップワン・スンカポン博士が客員研究員として6月から2カ月滞在し、研究に従事した。金子はスンカポン博士とタイ・カンボジア国境の病院を11月に訪問して共同研究の打ち合わせを行った。ケニアにおける熱帯熱マラリア原虫抗原の抗原性と多様性に関する研究のため、ケニアから論文博士候補者であるマウント・ケニア大学のジェッセ・ギタカが9月末から2カ月間来日した。金子は研究打ち合わせと現地視察のため、1月末にケニアに出張した。

II. トリパノソーマ原虫に関する研究

上村は「化合物ライブラリーを活用した創薬等最先端研究・教育基盤の整備」(長崎大学代表:植田弘師教授)を介して東京大学創薬オープンイノベーションセンターの所有する化合物ライブラリーを用いた *Trypanosoma cruzi* トランスシアリダーゼの阻害剤スクリーニングを申請し、9600のコアライブラリーの提供を受けてトランスシアリダーゼに対する阻害活性を測定した。蛍光ラベルしたシアル酸誘導体基質を用いた一次スクリーニングにおいて、幾つかの化合物に阻害活性が認められた。これら化合物及び類似化合物を用いての確認実験を行い、原虫の生活環における効果、影響を調べる計画である。上村は久留米大学の井上雅広博士と共同で、*Trypanosoma brucei* の14-3-3分子がヘテロ二量体を形成して細胞周期制御に関与していることを論文報告した(J Biochem 153: 431-439, 2013)。また、麻田は、帯広畜産大学の井上昇博士と共同で、上鞭毛期 *Trypanosoma congolense* 特異的に発現するタンパク質のシス・エレメントについて論文報告した(Mol Biochem Parasitol 191: 36-43, 2013)。

III. バベシア原虫に関する研究

麻田は帯広畜産大学の玄学南博士と共同で、犬の *Babesia gibsoni* の2-Cysペルオキシレドキシンをクローニングし論文報告した(J Vet Med Sci 76:139-43, 2014)。また、*Babesia*

bovis のチオレドキシンペルオキシターゼが活性窒素種負荷に対する感受性に関与していることを示す研究成果を第156回日本獣医学会学術集会等で発表した。麻田と帯広畜産大学の河津信一郎博士との共同プロジェクトが「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」に採択され、研究を開始した。韓国から産学官連携研究員としてLee Seongkyunが12月から3カ月来日し、研究に従事した。

IV. リーシュマニアに関する研究

パンディーとフェレイラ，金子は内臓リーシュマニア症の分子疫学を簡便に行う手法を論文発表した(Am J Trop Med Hyg 90(6):1082-6, 2014)。

V. その他の国際活動

上村は熱研のケニア拠点およびインドネシア・アイルランガ大学と，中澤はベトナム・カンホア省のカンフーマラリア研究センター等，金子はタイのマヒドン大学や米国の南フロリダ大学といった種々の国外研究機関とマラリアに関する海外共同研究を継続した。矢幡は9月下旬に米国ウッズホールで開催されたMolecular Parasitology Meetingに参加発表するとともに，ハーバード大学を訪問し，研究について討論した。金子は米国国立アレルギー感染症研究所が進めているInternational Centers of Excellence for Malaria Research (Southwest PacificおよびSoutheast Asia地区)の科学諮問委員会委員に着任し，また，学術誌PLoS Oneの編集委員を始めた。

4. 5 寄生虫学分野

本分野は世界的に重要な住血吸虫症・フィラリア症ならびに腸管寄生虫症などの蠕虫疾患，多くの人々を苦しめているにもかかわらず顧みられることの少ないアメーバ赤痢・リーシュマニア症・トリパノソーマ症などの原虫疾患に対してフィールド・ラボ双方向からのアプローチを試みている。

平成25年2月から中村(園田)梨沙がリーディング大学院の特任助教として本分野に配属となった。7月にはエジプトのSouth Valley Universityの大学院生であるEman Sayed Mohammed Hassanが2年間の予定で本分野へ参入した。7-12月の期間，山口大学・医学部3年生の宮本翔太が「自己開発コース」の一環として本分野にて研究を行い，ケニアのフィールド拠点を訪問した。10月1日，森保妙子とSharmina Deloerが「熱帯病・新興感染症制御グローバルリー

ダー養成プログラム」のもと、博士課程学生として入学した。また、出産・育児のため昨年11月30日付で一旦退職していた高屋知子が10月1日付で本分野に再参入した。10月3-5日、長崎ブリックホールにおいて第54回日本熱帯医学会大会（平山謙二大会長）を開催した。同月、日本学術振興会・頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラムに申請していた『住血吸虫症の多角的な調査を通したフィールド志向型熱帯感染症専門家の強化育成事業』が採択され、同事業が船出した。熱帯医学修士課程学生の Maurice Amulundu が本分野へ配属された。技術補佐員・小田裕美が10月11日付で退職した。研究支援推進員・林田昌子が任期満了に伴い3月31日付で退職した。

I. 住血吸虫症に関する研究

平成25年度は、ケニア中央医学研究所 KEMRI において承認されている研究計画に基づき、Mbita, Kwale での研究を進めると共に、Dr. Njenga (ESACIPAC, KEMRI) の研究グループ、新潟大・松本（結核）グループ、国立感染症研究所などとの共同研究体制を維持・強化した。また、頭脳循環プログラム『住血吸虫症の多角的な調査を通したフィールド志向型熱帯感染症専門家の強化育成事業』に基づき、病害動物学分野・免疫遺伝学分野、ならびにケニア・マセノ大学との連携を進めた。さらに、疫学調査結果の解析・論文執筆を進めると共に、マンソン住血吸虫の診断用抗原の探索・構築を進めた。

ラボではマンソン住血吸虫の感染モデルを用いた研究を進め、肝臓内にユニークな免疫細胞集団が誘導され、その増加に IL-18 が関与することを見いだした。また、福岡大学との共同研究によりマンソン住血吸虫感染が糸球体腎炎の病態を修飾することを見出し、それぞれに関して論文執筆を進めた。

II. フィラリア症ならびにその他の蠕虫疾患に関する研究と国際貢献

5月17-19日にかけてWHO本部において開催された Informal Core-Group Meeting on Lymphatic Filariasis Morbidity に参加・討議した。ラボでは、マレー糸状虫 *Brugia malayi*、パハン糸状虫 *B. pahangi* および糸状虫の媒介蚊であるネッタイシマカ *Aedes aegypti* を継代維持するとともに、小腸寄生線虫 *Heligmosomoides polygyrus* の感染実験系を構築し研究を進めている。

III. アメーバ赤痢およびリーシュマニア症に関する研究

バングラデシュはダッカの ICDDR, B. と共にアメーバ赤痢に関する研究を継続すると共に、ムクタガサにおいて ポスト カラ・アザール皮膚リーシュマニア症 PKDL の共同研究を開始した。

4. 6 分子疫学分野－外国人客員

My (Professor Thomas Templeton) interests include a broad range of molecular and cellular studies of the malaria parasite, *Plasmodium*, as well as comparative genome annotations of related protozoan pathogens. A general focus centers on parasite-encoded cell surface proteins which confer recognition of and interaction with host tissues and cells. These basic biological characterizations seek to support evaluation of new vaccine candidate antigens. My published work includes studies spanning the malaria parasite lifecycle, including manuscripts describing the biology of intraerythrocytic, gametocyte, mosquito and liver stage parasites. Research topics being pursued at NEKKEN in the laboratory of Osamu Kaneko strive to determine how the malaria parasite remodels its host erythrocyte following invasion, via a repertoire of parasite-encoded proteins that are trafficked to the cytoplasm and surface of the host erythrocyte. This past year we have been collaborating on comparative studies of erythrocyte infection by malaria parasites, using the primate malaria, *Plasmodium knowlesi*. Specifically, we are interested in describing parasite modifications of the host erythrocyte via immunolocalization of marker proteins which we have identified in bioinformatic comparison with the human malaria parasite, *Plasmodium falciparum*. In a second project I have been adapting the TET on/off system for tetracycline-mediated down-regulation of malaria parasite genes involved in invasion and modification of erythrocytes. In this manner we hope to "knock-down" expression of essential genes, which have previously been shown to be resistant to gene disruption, and thereby characterize their phenotype in videomicroscopic studies of erythrocyte invasion. These studies will utilize the rodent malaria parasite model, thus again highlighting the value of comparative studies in illuminating *Plasmodium* biology. In a third project at NEKKEN I recently completed annotation of the protozoan *Chromera velia*, in collaboration with Arnab Pain (Kaust University, Saudi Arabia). This protozoan is of interest as a representative of the adaptation of free-living organisms to the parasitic phylum Apicomplexa, which includes the malaria parasite, as well as other pathogens such as *Toxoplasma*, *Cryptosporidium* and *Babesia*.

4. 7 免疫遺伝学分野

2013年はマラリア, シャーガス病, デング熱の免疫遺伝学的な研究を各グループに分かれて推進した。2012年度で終了したGCOEプログラムの大きな成果となった新たなナノ粒子による免疫増強マラリアワクチンについて, 大学病院薬剤部佐々木研との共同研究を進めている。ま

た科学研究費(A)で継続しているボリビアにおけるシャーガス病の研究は2014年まで持越して研究することとなったが、ベンズニダゾールによる15歳以下の小児の治療を続け、副作用の有無、治療効果についてデータを収集している。デング熱に関するベトナムとの共同研究も進行中で、J-GRIDの成果としての論文をベトナム研究者との共著で出版した。以下に主な論文を紹介する。

I. マラリア

- Bao LQ, Huy NT, Kikuchi M, Yanagi T, Senba M, Shuaibu MN, Honma K, Yui K, Hirayama K. CD19(+) B cells confer protection against experimental cerebral malaria in semi-immune rodent model. PLoS One. 2013 May 28;8(5):e64836. doi: 10.1371/journal.pone.0064836. Print 2013.

筆頭著者のBaoはGCOEプログラムの特別大学院生で、その成果として繰り返し感染マウスB6が脳マラリア発症に抵抗性へと表現型を変える免疫学的なメカニズムとして、T細胞ではなくB細胞の分画に抵抗性を付与する活性のあることを細胞分画の受動移入実験で証明した。B細胞の新たな免疫制御における役割を示唆したものである。

- Helegbe GK, Huy NT, Yanagi T, Shuaibu MN, Kikuchi M, Cherif MS, Hirayama K. Anti-erythropoietin antibody levels and its association with anaemia in different strains of semi-immune mice infected with Plasmodium berghei ANKA. Malar J. 2013 Aug 27;12(1):296.

筆頭著者のGideonは教室で博士号取得後、母国のガーナに帰国しさらに地元の大学でマラリア研究を継続している。本論文では、繰り返し感染治療3回後のチャレンジ感染後の貧血が、抗エリスロポイエチン（抗エポ）抗体価の程度と相関すること、さらにこの自己抗体の血清レベルが近交系マウスの系統により異なることを明らかにした。マラリア感染による自己抗体の重要性を示唆した。

- Huy NT, Shima Y, Maeda A, Men TT, Hirayama K, Hirase A, Miyazawa A, Kamei K. Phospholipid membrane-mediated hemozoin formation: the effects of physical properties and evidence of membrane surrounding hemozoin. PLoS One. 2013 Jul 23;8(7):e70025. doi: 10.1371/journal.pone.0070025. Print 2013.

マラリアの栄養源となるヘモグロビンの消化は食物胞Food vacuoleで行われ、大量の毒性の強いヘムが産出される。ヘムは無毒のヘモゾインという重合体に変化するが、このプロセスにリン脂質の膜成分が促進剤として働くことを明らかにした。

- Bodi JM, Nsibu CN, Longenge RL, Aloni MN, Akilimali PZ, Tshibassu PM, Kayembe PK, Omar

AH, Hirayama K, Verhaegen J. Blackwater fever in Congolese children: a report of clinical, laboratory features and risk factors. *Malar J*. 2013 Jun 15;12:205. doi: 10. 1186/1475-2875-12-205.

筆頭著者のBodiはコンゴ共和国の医師で、長崎の熱帯医学修士を修了後自国のキンシャサ大学医学部で博士課程の修業を継続している。そのテーシスの一部として本論文を出版した。コンゴではプリマキンのような溶血を引き起こす薬剤の投与以外でもマラリア感染に際して全身的な溶血によりいわゆる黒水病（尿が真っ黒になる）が数多く見られる。これらの患者の臨床データをまとめ、危険因子についてまとめマラリアジャーナルに出版した。

II. シャーガス病

- Del Puerto F, Kikuchi M, Nishizawa JE, Roca Y, Avilas C, Gianella A, Lora J, Gutierrez Velarde FU, Hirayama K. 21-Hydroxylase gene mutant allele CYP21A2(*)15 strongly linked to the resistant HLA haplotype B(*)14:02-DRB1(*)01:02 in chronic Chagas disease. *Hum Immunol* 74 (2013) 783-786

ボリビアサンタクルーズ県の慢性シャーガス病患者300名は、無症候群、心臓シャーガス群、巨大結腸症群の3群に分けられた。合併症群ではいずれも無症候群に比べHLA-DRB1*01-B*14というハプロタイプが顕著に減少していることがわかった。このハプロタイプは以前から自己免疫病などとの関連を指摘されており、その理由の一つとしてHLAクラス3領域の21脱水素酵素に変異のあることが知られている。300名の患者についてこの変異と合併症などの関わりについて考察したが、HLAB14の相関を凌駕するような関連はなかったため、抵抗性を付与する真の遺伝子座の特定には至らなかった。

III. デング熱

- Huy NT, Thao NT, Ha TT, Lan NT, Nga PT, Thuy TT, Tuan HM, Nga CT, Tuong VV, Dat TV, Huong VT, Karbwang J, Hirayama K. Development of clinical decision rules to predict recurrent shock in dengue. *Crit Care*. 2013 Dec 2;17(6):R280.

ベトナムで多数観察された再発性デングショック症候群の患者を初回のショック時に予測するためのルールを作成するために、2003年から2008年にかけて観察されたケースとコントロールの後ろ向き研究を行った。その結果、入院期間の短さ、血小板減少の程度、などが最も大きな因子となること。さらにそれらを使った計算式を用いれば再発をある程度予測できることを報告した。

- Huy NT, Van Giang T, Thuy DHD, Kikuchi M, Tran TH, Zamora J, Hirayama K. Factors Associated with Dengue Shock Syndrome: A Systematic Review and Meta-Analysis. PLoS Negl Trop Dis 2013 September 27; 7(9): e2412.

デングショック症候群のリスク因子に関するメタ解析を行い、数種の重要な臨床データを同定することができた。

- Ngwe Tun MM, Thant KZ, Inoue S, Kurosawa Y, Lwin YY, Lin S, Aye KT, Thet Khin P, Myint T, Htwe K, Mapua CA, Natividad FF, Hirayama K, Morita K. Serological characterization of dengue virus infections observed among dengue hemorrhagic fever/dengue shock syndrome cases in Upper Myanmar. J Med Virol. 2013 Apr 17.

熱研ウイルス分野森田教授との共同研究で、ミャンマーでのデング患者の重症化に関する臨床研究結果の解析を行った。

4. 8 生態疫学分野

当分野は、フィールドからの情報収集と情報収集プロセスの研究開発を通して、地域における保健と健康を自然、社会、文化、生活など周囲の環境と一体化した一つのシステムとして捉え、相互の関係や影響を複合的に解明し、保健医療・公衆衛生の問題を解決することを目指した研究を進めている。また、長崎大学大学院国際健康開発研究科（修士課程）とも連携し、国際的に活躍する若手の公衆衛生専門家の育成に取り組んでいる。

【研究活動】

I. Health and Demographic Surveillance System (HDSS)を基盤とした各種研究

Health and Demographic Surveillance System (HDSS)とは、住民登録や人口の動態（婚姻、出生、死亡、移動）を把握する仕組みのない「ある限られた地域」において、住民登録を行い、その動向を系統的かつ継続的に行う仕組みのことを言う。ミレニアム開発目標やその他の支援活動が増える中、地域を基盤とした健康・保健情報が不足する中、安定して人口保健統計情報を収集する仕組みとしての価値が世界的に高まっている。当分野では、HDSSを展開する地域において、乳幼児のコホート研究（「アフリカにおける地域特性を考慮した乳幼児の健康改善モデル構築に関する疫学研究」 科学研究費補助金海外基盤A（252575030001）：研究代表 金子 聡）を実施している。

ラオスにおいては、2010年より、当分野と人間文化研究機構 総合地球環境学研究所との共

同事業により、HDSSを展開しており、感染症以外にも母子保健、小児栄養研究などの研究基盤として、利用されている。また、開発途上国における調査・研究で問題となる個人同定の不確定性を改善し、データの質、さらには、複数の情報ソースの連結性を高めることを目的に、ラオスのHDSSにおいて、静脈認証装置の導入に関する実証試験を、長崎大学情報メディア基盤センター上繁義史准教授ならびに(株)日立製作所とともに行っている。

II. 多重感染症の一括診断法の開発

社会システム改革と研究開発の一体的推進（旧科学技術戦略推進費）「途上国におけるイノベーションを促進する国際協力の戦略的推進」、プロジェクト名「貧困層を中心とする複数感染症の一括・同時診断技術開発のアフリカ拠点整備とその技術を用いた多種感染症の広域監視網と統合的感染症対策基盤の構築」（研究代表者 長崎大学理事「調 漸」）の技術開発並びにフィールド調査の実働部隊として活動し、技術の有用性についての論文を発表した(Fujii et al, 2014)。

III. スリランカにおける感染症・非感染症研究の展開

スリランカにおけるデング熱予防対策に関する衛生環境改善活動の評価並びに昨今問題となっている非感染症疾患（NCD）に関する公衆衛生学的アプローチに関する活動を開始した。

4. 9 国際保健学分野

当分野の研究は、1)「生態系と感染症」の関係を研究するユニット、2)「環境や気候変動と感染症」の関係を研究するユニット、3)「時間軸のなかでの感染症」を再構築し研究するユニット、4)「歴史感染症学」を研究するユニットに大きく分かれる。そうした研究ユニットを貫く共通概念を、「空間軸」と「時間軸」に置く。空間的広がりと時間的広がりの中で、感染症流行の様相を比較し、その多様性を理解する。あるいは、そうした広がりの中における、微生物の遺伝的多様性を、適応・進化といった側面から理解することを目指す研究である。具体的には、実地疫学、分子疫学、統計・数理モデリング、微量DNAの検出技術、次世代シーケンサー、バイオインフォマティクス、分子進化学を駆使し、多種多様なアプローチによって解析の糸口を探る。このような自然科学研究に、文献資料に基づく歴史学的アプローチを加え、双方が共通の課題に取り組むことで、生物と社会の関係について広く理解することが可能となる。

もうひとつの柱である社会貢献は、分野の特性から国際貢献を行うことを目指す。企業に「企業の社会的責任（CSR: Corporate Social Responsibility）」という言葉があるように、大学にも社

会的責任があると考え。当分野における社会的責任の一つが、国際貢献であると考え。そのために、以下の3つのことを行う。第一に政策提言、第二に現場における開発協力、第三に緊急援助等である。こうした取り組みを通して国際社会への貢献を行う。

【研究活動について】

I. 病原体の分子進化，感染自然史

1) STLV-1の感染自然史

ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1）に近縁なサルT細胞白血病ウイルス（STLV-1）の感染自然史の解明を目指している。これまでに得られた疫学情報の分析から、群によっては陽性率がしばしば50%を超えることが明らかとなり、さらに、HTLV-1とは異なり、母子感染よりも性成熟以降の水平感染によって高い陽性率が維持されている可能性が示唆された。宿主の変化によって病原体の伝播・拡散戦略はダイナミックに変化し、病原性さえも変化する。本課題ではHTLV-1とSTLV-1をそうした変化を知るための1つのモデルとして捉え、その違いをより詳細に調べていく。

2) 動物感染症，人獣共通感染症の循環と生態学的理解

病原性の獲得は本質的には生物戦略であり、自然環境下における宿主と病原体の関係がどのような生態的バランスにおいて発生、変化しているのかを理解することが重要である。ヒトの病原体と自然環境の接点是人獣共通感染症にあり、さらには野生動物において循環・定着している感染症とその病原体を知ることが、そうした現象理解への新たな糸口になる。本課題では、抗酸菌種や下痢原性大腸菌群の病原遺伝子、宿主スペクトルおよびその病原性を研究対象とし、途上国との連携やフィールド調査、症例分析を通して病原体の分離同定、遺伝的多様性解析を行っている。

3) 日本における結核菌の遺伝的特異性とその来歴

結核菌は結核患者の咳などによって拡散する病原体である。結核菌には複数の系統群が存在しており、それぞれの系統群が地域特異的に定着している。東アジアでは「北京型」と呼ばれる系統群が定着しており、わが国では分離株の約8割が同群に属している。この中で、「祖先型」と細分類された亜系統群は日本において優先的に分離されることが知られているが、周辺国を含めて分離例が少ないことから、日本固有の疫学的背景や何らかの適応進化がその理由として考えられる。本課題では、現代株の比較ゲノムと分子進化、過去の結核患者の古病理標本を材料とした微量DNAの調査分析、歴史的調査といった多角的アプローチにより、日本における結核菌のルーツと履歴を検証し、さらにはそれが現代に及ぼす影響を探る。

4) 文献史料を用いた感染症の流行史

文献史料から得られるデータを用いて過去数百年における日本の感染症流行状況の再現を行う。対象となるのは、江戸時代の天然痘、明治時代のコレラ、戦前から戦後にかけての結核、戦後直後の三日熱マラリアなど、日本社会に多大な影響をもたらした事例である。過去の感染症流行については、これまで、歴史学ないしは社会経済史などの領域で、文献史料のみを用いた人文・社会科学的手法により研究されてきた。本分野では、天然痘については数理疫学による伝播パターンの追求、結核については遺伝型別に基づく結核菌の分子疫学研究などを、文献史料の分析と合わせて用いることで、過去の感染症流行の実態に迫ることを目指している。

II. 寒冷高地への適応と生活習慣病に関する疫学研究

中国西北部(四川省, 青海省, チベット自治区)およびネパール北部の海拔3500mを超える高地居住者の間で問題となっている肥満, 糖尿病, 高血圧などの生活習慣病が, どのような原因に基づくものであるのかを疫学的に解明することが目的である。

長期的な視野に基づき, 次の二つの点から本問題にアプローチしている。第一に, 伝統的に継承されてきた塩分多量摂取という歴史文化的適応が, 結果的に現代の生活習慣病を増加させる要因となっていないかという点である。第二は, 数千年に及ぶ高地居住のなかで蓄積された遺伝的变化, すなわち身体的適応と, 生活習慣病との関係である。これらについて, 現地住民の食生活調査および身体計測からデータを採取する。

本研究では, 高地居住者が, 歴史文化的および遺伝子的適応をどのように行ってきたのかを踏まえ, これらが生活習慣病を増幅させる要因となっていないかを疫学的に明らかにする。その上で, 高地居住者にとってどのような健康増進の方法が望ましいのかを考えたい。

III. 結核分子疫学に基づく伝搬経路推定

結核分子疫学は, 結核菌の遺伝的多様性をマーカーとして患者由来株の異同または相同性を判定し, 感染源や伝搬経路を推定することを目的とする。

本邦では, 東アジア地域の定着株である北京型結核菌において分解能が高いJATA(12)-VN-TR型別分析が標準法として有効であり, 地方衛生研究所(地衛研)を中心に普及が進められている。しかしながら, 数十年にわたる潜伏や患者の長距離移動など, 様々な理由のため遺伝多型解析のみでは結核の伝播経路の正確な追跡は難しく, 患者情報をはじめとした多様な疫学情報を駆使することが不可欠である。

当分野では, 1) 地衛研との連携に基づく実地疫学・遺伝多型情報の集積と活用の模索, 2) 次世代シーケンサーの活用と菌株間比較ゲノム解析による超精密な異同判定手法の確立,

3)統計数理モデリングによる実地疫学情報の高度活用を柱とし、結核菌伝搬経路の正確な推定と結核公衆衛生への還元を目指している。

4. 10 病害動物学分野

当分野では、主に病気を媒介する昆虫の生理、生態、分類及び防除について、フィールドを重視した研究を行なっている。特にケニアにおいては、マラリア媒介蚊の生態とその防除について、東南アジア、東アフリカ各地においては、デング熱媒介蚊を対象とする研究を実施している。また、25年度から、ケニアにおいて、住血吸虫症の中間宿主である貝の生態に関する研究を開始している。

I. マラリア媒介蚊研究

マラリア媒介蚊の研究は、主に、西ケニアにあるフィールドで実施している。西ケニアでは、住友化学と共同研究で1万2000人を対象とした、2種類の新型蚊帳(オリセツプラスと天井型オリセツ蚊帳)の効果試験を実施し、それぞれの新型蚊帳により、マラリア感染を半減できるなどの成果を上げている。上記試験を実施するにあたって、現地の状況を調べたが、子供は床で寝る傾向があり、床では蚊帳が張りにくく、感染リスクが高くなるなど、新たな知見を得ている。

さらに、殺虫剤付き蚊帳の普及後、急速に殺虫剤抵抗性が媒介蚊に広まっているとともに、殺虫剤の影響を受け易い屋内吸血性の媒介蚊の割合が減少し、屋外性の蚊の割合が増加していることを明らかにした。殺虫剤付きの蚊帳に代わる防蚊方法として、幼若ホルモンをもとにした新しい殺虫剤(成長抑制剤)の効果試験もフィールドで実施している。

一方、ビクトリア湖周辺地域での媒介蚊の増減は、湖の水位変化などの環境変化に密接に関わっていることを明らかにしている。また、気候変動とマラリア感染への影響について、小児感染症分野と共同で研究を進めており、気候をもとにした流行予測を目指している。そして、そのベースとなる蚊のサーベイランスシステムを構築している。

また、他大との共同で、ビクトリア湖に浮かぶ島のマラリア撲滅を目指す研究を推進している。

II. デング熱媒介蚊研究

デング熱媒介蚊生態研究においては、ベトナム北部ハノイにおいて、ネッタイシマカがコンクリートタンクの中で越冬するなど、今まで知られていない現象を明らかにしている。一方、東南アジア(ベトナム、フィリピン、タイ、ミャンマー)およびアフリカ(ケニア、マラウイ、

モザンビーク、ザンビア、ジンバブエ、ガーナ)で、媒介蚊の種構成、殺虫剤抵抗性、ウイルス感受性など、感染に重要なリスク因子について分析を行なっている。現地の防蚊対策および日本への侵入を防ぐための有益な情報が世界各地から集まりつつある。これらのデータは、媒介蚊の起源およびグローバル化に伴う蚊の移動などを推測する上でも重要な情報である。将来的にデング熱媒介蚊の広範囲なサーベイランスシステム構築を目指している。

Ⅲ. 住血吸虫中間宿主研究

西ケニア・ビクトリア湖周辺の村では住血吸虫の感染が非常に高く、重大な健康問題となっている。そこで、寄生虫学分野と共同で、住血吸虫症を対象とした新たな研究プロジェクトを立ち上げた。病害動物学分野では、中間宿主の貝の生態研究を担当し、湖内では、浮遊しているホテアオイに貝が付着して移動している等の新たな知見が得られている。

4. 11 臨床感染症学分野（熱研内科）

当分野では、熱帯地および国内の臨床現場で最も問題となる呼吸器感染症、エイズ・結核、熱帯感染症等の臨床研究を推進している。基盤となる病院ベースおよびコミュニティ・ベースの臨床疫学フィールドを、教室の臨床医を中～長期に派遣することで、主体的に立ち上げ、適正な研究デザインに基づき体系的に収集した質・量ともにレベルの高い情報と検体を蓄積させ、これらを核とし、患者とサイエンスをつなぐ学際的研究を実施してきた。当分野の最大の特徴は、長崎大学病院にて診療科（呼吸器・感染症内科）として日常的に診療を行っていることにある。国際医療センター 1 階内科病棟で、年間約260症例の入院患者を診療する他に、院内感染症内科コンサルタント業務を充実させた結果、年間院内紹介症例は、平成23年の232症例から平成25年度には380症例まで増加した。その殆どは、当該診療科では手に負えなくなった重症の感染症患者である。

I. 呼吸器感染症に関する研究

- ▶ 本分野で確立した鼻咽頭拭い液や喀痰から19種類の呼吸器病原体を包括的に同定できる検査方法 (Multiplex-PCR) をベトナムカンホア県や同地域総合病院および長崎市民病院小児科病棟に適用し、呼吸器感染症分野の種々の新たな学術的発見につながった。本年度は、他の呼吸器ウイルス重複感染がRSVウイルス感染による呼吸器感染症の重症化に関連することを長崎市民病院とベトナムカンホア病院のふたつのフィールドにて明らかにした(Yoshida, Eur Respir J 2013; Harada, Pediatric Infect Dis J 2013)。さらに、中部ベトナムにおける

Hibワクチン導入前の小児鼻咽頭におけるインフルエンザ桿菌の疫学的実態を明らかにした (Yoshida, J Pediatr 2013)。さらに、本年度は、カンホア県における成人肺炎を対象とした前向き研究を実施し、年間の成人肺炎罹患率が成人1000名あたり0.81症例であり、高齢者においてそれが明らかに上昇していること、またMultiplex-PCRを用いて成人肺炎においてインフルエンザ感染が高頻度に見られることが判明した (Takahashi, BMC Infect Dis. 2013)。

- ▶ ナノテクノロジーを応用し50種類の主要な肺炎球菌血清型を多検体同時に同定できる検査法を確立した (Dhoubhadel, J Med Microbiol. 2014)。本検査法は、全肺炎球菌数のマイナー群として存在する肺炎球菌血清型を高感度で定量的に検出できるため、異なる血清型に重複して定着している患者を容易に同定できる。今後は、肺炎球菌の血清型特異的流行状況を把握するため、国内外の臨床疫学研究へ適用し、肺炎球菌ワクチンの効果的な普及に役立てる計画である。
- ▶ 東日本大震災直後の救済活動に参加した鈴木助教が、気仙沼市立病院の医師から震災後発生した肺炎流行の実態解明を依頼されたことをうけ、複数の教室員を気仙沼市へ派遣し現地調査を実施した。震災直後3か月間に、肺炎による入院と死亡リスクが、それぞれ5.7倍(95% C.I. 3.9 - 8.4), 8.9倍 (95% C.I. 4.4 - 17.8) あがっていることが判明した。リスク因子解析から、震災後のストレスに加えて、日本の高齢化社会が肺炎流行の顕在化につながったと考えられた (Daito, Thorax 2013)。

Ⅱ. 呼吸器病学に関する研究

- ▶ 肺泡マクロファージによるアポトーシス細胞の貪食除去(efferocytosis)機能の低下が、肺気腫、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の病因において重要であることをこれまで研究してきた。COPDにおいてはhistone deacetylase (HDAC) 活性が喫煙により低下していることが分かっている。このHDACの活性低下が、efferocytosisをupregulateするRac1の活性を落とすことと、これによりCD9の発現が低下することがefferocytosisを抑制することを示した。喫煙によりefferocytosisが抑制され正常な炎症終息と組織修復が阻害され肺気腫、COPDに至ると考えられているが、このメカニズムの一部を解明する研究となった (Noda N, Int Immunol. 2013)。
- ▶ また、長崎における家族性肺線維症家系の原因遺伝子の同定から、これらの患者においても *SFTPC* の変異による小胞体ストレスが肺線維症の病因にどのように関与していることを2011年に発表した。このメカニズムとしてⅡ型肺泡上皮細胞における小胞体ストレスがアポトーシスを誘導することが知られているが、このアポトーシス誘導にはアンギオテンシンⅡの働きが重要であり、そのcounterregulatory peptideであるANG1-7でアポトーシスを抑制でき、治療につながる重要な知見であると考えられた (Uhal BD, Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2013)。

Ⅲ. エイズ・結核に関する研究

- ▶ タイ国立衛生研究所との共同研究として立ち上げた北タイのランパン病院におけるHIV感染者およびその配偶者を対象にしたコホート研究は、これまで3,706名の患者が登録され、2010年12月に追跡を終了した後も、これまでに蓄積された臨床データや検体を用いた学際的研究が推進されている。本年度は、抗HIV薬治療普及による死亡率への影響について長期にわたる臨床疫学データを発表した (Pathipvanich, Jpn J Infect Dis 2013)。
- ▶ フィリピン国立感染症病院 (サンラザロ病院) では、2009年10月から12月にかけて結核病棟へ入院したHIVに感染していない全結核患者 (407名) の入院時死亡を後ろ向きに調査しリスク因子解析を行ったところ、細菌性肺炎の合併が死亡リスクを4.5倍 (aOR 4.53, 95%CI 2.65-7.72) あげていることが判明した (Shimazaki, Int J Tuberc Lung Dis. 2013)。この結果をうけ、現在同病棟で前向き研究を実施し、Multiplex PCR等を用いて、死亡リスクをあげている病原体の解明を試みている。
- ▶ 結核予防対策に役立てる新たな結核感染診断系の確立を目指し、国立感染症研究所免疫部との共同で、結核患者において活動期に発現される結核抗原に加え、潜伏期の結核抗原に対する細胞性免疫反応をフローサイトメトリーにて評価した (Yamashita, Jpn J Infect Dis 2013)。現在、これらの結果を、多数検体を用いて確認するとともに、簡易法をフィリピンなどの結核蔓延国で適応させることを計画している。

Ⅳ. 熱帯感染症等に関する研究

- ▶ 中部ベトナム臨床疫学フィールドにおいて妊産婦の年齢別抗風疹抗体価から先天性風疹のリスクを予想した研究は、ベトナム保健省の風疹ワクチン導入の科学的根拠となった (Miyakawa, Vaccine 2014)。

Ⅴ. 免疫・炎症関連疾患の宿主要因に関する研究

- ▶ 全国実態調査により本邦における有病率推定と臨床症状の特徴を明らかにした、メンデル性遺伝性疾患である家族性地中海熱について、原因遺伝子である *MEFV* 以外に発症に影響する要因として、血清アミロイド蛋白A (*SAA1*) 遺伝子多型を同定し (Migita, PLoS One 2103 b), さらに *HLA* 多型の寄与の分析を進めている。また、国立病院機構長崎医療センターとの共同研究として自己免疫性肝疾患の遺伝要因の探索を行ない、I型自己免疫性肝炎の発症に *STAT4* 遺伝子多型が関与することを明らかにした (Migita, PLoS One 2103 a)。

4. 12 小児感染症学分野

I. 臨床疫学に関する研究

▶ ベトナム・カンホア県ニャチャン市における小児感染症研究 (J-GRID)

ベトナム国立衛生疫学研究所 (NIHE) との共同研究として、2006年、2010年にカンホア県全住民 (人口約35万人) を対象としたセンサスを行ない、人口・社会経済状態の他、急性呼吸器感染症 (ARI)、下痢症など小児感染症罹患に関する情報を収集した。また、2007年よりカンホア総合病院においてMultiple PCR法を用いてARI入院患者の病原ウィルスを同定するARIサーベイランスシステムを構築した。これらデータをもとに小児感染症データベースを作成し、これまで以下の解析を行った。

- 成人の市中肺炎罹患率及び起因病原体を明らかにした。(BMC Infect Dis 2013)
- RSVは小児下気道感染症の主な起因ウィルスであり、他のウィルスとの重複感染により重症度が高くなることを明らかにした。(European Respiratory Journal 2013)
- 2011年の風疹流行後に出生した先天性風疹症候群 (CRS) 38例をフォローアップし、1年以内の致死率が34%、死亡リスクとして肺高血圧との有意な関連を明らかにした。(Pediatrics 2014)
- 2009年のパンデミックインフルエンザによる小児肺炎の罹患率および重症度に対する影響を明らかにした。(Influenza and Other Respiratory Viruses Journal. 2014)

▶ 出生コホート研究

長崎大学小児科学講座との共同研究。2000人の出生コホートを追跡し、先天性感染症、宿主遺伝子多型因子と神経学的発達、重症小児感染症罹患との関連について研究を行っている。妊娠女性の風疹抗体価を測定し、その30%で風疹抗体が陰性であることを認め、それにより妊娠女性の間での風疹アウトブレイクの危険性と、ベトナムでの風疹ワクチン導入の重要性を指摘した (Vaccine 2013)。

▶ ウイルス重複感染と疾病重症度

長崎大学病院、長崎市民病院と共同で、小児急性呼吸器感染症例におけるウイルス重複感染の臨床的重症度を調査し、RSウイルスとの重複感染による急性呼吸器感染症症例の重症度が最も高いことを示した (Harada et al, Pediatric Infectious Disease Journal 2013)。また、侵襲性肺炎球菌感染症患者のサンプルを用いて *Streptococcal pneumoniae* の血清学的診断と抗生物質感受性を調べている。ナノテクノロジーによる分子学的血清型分類法を用いた *S. pneumoniae* の血清学的診断法を開発中である。

II. 環境疫学に関する研究

▶ バングラデシュにおける洪水災害・気候変動と感染症流行

- ① 首都ダッカのスラム地区における小児呼吸器感染症サーベイランスデータを用いて、気候変動と小児呼吸器感染症の疫学的関連についてデータ解析を行った。(Global Health Action in press)
- ② 下痢症患者サーベイランスデータを解析し、コレラ流行とインド洋の大気海洋相互作用現象であるインド洋ダイポール現象が関連あることを見出した (PLoS One 2013)。今後海洋気象学的なメカニズムについて明らかにすべく、香川大学、海洋研究開発機構の気象・海洋学研究者との共同研究体制を整えた。
- ③ カーティン大学(豪)との共同研究により、ダッカ市内のアエロモナス下痢症流行と気象因子との関連を、時系列データ解析により明らかにした (Dhaka Megacity 2014)。またチフス熱の流行要因に関する空間解析を行った。(Dhaka Megacity 2014)

▶ 東アフリカの高地マラリア再流行と海洋・気候変動、ビクトリア湖の生態環境

宇宙航空研究開発機構(JAXA)、長崎大学工学部、ケニア拠点と共同で衛星観測によるビクトリア湖の生態環境情報を用いたマラリア・下痢症予測モデルの開発に関する研究を開始した。

▶ 東アジア、WHO西太平洋地区(WPRO)、日本における気候変動および越境大気汚染の健康影響

ソウル国立大学(韓国)、国立台湾大学(台湾)、复旦大学(中国)、筑波大学との共同研究に加わり、気候変動および黄砂をはじめとする越境大気汚染の健康影響に関する疫学研究を開始した(Atmospheric Environment 2014)。WPROのプロジェクトに参加し、各国の感染症サーベイランスデータを収集し、気候変動との関連を解析した(論文投稿中)。また、環境省「黄砂の健康影響に関する疫学研究等を行うワーキンググループ」に参加し、国内の既存疫学データの統計解析をおこなった(エアロゾル研究 2014)。環境省環境研究総合推進費の研究として、筑波大学、国立環境研究所、長崎大学医学部保健学科と共同で、五島市における熱中症予防ランダム化地域比較介入研究をおこなった(論文準備中)。

▶ 感染症と気象因子の時系列解析に関する文献レビューおよび理論疫学研究

ロンドン大学(LSHTM)との共同研究を開始した(論文準備中)。

▶ 節電による超過死亡数の推定

ロンドン大学（LSHTM）との共同研究を開始した。

4. 13 臨床開発学分野

臨床開発学分野は世界保健機関WHO決議事項（WHA61. 21）である公衆衛生とイノベーションと知的財産権におけるグローバル戦略に応えるべく2011年度より新設された。この決議は実際に公衆衛生上のニーズに見合った医薬品の研究開発を促進することで、特に開発が遅れている発展途上国に偏ってみられる病気に対する医薬品開発を適正な規模で行うようにという趣旨でなされた。また、本分野は日本の文部科学省（MEXT）の特別の援助によって設置され、この分野の研究開発プロジェクトや人材育成プログラムが軌道に乗るまで継続して特別の支援を受けることとなった。

2014年3月より助教授 川崎 エドゥアルド・ホセ、6月にが当分野に加わる。客員教授Kessara Na-Bangchang（タイ）が共同研究者として度々長崎大学を訪れている。2013年2月より准教授Nguyen HuyTien（ベトナム）が加わる。

また9月から客員研究員としてTullyakorn Plengsuriyakarn（タイ）が加わり、ヒト胆管癌異種移植ヌードマウスモデルを用いた β -eudesmolの抗がん作用のPET-CTによる研究を行う。

【研究活動】

I. Double blinded randomised placebo controlled phase II trial of Shiunko Ointment local application twice a day for 4 weeks in Ethiopian patients with localized cutaneous Leishmaniasis.

The following tasks were completed:

1. The recruitment of patients completed in October 2013
2. The follow-up of all patients completed in February 2014
3. All updated clinical data sent to the data management center in Bangkok
4. Data entry to database at Thammasat University
5. Data validation is completed and database locked

The following tasks are on-going

1. Data analysis
2. Drafting of the study results for publication

II . Evaluating anticancer activity of β -eudesmol in Human Cholangiocarcinoma (CCA) using hamster model

The study was completed in September. The data analysis is on-going and publication will be followed.

The following tasks were completed:

- 1 . Development of CCA in Syrian hamsters (n = 6) induced with 50 metacercariae of *Opisthorchis viverrini* (OV), and dimethylnitrosamine (DMN)
- 2 . The treatment of induced CCA with Crude ethanolic extract of *Atractylodes lancea* (Thunb.) DC. (AL) at the dose of 1, 000 (low dose level) and 5, 000 (high dose level) mg/kg body weight for 30 days, compared with 5-FU
- 3 . The data were analyzed and suggests significant prolongation of survival time in OV/ DMN induced CCA hamsters treated with crude ethanolic extract of *Atractylodes lancea* compared with both the 5-FU treated and untreated control group.
- 4 . Drafting of paper for publication is on-going

III . A randomized Clinical trial to assess the subject's understanding of the informed consent for phase I clinical trial.

The following tasks were completed:

- 1 . Development of Informed consent template and assessment tool for informed consent process
- 2 . The evaluation of the tools at the 13th FERCAP Annual Conference, Bali, Indonesia
- 3 . Development of protocol and associated document for this study
- 4 . Contacting researchers in Thailand to collaborate on this project as a multi-center study.

The following are on-going activities:

- 1 . Protocol of this comparative trial is under review of ethics committees in Chiangmai University and Thammasat University.
- 2 . On the process of contacting Philippines researchers to participate in a comparative trial of this new tool to improve informed consent process.

IV . Identification of areas of improvement for the SIDCER recognized Ethics Committees in Asia and Western Pacific region.

This research is a collaborative project with FERCAP

The quality of ethical review in biomedical research in FERCAP countries was assessed using the tool that was developed and tested by FERCAP. The data were collected from 8 ethics committees in 3 coun-

tries (China, Thailand and the Philippines). 145 protocols and informed consents were reviewed for the areas of deficiency in ethical review.

The data was analyzed and presented at the 13th FERCAP Annual Conference (Nov 17–20, 2013) in Bali, Indonesia.

On-going activity:

Drafting of the study results for publication

V. Identification of resistance of *Plasmodium falciparum* to artesunate-mefloquine combination in an area along the Thai-Myanmar border integration of clinico-parasitological response, systemic drug exposure, and in vitro parasite sensitivity.

This research is a collaborative project with Thammasat University.

Identification of *Plasmodium falciparum* isolates with intrinsic resistance to each component of the artesunate-mefloquine combination was analysed with integrated information on clinico-parasitological response, together with systemic drug exposure of dihydroartemisinin and mefloquine, and in vitro sensitivity of *P. falciparum*. A total of 17 out of 29 *P. falciparum* isolates from patients with acute uncomplicated *falciparum* malaria were recruited in the analysis. Resistance and/or reduced intrinsic parasitocidal activity of artesunate and/or mefloquine without pharmacokinetic or other host-related factors were confirmed in six cases.

Resistance and/or reduced intrinsic parasitocidal activity of mefloquine/artesunate, together with contribution of pharmacokinetic factor of mefloquine and/or artesunate were identified in seven cases. Pharmacokinetic factor alone contributed to recrudescence in three cases, all of which had inadequate whole blood mefloquine levels. Other host-related factors contributed to recrudescence in one case. Amplification of *pfmdr1* (increasing of *pfmdr1* copy number) is a related molecular marker of artesunate-mefloquine resistance and seems to be a suitable molecular marker to predict occurrence of recrudescence.

The results of this study was published in Malaria Journal (Malar J. 2013 July 30, 12:263).

【教育活動】

Teaching Activities (2013)

I . In collaboration with the Department of Immunogenetics

- 1 . A 3-day Research Ethics Workshop in July 2013 (50 participants from 15 countries)
- 2 . A 2-week course on Product Development in Oct 28 - Nov 19, 2013 (27 participants from 11 countries)

II. MTM course

- 1 . A one week course on Conducting Responsible Research (Oct 28 to Nov 9, 2013)
- 2 . Supervise MTM student Dr. Zenebe Akalu Deneke on his MTM thesis: Susceptibility of clinical isolates of *T. Aethiopica* promastigotes to shikonin in vitro model

III. Leading program PhD course

- 1 . Mentored 2 students: Dr. Nut and Mr. Ernest
- 2 . Provide guidance in the development of new tool for the informed consent process (Dr. Nut's research)
- 3 . Accompanied Dr. Nut to present his research and attend the FERCAP conference
- 4 . Lectured one session for Communication class (Nov 7, 2013)

IV. In collaboration with SIDCER - FERCAP (2013)

- 1 . A 3-day training course for Ethics committee Surveyors
 - a . Bhutan: REBH, Ministry of Health, Bhutan
 - b . China (Beijing, Shanghai, Guandong)
 - c . Thailand (Mahidol University, Bangkok, and Naraesuan University, Pitsanulok)
- 2 . Oral presentation at the 13th FERCAP Annual International Conference (Nov 18, 2013, Bali, Indonesia) on Human Subject Protection: Can we do better?

V. In collaboration with International Vaccine Institution (IVI), Seoul, Korea

Annual IVI Vaccine Development course: Provided a lecture on ethical issues in developing vaccine in developing countries on May 13-15, 2013

Network activities (2013)

- 1 . Initiated a collaborative network (three medical schools in Thailand Chulalongkorn University, Siriraj Medical School, Mahidol University and Khon Khaen University, School of Public Health in USA - University of Washington and the Middleton Foundation for Ethics Studies - a non profit organization in Olympia, USA) to develop curriculum for international fellow-ship program for Research Ethics. This curriculum is a six month training individuals on theory and practical aspects of ethical review in biomedical research. The course is expected to start in October 2014. The participants for this course will be ethics committee members in Asian countries. The individual will spend one month in Olympia, USA (Middleton Foundation for Ethics Studies) and four months in Thailand, spending 1-1.5 month at each participating university.

- 2 . Initiated a collaborative network with Thammasat university (The International College of Medicine) and the Thai Government of Thailand for research and development of an Herbal Medicine for Cholangiocarcinoma.

Social activities (2013)

- 1 . Coordinator of Strategic Initiative for Developing Capacity in Ethical Review (SIDCER)
- 2 . Secretariat team Member for the FERCAP (Forum of Ethical Review Committee in Asia and western Pacific)
- 3 . Chair and a speaker, International Annual FERCAP Conference in Bali (2013)
- 4 . An examiner, the PhD proposal defend examination at Thammasat University, Thailand (2013)

5 附属施設

5. 1 アジア・アフリカ感染症研究施設

5.1.1 ケニアプロジェクト拠点

ケニアプロジェクト拠点は文部科学省の特別教育研究経費（連携融合事業）「新興・再興感染症研究ネットワークの構築」（平成17年9月～平成22年3月）に引き続き、平成22年4月からは文部科学省特別経費（全国共同利用・共同実施分）「熱帯病・新興感染症臨床・疫学研究プログラム－アフリカと日本を結ぶ教育研究体制の構築－」で運営する海外教育研究拠点である。当拠点はケニア中央医学研究所（Kenya Medical Research Institute, KEMRI）内に設置されている。

この事業はアフリカに開設したケニア教育研究拠点を充実強化し、これを活用しながら熱帯医学・臨床疫学研究の日本の中心として公募研究者と協力して熱帯病・新興感染症の予防治療に資する研究を行うと同時に人材育成を行うものである。

平成22年3月には熱研ケニアプロジェクト拠点に長崎大学・アフリカ拠点が併設され、このアフリカ拠点をプラットフォームとして長崎大学歯学部、水産学部、工学部および医学部保健学科が研究活動を開始した。

ケニアプロジェクト拠点は連携融合事業に引き続き、下記の三つの柱を中心に研究教育活動を展開している。

1. ナイロビの微生物学研究センター（CMR, KEMRI）内の病原微生物を扱う高度安全レベル3実験施設（P3ラボ）を始めとした実験室およびKEMRIの製造部門における実験室の整備と運営
2. ビタ県及びクワレ県の2か所の人口静態動態調査システム（HDSS: Health and Demographic Surveillance System）の構築と運営
3. ビタ県及びクワレ県の病原体媒介生物（蚊、貝）のモニタリングシステムの構築と運営

【研究活動】

ビクトリア湖畔のビタ県で長期にわたり、特定した地域内の全人口、疾病、出生、死亡に関する情報を定期的に収集・集約するシステム（Health and Demographic Surveillance System, HDSS, 人口静態動態調査システム）及びマラリア伝搬蚊を定期的に収集・分析するシステム（Mosquito Surveillance System）を稼働させている。同地域では平成21年1月から3年間実施してきたJI-

CA草の根技術協力事業に引き続き、学校保健に焦点を当てた新たな草の根技協プロジェクトを実施している。海岸地域のクワレでも平成22年から寄生虫学研究と人口静態動態調査システム（HDSS）を稼働させている。

ビタにおけるマラリア媒介蚊とマラリア撲滅研究、ブシアにおける蚊媒介性ウイルス性出血熱の研究並びに下痢症と敗血症などの研究をケニア拠点の研究室とKEMRIHQの生産部門で行っている。クワレにおいてもビルハルツ住血吸虫症の疫学研究などを行っている。平成24年3月、JST-JICAプロジェクト（SATREPS）を開始し、KEMRI生産部門およびブシアKEMRIの研究室整備を行い、研究を実施している。また平成24年4月に開始したNTD（顧みられない熱帯病）を対象とした血清疫学プロジェクト（科学技術戦略推進費）についても、拠点の研究室の整備を行い、研究を実施している。また長崎大学歯学部はビタで歯科保健研究を継続している。長崎大学水産学部および工学部が申請したビクトリア湖畔の水純化および水産資源開発プロジェクトが8月に正式にカウンターパートファンドとして採択され、平成26年2月にプロジェクトを開始した。

KEMRIのISO取得に向けたQuality Management Procedureの申請及びP3ラボを含めて拠点実験施設のKMLTTB（Kenya Medical Laboratory Technician & Technologist Board）認証の申請を行い、それぞれ認可を受けた（ISO 9001:2008, KMLTTB Reg. No. G373）。

拠点におけるすべての研究活動はケニア人研究者との共同研究として行われている。KEMRI（ケニア中央医学研究所）、KNH（ケニヤッタ国立病院）のScience Steering Committee（SSC）およびEthical Review Committee（ERC）およびマセノ大学のERCで承認され、平成25年度中に継続中の研究は下記の通りである。

KEMRI関連

No	承認 番号	承認 年	研究タイトル	日本主任研究者	所属
1	1088	2006	Establishment of demographic surveillance system in Kenya (Suba and Kwale): A platform for development of demographic health information system to support research and control of infectious diseases and health-related problems	金子 聡, N. Wamae	生態 疫学
2	1323	2008	The study on the diarrheagenic agents as intestinal and invasive infection in Nairobi and Western Kenya	一瀬休生, S. Kariuki	ケニア 拠点
3	1981	2011	The seroprevalence and risk factors for dengue infection in selected facilities in the Kenyan coast	森田公一, M. Mwau	ウイルス
4	1304	2009	The Serosurveillance survey for yellow fever virus exposure in humans at selected facilities in Kenya	森田公一, M. Mwau	ウイルス
5	1698	2009	Novel approaches to the diagnosis, characterization and surveillance of priority infectious diseases	森田公一, M. Mwau	ウイルス
6	2084	2012	Polyparasitism and Other major infectious diseases in rural settings: Prevalence surveys in school children in Kwale and Mbita, Kenya	濱野真二郎, Summy Njenga	寄生虫

7	1775	2010	Monitoring of pyrethroid resistance in malaria vectors in Kenya	川田 均, C. Mwatele	病害 動物
8	2016	2011	Detection of gene(s) involved in pyrethroid resistance in the mosquito vector <i>Culex quinquefasciatus</i> in Suba district, Western Kenya	川田 均, C. Mwatele	病害 動物
9	2522	2013	Small scale field trial of new bed-nets containing insect growth regulator, pyriproxyfen, against malaria vectors in western Kenya	川田 均, G. O. Dida	病害 動物
8	2126	2011	Geographical distribution and population genetic structures of <i>Aedes aegypti aegypti</i> and <i>Ae. Aeg. Formosus</i> in Kenya	二見恭子, S. Jenga	病害 動物
9	2131	2011	Effect of two different new mosquito nets on malaria vectors and anemia in children: A randomized field trial in western Kenya	皆川 昇, S. Jenga	病害 動物
10	2012	2012	Epidemiological malaria survey on island in Lake Victoria	金子 明, W. Akhwale	大阪 市大
11	1934	2011	Development of a concurrent detection method for a wide range of pathogens of Neglected Tropical Diseases (NTDs) in Africa	金子 聰, M. Mwau	生態 疫学
12	1964	2011	A cohort study on child health in Mbita and Kwale: A study nested on the established Health and Demographic Surveillance system to determine co-morbidity and potential risks for high morbidity and mortality	金子 聰, M. Karama	生態 疫学
13	2680	2014	Utility of multiplex technology for disease diagnosis in laboratory and field settings	金子 聰, M. Mwau	生態 疫学
14	2483	2013	Detection and molecular characterization of diarrheal viruses isolated from children attending selected health facilities in Kenya	一瀬休生, J. Nyangao	ケニア 拠点

KNH関連

1	P328/ 09/ 2010	2010	Oral health survey in an area with limited access to dental services in Mbita District, Kenya	林 善彦	長崎大 歯学部
---	----------------------	------	---	------	------------

マセノ大学関連

1	000037 /13	2013	The effect of environmental variability on malaria and diarrhoea transmission in the Winam bay region Lake Victoria	橋爪真弘, E. Ondari	小児感 染症学
---	---------------	------	---	--------------------	------------

【教育活動】

大阪市立大学医学部生（2名，8月17日～24日）ミネソタ大学生（3名，10月4日）の熱帯医学研修および長崎大学国際健康開発研究科（2名）のインターンシップ及び研究活動支援を受け入れる一方，MTM学生（1名）のビタでの研究活動の受け入れを行った。その他，ケニア人学部生（5名）の実習や修士学生（6名）の指導を行った。また国際健康開発研究科，熱帯医学研修課程の講義を日本に出向いて行った。

【社会貢献】

- ① JICA教師海外派遣プログラム8名の研修受け入れ（4月26, 29日）
- ② ロボットコンテスト授賞式出席（5月17日）
- ③ ケニアで行われたJICA主催の保健関係者勉強会（Afya-Kenya フォーラム）へ参加（第6：4月10日，第7：7月10日，第8：11月7日，第9：2月20日）
- ④ ニュースレターの発行（ビタ版）（4月，7月，12月）

【その他】

人事：7月3日小谷昌之事務職員着任

9月1日秋山剛助教着任

10月1日後藤健介助教配置換

運営：

- ① 蚊媒介性疾患のマラウイのJSPS - JICAプロジェクト終了報告会開催（4月18日）
- ② 自民党国際協力調査会（三原朝雄会長）で「長崎大学のアフリカでの活動と展望について」講演（東京，自由民主党本部，4月19日）
- ③ SATREPSプロジェクト（南部アフリカにおける気候予測モデルをもとにした感染症流行の早期警戒システムの構築）の採択（5月20日）
- ④ ケニア・ブシアのSATREPSプロジェクトラボの開室式挙行（6月7日）
- ⑤ マセノ大学との学术交流協定締結（6月21日）
- ⑥ シュバイツァー博士ガボン来訪100周年記念シンポジウムへの参加（ガボン，7月7日）
- ⑦ 日本熱帯医学会総会（長崎開催）への参加（10月4, 5日）
- ⑧ マルチプレックスプロジェクトヒアリングのための会議開催（長崎，5月3日）
- ⑨ 水工プロジェクトのリサーチサイトをマセノ大学内（Vercity Plaza）に決定（7月18日）
- ⑩ 第32回計測自動制御学会九州支部学術講演会にて講演（長崎，11月30日）
- ⑪ 金子修熱帯医学研究所副所長がケニア中央医学研究所Mpoke所長を表敬訪問（1月28日）
- ⑫ 水工プロジェクト開始についての記者会見（長崎，1月30日）
- ⑬ 水工プロジェクトキックオフミーティング開催（キスム，2月3日）
- ⑭ JICAとの定例会開催（4月11日，7月6日，11月26日，1月27日）

【主な訪問者】

* 4月12日 住友化学 谷内部長，石田氏共同研究打ち合わせで訪問

* 4月26日 阿部俊子外務大臣政務官がKEMRIを視察訪問

- * 6月1日 JAXAの山本和秀氏, 山本綾氏, RESTECの五十嵐保氏が共同研究のため訪問
- * 7月30日 大阪市大(金子教授以下3名)が共同研究のため訪問
- * 9月19日 環境学部増田准教授, 帝京大山本教授が共同研究のため訪問
- * 2月20~27日 歯学部一行(林教授以下3名)が科研費研究のため訪問
- * 2月4日 片峰学長が「ビクトリア湖における包括的な生態系及び水環境研究開発プロジェクト」のキックオフミーティングに出席・キスムリサーチサイトを訪問
- * 2月26日 新規技プロの第二回詳細計画策定調査団長として戸田隆夫審議役が訪問
- * 3月2日 MBLの樽井氏が共同研究のため訪問
- * 3月3日 グローバルヘルス技術振興基金(GHIT,Global Health Innovative Technology Fund)のスリングスビー氏と鹿角氏が訪問
- * 3月4日 増田研准教授, 狭間助教他が訪問,
- * 3月10日 学校保健関連活動で友川助教, 朝倉教授他が訪問
- * 3月22日 東北大学原田教授(旧科学技術戦略推進費関連)以下2名が訪問
- * 頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラムのため訪問(12/1, 1/21, 2/13)

5.1.2 ベトナムプロジェクト拠点

平成22年度から開始された「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム(J-GRID)」も本年度で4年度目に入る。平成17年度から5年間実施されたベトナム拠点形成プログラムの第二期にあたるプログラムである。長崎大学ベトナム拠点の旗艦であるフレンドシップ研究室を中心に, 中部ベトナムにあるニャチャンフィールド, 北部ベトナムにあるナムディン省フィールド, 南部ベトナムにあるドンナイ省フィールド等で, 下痢症研究グループ, 蚊媒介性ウイルス感染症研究グループ, 臨床研究グループ, そして人獣共通感染症研究グループが実施する合計16研究課題が順調に進んでいる。

プロジェクトの運営に関する事項

1 長崎拠点スタッフ人事

平成25年7月 研究補助員 タン・ティ・ガ 退職
 平成25年7月 研究補助員 ダン・ティ・ジン 退職
 平成25年7月 研究補助員 チャン・リ・ナ 採用
 平成25年7月 研究補助員 レ・ティ・トゥエン 復職
 平成25年8月 研究補助員 ファム・ティー・ハン 採用

平成25年11月 研究補助員 レ・ティ・トゥエン 退職
平成25年11月 事務補佐員 ブー・トゥー・チャ 休職
平成25年11月 事務補佐員 グエン・ティー・トゥイ・チャン 採用
平成25年12月 研究補助員 チャン・ティー・ルオン 採用
平成26年 2 月 堀田こずえ助教 長崎大学熱帯医学研究所 退職
平成26年 3 月 研究補助員 グエン・ホン・フオン 採用

2 長崎大学拠点訪問者及び受け入れ

平成25年度、長崎大学ベトナム拠点には67件、130名の訪問者があった。J-GRIDプロジェクト関係者の訪問をはじめとして、JICA関係者、学生等様々な方面の訪問者があった。それぞれに対し、山城拠点長から本プログラムの趣旨説明を行った。平成25年度はベトナム拠点で、47名の研究者を受け入れた。また学位論文の研究課題の実施等で、5名の大学院生を受け入れた。一方、感染症研究または臨床の実態に触れる目的で、38名の医学部学生を受け入れた。また広島大学から1名の研究室配属の学生を2か月間受け入れ、研究指導を行った。

一方、長崎大学ではNIHE側研究者19名を学会参加者として受け入れ、5名を拠点プログラムや研究打ち合わせのため受け入れ、共同研究を実施した。また、25年度は9名のベトナム人留学生が長崎大学に在籍したそのほとんどが国費留学制度による医歯薬研究科大学院学生(修士課程も含む)であった。また長崎大学の事務職員を対象に、ベトナム拠点での研修を実施した(2名)。

3 長崎大学ベトナム拠点で主催した学会・講演会

平成26年2月23日、在ベトナム日本大使館、JICAベトナム事務所、ベトナム日本商工会の後援のもとベトナム在住日本市民への感染症対策啓発活動の一環として第6回長崎大学ハノイ市民公開講座を開催した。国立国際医療研究センターとの共催により開催され、長崎大学国際健康開発研究科、門司和彦教授による「海外生活と健康：日本とは何が違うのか?」、国立国際医療研究センター病院国際感染症センター長、大曲貴夫先生による「医療を受けているのに感染症にかかる? とはどういうことか」のテーマでそれぞれ講演があり、約40名の参加者があった。参加者からは好評を得た。

4 プロジェクト運営会議 (Steering Committee Meeting, SCM)

本年度は、5月、7月、10月、11月、3月の合計5回SCMを開催し、プロジェクト運営上重要な議事の審議を行った。参加者はプロジェクト代表者、拠点長、個別課題研究代表者、NIHE所長、プロジェクト関係NIHE各部長であった。

5 共同研究

当拠点をはじめとする長崎大学とNIHEとの間で、本年度は合計16研究課題が共同研究として実施されている。詳細は後述する。

研究活動に関する事項（抜粋）

下痢症研究グループ

(1) 急性小児下痢症における臨床介入による下痢症病原体変動に関する研究

ベトナムにおけるロタワクチン介入における下痢症病原体のダイナミクス調査、ロタウイルスのワクチン接種後のウイルス血清型シフトおよび同じく主要病原体であるノロウイルスや下痢原性大腸菌の動態を分子疫学レベルで解析し、病原体相互のダイナミクスを評価する。ベトナムの国産単価ロタウイルスワクチンの臨床第三相試験が北部ベトナムで平成22年5月から1年間程度実施される予定である。これに関連し同地域でワクチン被接種者が排泄するウイルスの解析、サーベイランス網整備を行う。集積するデータはワクチン介入前データとして使用する。

(2) 生態系におけるコレラ菌の分子疫学的研究

平成19～21年のコレラアウトブレイク株の分子疫学的解析を行い、アウトブレイク時の伝播経路解析を行う。また各地の汽水域よりコレラ菌を含むビブリオ属細菌およびビブリオフィージの分離を行い、病原遺伝子、薬剤耐性遺伝子伝播の解析を行い、アウトブレイク発生との関連を調査する。

(3) アジア諸国での急性下痢症の積極的動向調査

ナムディン小児病院、ドンナイ小児病院より入院患者より下痢便の提供を受け、細菌、ウイルス、原虫を含む25カテゴリーの下痢原性微生物の解析を行った。質問表により得られたデータを基に、下痢症との因果関係を検討した。

(4) ナムディン省ヒエンカイン村における住民を基盤とした下痢症の前向き疫学研究

ナムディン省ヒエンカイン村の住民約300戸を登録し、細菌、ウイルス、原虫を含む25カテゴリーの下痢原性微生物の解析を行い、質問票を基にした疫学データとともに前向きに解析する。全ての年齢層の住民の、軽症～重症下痢症の実態解明につながる。本コホートは他の疾患研究の実施にとっても有用なものであると考えている。

蚊媒介性ウイルス感染症研究グループ

(1) デングウイルス準種のヒト及び媒介蚊での生態と病原性の関連に関する研究

ベトナムで流行しているデングウイルス準種の多様性の生態学的意義と病原性の関連を明らかにすることを目的として、デング熱・デング出血熱流行期にヒトおよび蚊からデン

グウイルスを分離して遺伝子の解析を実施し病原性との関連を解析することでデングウイルス感染重症化のメカニズムを解明する。

(2) ベトナムにおけるアルボウイルス脳炎の研究

ベトナム各地で収集した新規分離ウイルス（新種，稀種）についてヒトの季節性原因脳炎疾患（とくに脳炎）への関与を明らかにする事を目的として，すでに採取した患者血清，髄液と新規に採取する患者サンプルについてウイルス分離，遺伝子工学的手法で発現させた診断抗原を用いて網羅的な血清疫学調査を実施し既知の病原ウイルス以外の病原因子についてその種類，流行地域，伝搬様式を明らかにして地域における重要度を評価する。

(3) デング熱流行の発生メカニズムの解明と対策

媒介蚊とウイルスの生物学特徴と相互作用，人の免疫性と社会的要因，気候などを総合的に分析し，季節的な流行が発生する北部ハノイ市と慢性的に流行している南部ナチャン市などと比較しながら流行発生メカニズムを解明し，対策を提言する。

(4) マラリアに関する研究

三日熱マラリアとヒト感染サルマラリアの調査をベトナムにおいて実施して熱帯熱マラリアが駆逐された後のマラリア流行のリスクについて評価する。

臨床研究グループ

(1) 大規模コホートに関する研究

インフルエンザ桿菌b型（Hib）ワクチン導入後のナチャンコホートでの呼吸器感染症罹患率への影響について調査検討し，その効果を評価する。呼吸器感染症，デング熱，下痢症の重症化について追跡調査を実施し，重症感染症罹患と関連する宿主遺伝子多型解析を行う。また先天性ウイルス感染による児の成長発達を追跡調査し，感染による影響を調べる。

(2) ホーチミンでのデング熱重症化の免疫遺伝学解析

成人および小児デング熱患者の臨床研究により，早期に重症化を予測する因子の同定，T細胞応答性，マスト細胞の重要性，重症化予防のための臨床治験を行う。急速に世界的な流行の拡大が観られる蚊媒介性ウイルス感染症の病理病態解析を行いヒトの免疫応答性が疾患の重症化にいかに関わるかを解明することで有効な治療予防法の開発へと発展させることができる。

(3) 臨床疫学情報集積システムの構築による不明熱の解析

不明熱患者の詳細な病歴，臨床症状，検査所見を収集するデータ入力システムを開発し，これを2つの基幹病院に導入する。同時に各種臨床検体（血清，バフィーコート，かく痰，咽頭スワブ，尿，便，生検材料等）を超低温で保存する。1000症例収集後，データベース解析により特定の症候群の存在について検討する。

人獣共通感染症研究グループ

(1) コウモリ伝播ウイルス疫学に関する研究

熱帯地方に生息するコウモリには多種のウイルスが生息していることが知られており、ときにヒト社会における感染流行の原因となる。アジアにおいて近年、コウモリから発生したと考えられる新興感染症の流行事例としてニパウイルス脳炎やSARSの流行が挙げられる。本研究はベトナムにおけるコウモリに生息する新興感染症ウイルスの感染流行リスクを評価することを目的として調査を実施する。

ベトナム北部、中部、南部においてコウモリ種の生息を調査し、一部を捕獲して血液等のサンプルを採取して、ヒトの新興感染症ウイルス（ニパ、SARSコロナ、フィロウイルス等）についての血清疫学を実施するとともに、オオコイモリからウイルス遺伝子の検出、ウイルス分離を行い、コウモリの保有宿主としてのヒトへの伝搬の危険性のあるウイルスの分布を調査しヒトへの感染リスクを評価する。

(2) ベトナムにおける狂犬病の診断システムの構築と分子疫学的研究

ベトナム国立衛生疫学研究所（以下NIHE）および国内拠点と緊密な連携をとりながら、代表的な人獣共通感染症である狂犬病の診断・予防・治療に関する研究、特にベトナムにおける狂犬病の感染状況を検討、なかでもコウモリにおける狂犬病類似ウイルス（リッサウイルス）の浸淫状況を調査する。それにより原因不明のヒト脳炎症例における狂犬病、リッサウイルス感染の関与について明らかにすることを目的とする。さらに、我々の開発した狂犬病ウイルスに対する中和抗体価迅速測定系を用い、狂犬病ウイルスやリッサウイルスに曝露される可能性のあるヒトを対象にした、不顕性状態での抗体の獲得状況を調査する。これによりヒトに対する狂犬病の予防・治療法の現状把握調査を基にしながら、ベトナムの国情に合った予防対策を目指す。

(3) ハンタウイルス感染症に関する研究

ベトナムでのハンタウイルス活動地域において野生ラット、不明熱患者血清より抗体およびウイルス検出を行い、ヒトの不明熱への寄与度を明らかにする。また自然の環境下でのウイルスの生態を明らかにする。

(4) 鳥インフルエンザに関する疫学的研究

第二期では野鳥、家禽に加えてブタにおいても鳥インフルエンザウイルスの調査を実施して、ベトナム北部農村部の環境を鳥インフルエンザウイルスがどの程度汚染しているかある程度明らかにし、ウイルスの変異をリアルタイムでモニターする一方、熱帯地域の野鳥、家禽、および家畜における鳥インフルエンザウイルスの生態を詳細に解明して、ヒトにおける鳥由来新型インフルエンザ発生の予防、予知に応用する。

文責：山城 哲

熱帯医学研究所 アジア・アフリカ感染症研究施設 教授

感染症研究国際ネットワーク推進プログラム長崎大学ベトナムプロジェクト拠点 拠点長

5. 2 熱帯医学ミュージアム

熱帯病に関する概説パネル，寄生虫，媒介昆虫，危険動物などの標本，貴重図書，映像資料を長崎大学医学ミュージアム(旧原研棟)1階の「熱帯医学ミュージアム」に展示している。(平成26年4月移転)収集された資料は数千点におよび，少人数に対する視聴覚コーナーも設けている。

研究所と市民の間のリエゾン窓口として，熱帯病に関する研究や学校教育，社会教育に活用される「熱帯医学ミュージアム」を目指しており，現在のプロジェクトと今後の展望を示し，感染症に対するリスクコミュニケーションや市民科学の発展にも寄与する体制を整備した。

平成25年度の来館者数は663名であった。そのうち長崎県内の県立中学校および高等学校の生徒は93名であった。生徒たちは授業の一環として研究所を訪れ，当ミュージアムの見学をはじめとして，熱帯医学の基礎的な講義，実験室の説明などを受ける。

また，平成22年1月より行っている市民公開特別講座は，平成25年度は4月，8月，12月の計3回開催した。これらは市民の皆さまに感染症を理解していただくと共に，感染症研究の重要性についてご理解いただくためである。今後も継続していく予定。

人

長崎大学	他大学	一般	高校	中学校	小学校	自衛隊	海外	合計
188	52	116	27	66	41	88	85	663

5. 3 共同研究室

5. 3. 1 分子生物学実験室

感染症発病メカニズムの解明と有用な感染症対策法の開発のためには、病原体＝ベクター＝宿主間の相互作用を分子レベルで解析することが有効なアプローチである。当実験室に遺伝子の構造・機能解析，転写産物の分析，タンパク・細胞レベルの分析といった一連の分析のための各種特殊機器を設備し，そのような要請に添えている。また，一般的研究機器・設備として各種遠心機，超純水作製装置，試料貯蔵室，振盪培養器，減圧濃縮機(SpeedVac)，フレンチプレス，超音波破碎機(バイオラプター)，凍結乾燥機を備え，所内外の研究の効率化を図っている。以下は主な特殊測定機器である。

- ①DNAシーケンサー：48連キャピラリーシーケンサーと2台の16連キャピラリーシーケンサーにより，少量から中等量のDNA配列情報の効率的な取得を可能にしている。
- ②1回の操作で 10^5 オーダーの多重並列解析を可能としたDNAシーケンサー（ゲノムシーケンサー GS junior）を設備し，微生物ゲノム解読や高精度変異分析に対応している。
- ③種々の蛍光ラベルやルシフェラーゼの発光反応の定量測定が可能なマルチラベルカウンターを設備して，種々の酵素活性測定，ルシフェラーゼレポーター遺伝子による遺伝子発現解析に対応している。
- ④細胞レベルでの分析のため，3レーザー10カラーデジタルフローサイトメーター(Gallios)，デジタルセルソーター(MoFlo XDP)を設置している。
- ⑤免疫ブロット法での検出を感度よく行なえるように，蛍光・発光イメージアナライザー(FujiFilm LAS-4000miniEPUV)を設置している。
- ⑥プロテオーム解析に対応したタンパク質のアミノ酸配列情報解読を可能にする質量分析計により，未知の感染因子や同定困難な感染因子の検出を可能としている。

5. 3. 2 病理実験室

I. 人T細胞白血病ウイルスI型のTaxタンパク質は，I B- ζ を導いてTax依存タンパク質とTax非依存タンパク質発現に関する研究

人T細胞白血病ウイルスI型(HTLV-1)は，成人T細胞白血病(ATL)の病原体である。HTLV-1腫瘍性タンパク質Taxは，核因子 κ B(NF- κ B)，サイクリックアデノシン3',5'-モノリン酸塩反応要素-結合蛋白質，活性化タンパク質1(AP-1)などを含む多くの細胞転写制御因子を永

続的に誘導することが知られている。HTLV-1に感染したT細胞，ATL細胞，およびTaxタンパク質トランス活性化した $I\kappa B-\zeta$ 遺伝子を主にNF- κB を通してNF- κB 結合性コファクターが，NF- $\kappa B-\zeta$ ($I\kappa B-\zeta$) 抑制することを示した。 $I\kappa B-\zeta$ は，インターフェロン-調節遺伝子，例えば，B細胞CLL/リンパ腫3(Bcl3)，グアニル酸結合蛋白質1およびシグナルトランスデューサとアクチベーターの発現を誘導することを，マイクロアレー分析を用いて $I\kappa B-\zeta$ の出現を感染していないT細胞で証明した。転写活性化領域，核局在化シグナルおよび $I\kappa B-\zeta$ のNF- κB 結合領域は，NF- κB 依存的な手段でBcl3誘導，および $I\kappa B-\zeta$ は，相乗作用でTaxによって誘導されたBcl3トランス活性化を相乗作用で強化した。興味深いことに， $I\kappa B-\zeta$ は，Taxによって誘発されたNF- κB ，AP-1活性化，およびHTLV-1転写を阻害した。さらにまた， $I\kappa B-\zeta$ は，生体外でTaxと相互作用を示した。そして，この相互作用は，HTLV-1で形質転換されたT細胞系でも観察された。これらの結果は， $I\kappa B-\zeta$ が，T細胞でTax依存的，およびTax非依存的な遺伝子転写を調整することを示唆している。 $I\kappa B-\zeta$ の機能は，HTLV-1関連疾患のATLの起源およびHTLV-1関連疾患の発症メカニズムに重大な意義があるように思える。

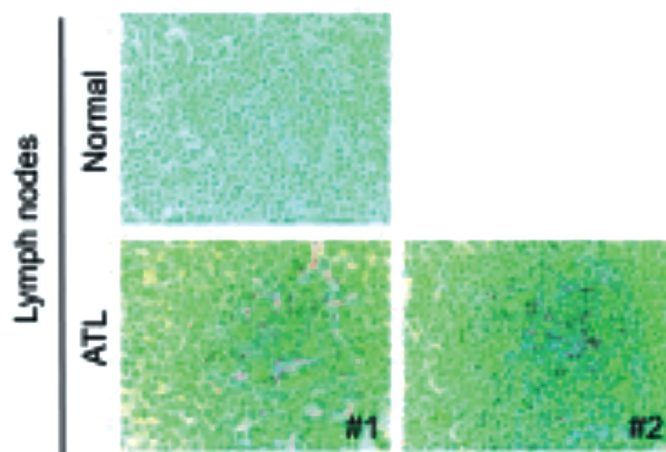


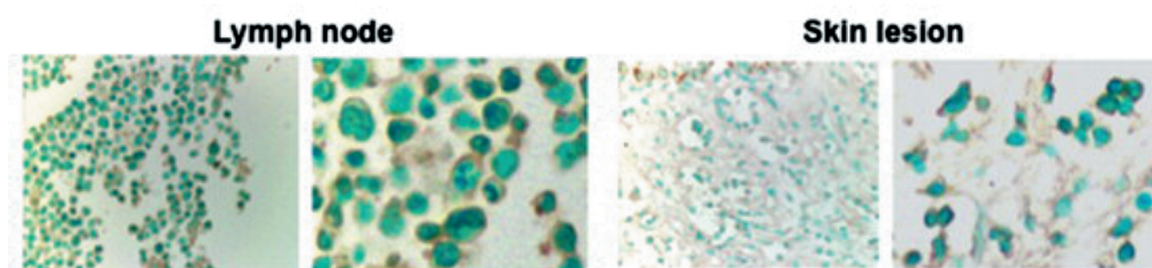
Figure Immunohistochemical staining for $I\kappa B-\zeta$ in ATL lymph nodes. Tissue sections from ATL lymph nodes and normal lymph nodes were stained with anti- $I\kappa B-\zeta$ Ab. Representative results from two patients with ATL and one normal lymph node. Original magnification, x400.

Kimura R, Senba M, Cutler SJ, Ralph SJ, Xiao G, Mori N. Human T-cell leukemia virus type I Tax-induced $I\kappa B-\zeta$ modulates Tax-dependent and -independent gene expression in T cells. *Neoplasia*, 2013, 15(9): 1110-1124.

Ⅱ. 人T細胞白血病ウイルス1型Taxトランス活性化によるCD69過剰発現に関する研究

人T細胞白血病ウイルス1型 (HTLV-1) 感染は，成人T細胞白血病 (ATL) と様々な炎症性疾患の発現を伴う。CD69は，リンパ球の早期活性化の標識である。我々は，CD69の発現に関

して、HTLV-1感染の効果を調査した。フローサイトメトリー分析、および免疫組織化学的分析は、HTLV-1形質変換T細胞、およびリンパ節と皮膚病変のATL細胞で、MT-2および末梢血単核細胞不在の状態でCD69の発現を確認した。CD69発現は、HTLV-1による人のT細胞に感染の後に、特にTaxによって誘導された。Taxは、転写核因子- κ Bとサイクリックアデノシン3',5'モノリン酸塩反応要素-結合蛋白質の両方を通してCD69遺伝子を転写的に活性化した。我々はCD69が、Taxを調整する遺伝子であると結論する、そして、Taxによる細胞活性化、およびHTLV-1によって誘導された疾病の発症メカニズムに一役担う可能性が示唆された。



Immunohistochemical staining of CD69 in ATL lymph nodes and skin lesions. Tissue sections from ATL lymph nodes (n = 6) and skin lesions (n = 5) were stained with anti-CD69 antibody. Tissue sections were counterstained with methyl green. Representative results from a single donor. Original magnification, $\times 400$ and $\times 1200$.

Ishikawa C, Kawakami H, Uchihara JN, Senba M, Mori N. CD69 overexpression by human T-cell leukemia virus type 1 Tax transactivation. *Biochem Biophys Acta - Molecular Cell Research (BBA-Mol Cell Res)*, 2013; 1833(6): 1542-1552.

5.3.3 電子顕微鏡室

電子顕微鏡室では、感染症を引き起こすあらゆる病原体自体の微細構造解析のみならず、免疫組織学的手法を含む新しい技法を取り入れて、電子顕微鏡を駆使して病原体と宿主との相互作用を超高倍率までの直接観察で解析を行っている。現在の主な機器は透過および走査電子顕微鏡、超ミクロトーム、高圧急速凍結装置、真空蒸着装置、臨界点乾燥装置、オスミウムプラズマコーター、超音波固定装置などで、広範な電子顕微鏡レベルでの研究を行っている。

I. 電子顕微鏡を用いた主な共同研究

- 精製ウイルスのネガティブ染色法による解析（ウイルス学分野）

- ウイルス感染細胞の超微形態解析（ウイルス学分野）
- ネズミマラリア原虫及び感染赤血球の免疫電顕法による局在解析（原虫学分野）
- 遺伝子ベクター（ナノ粒子）のネガティブ染色法による解析（長崎大学病院薬剤部）
- バキュロウイルスのネガティブ染色法による解析（金沢大学）
- バキュロウイルスの免疫電顕法による局在解析（金沢大学）
- ヒトマラリア原虫及び感染赤血球の三次元微細構造解析（生理学研究所）

上記のように、透過型電子顕微鏡を用いたネガティブ染色、試料ブロックの薄切の観察や免疫染色による局在解析が主な作業となっている。

II. 電子顕微鏡室での研究

熱帯熱マラリア原虫は宿主赤内期において寄生胞膜に包まれた状態で増殖するが、その際原虫によって感染赤血球内にマウレル裂と呼ばれる膜状構造が形成され、その後赤血球表面にノブと呼ばれる突起構造が出現する。電子顕微鏡室ではこのような感染赤血球の微細構造の変化について、電子顕微鏡を使用した超微形態学的研究を行っている。

熱帯熱マラリア原虫の感染赤血球内での形態変化及び感染赤血球の内部や外部で形成される原虫由来の構造について、Serial block face-scanning electron microscopy (SBF-SEM) を用いて各発育ステージにおける感染赤血球全体の三次元微細構造を再構築し、解析を行った。熱帯熱マラリア原虫の感染赤血球を通常固定した後重金属染色液でブロック染色を行い、試料ブロックを作製してその薄切を透過型電子顕微鏡で確認後、SBF-SEMを用いて試料の連続断面像を取得し、それを元に三次元再構築されたデータについて解析を行った(生理学研究所との共同研究)。

5.3.4 マラリア研究室

The malaria unit published a total of 11 peer-reviewed papers in 2013/2014. These included publications in Nature Communications, Trends in Parasitology and the International Journal for Parasitology. We continued our wide-ranging and eclectic interests in malariology, publishing on a wide-range of topics including the evolutionary history of *Plasmodium vivax*, artemisinin drug resistance, immunology, vaccinology, population genetics, and genomics.

We were joined by a number of international collaborators during this period, including Carol Hunja from Kenya, who is working on transmission blocking vaccines under a Goho Life Sciences scholarship, and Abhinay Ramaprasad, a PhD student from the King Abdullah University of Science and Technology in

Saudi Arabia. Ikumi Fritz joined us a research assistant. Hussein Abkallo, a third year PhD student, published one first author and one second author paper in IJP and Parasitology International, respectively, laying a solid foundation for his research.

During this period, the Malaria Unit disseminated research results at multiple national and international meetings, including talks in South Africa (MIM), China (Invited Talk at Jiangsu Institute for Parasitology) and Kenya (1st Africa International Biotechnology & Biomedical Conference and the 8th International Workshop on Approaches to Single-Cell Analysis). Hussein spent six weeks in Sri Lanka working on monkey malaria parasites with our collaborators in Colombo University.

Richard received the "Young Investigator" award from the Japanese Society of Tropical Medicine".

Hussein Abkallo of the Malaria Unit, Department of Pathology, received the Best Student Oral Presentation Award at the 1st Africa International Biotechnology & Biomedical Conference held in Nairobi, Kenya on the 12th of September 2014. His winning talk was titled "Quantitative Whole Genome Resequencing And Genetic Linkage Analyses to Identify Genes Controlling Virulence in Malaria Parasites".

2013年度 マラリア研究室は、ネイチャーコミュニケーションズ、寄生虫学のための国際ジャーナルなどの領域にて合計11論文を発表した。(Nature Communications, Trends in Parasitology and the International Journal for Parasitology等) また私たちは、広範囲による下記トピック：三日熱マラリア原虫の歴史、アルテミシニン耐性、免疫学、ワクチン学、集団遺伝学、およびゲノミクスを含むマラリア研究を行った。

この期間中に共同研究者が数名加わった。大学院博士課程3年の Hussein Abkallo (ケニア)は IJP及び Parasitology International では第一著者、第二著者として論文を発表し、6月には技能補佐員としてフリッツ郁美が当研究所に加わった。協力研究員としてサウジアラビアのキングアブドラ工科大学より Abhinay Ramaprasad (インド/サウジアラビア在住)、7月に五峯ライフサイエンスの助成金取得しマラリアワクチンに対する研究をしている Carol Hunja (ケニア)が訪れた。

また同期間マラリア研究室は複数の国内及び国際会議で研究成果を発表した。南アフリカ(MIM)、中国・江蘇省(寄生虫の為の江蘇省研究所招聘講演)、ケニア(第1回 国際バイオテクノロジー&

バイオメディカル会議及び第8回 国際ワークショップシングルセル解析へのアプローチ)での会談を含む。フセインはスリランカ・コロンボ大学にて共同研究者の協力の下サルマラリア原虫のフィールドワークを6週間に渡って行った。

カレトンは 熱帯医学学会から「若手研究者」賞を受賞した。

博士課程3年のアブカロ フセインは2014年9月12日にケニア・ナイロビで開催された第1回アフリカ国際バイオテクノロジー&バイオメディカル学会にて“Quantitative Whole Genome Sequencing And Genetic Linkage Analyses to Identify Genes Controlling Virulence in Malaria Parasites”を発表し、最優秀学生発表賞・口頭部門を受賞した。

6 特別事業費による事業

6. 1 熱帯医学研修課程

平成25年度(第36回)熱帯医学研修課程は、平成25年4月3日から6月28日まで3ヵ月間にわたり21名で実施された。一次選考合格者の中に、英語講義が中心の熱帯医学専攻(修士課程、医師対象)の期間が1年と長いため同専攻の受験をあきらめ当研修課程に応募した医師が相当数いることが判明したため、前年度同様の特例として研修課程に合格した医師のうち希望した3名は、英語による熱帯医学専攻(修士課程)の講義実習を受講することを可能とした。

これにより、18名が従来の研修課程(日本語による講義)を受講し、3名が同時並行開催の長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・熱帯医学専攻(修士課程)の講義(英語講義。講義内容は研修課程とほぼ同等)を受講した。

受講者の職種内訳は医師9名、歯科医師1名、看護師/保健師/助産師9名、薬剤師2名、(女性16名、男性5名)であり、昭和53年度の第1回から平成25年度までの修了生の総数は455名となった。

I. カリキュラム

本年度カリキュラムは、昨年度同様、分野横断的な理解を促す目的で、熱帯医学分野(総論・各論、実習、臨床医学)と実務的分野(国際保健・国際協力等の専門家による講義)を織り交ぜながら配置した。

今年度のカリキュラムの特徴としては以下の5点があげられる。

1. 4月開講、6月末修了

今年度は、昨年度同様、開始時期を1ヶ月早めて、4月から6月末までの3ヶ月間とした。これは同時並行して4月より実施される大学院熱帯医学専攻(修士課程)の講義と同期させることによって、英語による教育機会を増やすことを目的にして計画された。さらにこれが今年度従来のコース(日本語コース)に加え、熱帯医学専攻の聴講(英語コース)という特例を行うことを可能にした。

2. 金曜日午後を自由時間に

これも昨年度と同様に、自習及び熱帯医学研究所の各教室を訪ね研究者から話を聞く機会を増やすことを目的に、毎週金曜日の午後を自由時間とした。昨年度は、同時間に行われている国際健康開発研究科公衆衛生修士課程の講義を選択講義として聴講できる形式としたが一連の複数回講義構成の一部だけを受講することが困難という判断から、今年度は聴講は実施しなかった。

3. 合同講義

熱帯医学専攻(修士課程)との合同講義は9講義(うち8講義は英語)実施した。英語講義に際しては、とくに講義後の日本語質疑応答、また休憩時間に学生同士による概要共有などにより理解を深める努力を行った。

4. 学生による自主学習会

「海外での安全管理」についての講義とワークショップを、JICA在外事務所等で長期間の安全管理者としての経験を持つ研修生2名が中心となって自主学習会として開催することができた。

5. 課程途中での意見交換会の実施

例年、研修課程の最後には学生による評価を実施しているが、今年度は学生のフィードバックを期間中に活用、改善するため、最終評価とは別に開始1ヶ月後に意見交換会を開催し、学生からの講義実習に関する意見、要望、提案を受け、その後の運営に反映させた。

II. 試験

2005年度(第28回)より、3ヶ月間の総復習を目的として導入した学科試験を今年度も実施した。所内の各分野に4～6問の出題を依頼し、計50問の選択試験問題を作成した。なお問題作成に際しては、過去の試験問題難易度等の学生アンケートを参考にした。全体の平均得点は68.7点であった。英語コース受講者に対しては、熱帯医学専攻(修士課程)の科目試験を科し、成績をそれぞれの受講者に通知した。

III. 研修生による評価

平成25年度も全講義及び試験終了後の6月26日に研修課程終了時ワークショップを行った。カリキュラム構成、授業及び実習内容、時間数、難易度について多くのコメントが出された。金曜日午後の有意義な活用ができた、今年度から内容を更に充実したシラバスを予習復習に活用できたなど、その多くは良好な評価であった。次年度に向け、英語コースの存続検討、更に英語講義受講のための配慮などの希望が述べられた。

IV. フォロアップ研修「第3回リフレッシャー講座」開講

同研修課程修了者の再研修を目的に、第3回リフレッシャー講座を、平成24年2月(受講34名)、同年12月(受講40名)に引き続き平成25年12月14日と15日に、東京で開催した(受講53名)。熱研及び研修課程外部講師9名によるそれぞれ1時間の各分野のアップデート講義が2日間にわたって行われた。今回も前回と同様、研修課程修了者でない新規受講者が6-7割を占め、募集開始後3週間で募集定員60名を満たすなど、短期かつ首都圏での熱帯医学学習に対

する需要の高いことが伺われた。

V. シラバスの改定

昨年度までのシラバスは、カリキュラム各科目紹介と講師紹介を文字のみで構成したシラバス（122ページ）であった。今年度は、事前の予習を可能にすることも想定し、各科目紹介に実際に講義で使用予定のスライド（カラー）を4-6枚加え、講師紹介も研修生へのメッセージ、講師写真などを加えた、より詳細なシラバス（273ページ）を作成し、学生、講師に配布した。

（文責：佐藤 光）

7 外部資金による研究

7. 1 文部科学省科学研究費補助金（平成25年度）

研究種目	職名・研究代表者	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研 究 課 題	備 考
新学術領域 研 究	教 授・金 子 修	15,000	4,500	共生非依存的に進化したオルガネラによるマトリョーシカ化機構	23～27年度
基盤研究 (A)	教 授・平 山 謙 二	9,500	2,850	シャーガス病の薬剤治療反応性を規定する原虫および宿主の遺伝要因解析	23～25年度
基盤研究 (A)	教 授・有 吉 紅 也	10,600	3,180	ベトナム中部に確立した出生コホートの拡充による小児重症疾患の総合的なリスク評価	25～29年度
基盤研究 (A)	教 授・金 子 聰	7,500	2,250	アフリカにおける地域特性を考慮した乳幼児の健康改善モデル構築に関する疫学研究	25～29年度
基盤研究 (B)	教 授・皆 川 昇	4,200	1,260	南東アフリカへの感染症ウイルスと媒介蚊の侵入と拡散：大地溝帯と気候の影響	23～26年度
基盤研究 (B)	教 授・濱 野 真二郎	4,600	1,380	南アジアにおける赤痢アメーバ症のゲノム疫学および免疫学的コホート研究	23～25年度
基盤研究 (B)	助 教・中 澤 秀 介	4,900	1,470	森林発生人獣共通マラリアの生態学社会学的研究	23～25年度
基盤研究 (B)	客員教授・三浦 聡之	2,800	840	東南アジアの男性同性愛者に感染する HPV 及び HBV の分子疫学	23～25年度
基盤研究 (B)	講 師・菊 池 美穂子	1,000		フィリピンにおける若年性住血吸虫性肝線維化症発症機序の免疫遺伝学的検討	22～25年度
特別研究員 奨 励 費	外国人特別研究員・ FERREIRA, P. E	1,100		マラリア原虫のカルシウムシグナル	24～26年度
研 究 活 動 スタート支援	助 教・坂 部 沙 織	1,100	330	SFTS 病態モデルマウスの探索と病態発現メカニズムの解明	25～26年度
基盤研究 (B)	教 授・金 子 修	3,800	1,140	三日熱マラリア原虫感染赤血球表面分子に対する血清疫学	24～26年度
基盤研究 (B)	教 授・山 本 太 郎	3,900	1,170	中国雲南省の静注薬物常用者の HIV 感染リスクの評価と対策構築に関する研究	24～26年度
基盤研究 (B)	准教授・奥 村 順 子	3,500	1,050	ラオス中南部における少数民族の健康希求行動は乳児死亡の地域間格差をもたらすか	25～29年度
基盤研究 (B)	助 教・早 坂 大 輔	5,300	1,590	インドシナ地域におけるマダニ媒介性人獣共通感染ウイルスの分布調査	25～27年度
基盤研究 (B)	教 授・森 田 公 一	4,600	1,380	熱帯地域に潜む未知の蚊媒介性ウイルスの網羅的探索	25～27年度

研究種目	職名・研究代表者	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研 究 課 題	備 考
基盤研究 (B)	教 授・安 田 二 朗	6,700	2,010	ナイジェリア南東部で流行するラッサ熱の分子疫学・病態解析と迅速診断法の開発	25～27年度
基盤研究 (B)	教 授・山 城 哲	4,900	1,470	北部ベトナムにおけるコミュニティを基盤とした網羅的下痢症の疫学的研究	25～27年度
基盤研究 (B)	教 授・金 子 修	6,800	2,040	マラリア原虫の赤血球侵入時におけるシグナル伝達経路の解明	25～27年度
基盤研究 (C)	教 授・平 山 謙 二	800	240	クルーズトリパノソーマ原虫慢性感染症(シャーガス病)に対するワクチン治療モデル	23～25年度
基盤研究 (C)	助 教・堀 田 こそえ	1,500	450	ベトナムに飛来する渡り鳥の高病原性鳥インフルエンザウイルス感染の実態調査	24～26年度
基盤研究 (C)	助 教・坂 口 美亜子	1,400	420	熱帯熱マラリア原虫のマウレル裂の構造及び形成過程の解明	24～26年度
基盤研究 (C)	助 教・矢 幡 一 英	1,300	390	マラリア原虫の赤血球侵入関連分子の時間・空間的動態解析	24～26年度
基盤研究 (C)	助 教・鈴 木 基	1,400	420	ベトナムにおける小児 Hib ワクチンの臨床的効果と罹患率の推移に関する研究	24～26年度
基盤研究 (C)	准教授・森 本 浩之輔	1,200	360	肺の炎症終息と組織修復における小胞体ストレスのインパクト	24～26年度
基盤研究 (C)	助 教・千 馬 正 敬	1,400	420	陰茎癌におけるヒトパピローマウイルス感染と生体内反応因子に関する研究	24～26年度
基盤研究 (C)	客員研究員・久保 亨	2,700	810	リアルタイム PCR 法を用いた肺炎迅速鑑別・薬剤耐性診断系の構築と地域医療への応用	25～27年度
基盤研究 (C)	講 師・菊 池 美穂子	600	180	日本住血吸虫性肝線維化症重症化に寄与する虫卵由来分泌抗原の機能解析	23～25年度
基盤研究 (C)	助 教・秋 山 剛	600	180	途上国における学校でのメンタルヘルス・プロモーションについての研究	24～26年度
挑戦的萌芽研	教 授・安 波 道 郎	872		表面プラズモン共鳴を応用したデング出血熱重症化予測バイオマーカーの測定法の開発	23～25年度
挑戦的萌芽研	助 教・橋 爪 真 弘	1,400	420	東アフリカ高地のマラリア流行とインド洋大気海洋現象に関する疫学研究	24～25年度
挑戦的萌芽研	教 授・平 山 壽 哉	1,200	360	ピロリ菌毒素 VacA の遺伝子発現制御機構の解析	24～25年度
挑戦的萌芽研	教 授・安 田 二 朗	1,700	510	高病原性ウイルスに対する抗ウイルス活性物質探索のための新規戦略	24～25年度
挑戦的萌芽研	助 教・早 坂 大 輔	1,500	450	フラビウイルス脳炎重症化機序の in vivo 分子イメージング解析	25～26年度

研究種目	職名・研究代表者	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研 究 課 題	備 考
挑 戦 的 萌 芽 研	教 授・金 子 修	1,500	450	超加速変異型サルマラリア原虫を用いたヒト赤血球への適応進化の解析	25～26年度
挑 戦 的 萌 芽 研	教 授・濱 野 真二郎	1,500	450	多光子顕微鏡ならびに PET/SPECT を用いた住血吸虫症の病態解明	25～26年度
若手研究 (A)	助 教・和 田 崇 之	4,900	1,470	結核菌臨床分離株における宿主定着・適応因子の究明と遺伝子型別技術の補完	24～26年度
若手研究 (B)	助 教・比 嘉 由紀子	500	150	日本におけるウイルス感染症媒介蚊の分布と影響を及ぼす環境要因の解明	23～25年度
若手研究 (B)	助 教・加 藤 健太郎	1,000	300	糖ペプチドを用いた腸管寄生原虫による糖鎖認識機構の解明	23～25年度
若手研究 (B)	助 教・都 築 中	283		天敵生物(ケンミジンコ)を用いたデング媒介蚊防除法の効果および便益性の解明	23～25年度
若手研究 (B)	助 教・二 見 恭 子	1,000	300	ネッタイシマカにおける亜種特異的産卵場所選好性の崩壊：同所的分布による行動変化	24～25年度
若手研究 (B)	助 教・中 野 政 之	1,700	510	γ-グルタミルトランスペプチダーゼのサルモネラ病原性への影響の解析	24～25年度
若手研究 (B)	助 教・浦 田 秀 造	1,600	480	可視化技術を利用した出血熱ウイルスの集合・出芽機構解析	25～26年度
若手研究 (B)	客員研究員・森 正彦	1,100	330	アジア発の抗 HIV 免疫情報は既存のアフリカ・欧米情報と相同するか？	25～27年度
若手研究 (B)	助 教・鍋 島 武	500	150	日本脳炎ウイルスの系統地理学	25～26年度
若手研究 (B)	准教授・カレトン リチャード	2,100	630	A genomic approach to the identification of transmission blocking antigens of malaria parasites	25～26年度
若手研究 (B)	助 教・麻 田 正 仁	1,200	360	バベシア原虫赤血球侵入機構の可視化	25～27年度
基盤研究 (B)	客員研究員・市川 智生	750	225	ドイツにおける対日外交文書の収集と利用可能性	研究分担
基盤研究 (C)	助 教・和 田 崇 之	100	30	大阪府に蔓延する多剤耐性結核菌を用いた結核菌感染症マーカーの開発	研究分担
基盤研究 (A)	准教授・カレトン リチャード	1,000	300	アジア霊長類と病原体の宿主寄生体関係史の探索	研究分担
基盤研究 (A)	教 授・安 波 道 郎	1,000	300	アジア霊長類と病原体の宿主寄生体関係史の探索	研究分担
基盤研究 (B)	教 授・二 見 恭 子	300	90	分子情報に基づく熱帯起源生物の移動ルートの解明	研究分担

研究種目	職名・研究代表者	研究経費 (千円)	間接経費 (千円)	研 究 課 題	備 考
基盤研究 (C)	教 授・和 田 崇 之	200	60	東アジアにおける成人 T 細胞白血病 1 型の起源, 進化的変遷, 宿主への適応	研究分担
基盤研究 (B)	教 授・平 山 謙 二	200	60	住民負担の少ない尿診断と媒介蚊調査による糸状虫症根絶の確認と再燃の早期発見	研究分担
基盤研究 (B)	教 授・濱 野 真二郎	200	60	住民負担の少ない尿診断と媒介蚊調査による糸状虫症根絶の確認と再燃の早期発見	研究分担
基盤研究 (B)	助 教・砂 原 俊 彦	200	60	住民負担の少ない尿診断と媒介蚊調査による糸状虫症根絶の確認と再燃の早期発見	研究分担
新学術領域 研 究	教 授・金 子 修	50	15	マトリョーシカ型進化原理(総括班)	研究分担
基盤研究 (A)	客員研究員・久保 亨	1,000	300	デング熱, デング出血熱の新しいバイオマーカーの有用性	研究分担
基盤研究 (B)	助 教・後 藤 健 介	900	270	津波被災後の高齢者の外傷後成長と認知症に関する学際的研究 - 老いの成熟を目指して	研究分担
基盤研究 (B)	助 教・比 嘉 由紀子	1,000	470	東南アジアにおける吸血節足動物媒介性ウイルスの網羅的探索とリスクマップ作製	研究分担
基盤研究 (B)	教 授・濱 野 真二郎	800	240	潜在性結核の検出と, 結核の発症予知技術の確立を目指した, ケニア国における調査研究	研究分担
挑 戦 的 萌 芽 研 究	客員研究員・市川 智生	50	15	中国コロニアル沿岸都市のメディア・ネットワークと東アジアの気候変動	研究分担
合 計	62 件	148,005	43,595		

7. 2 厚生労働科学研究費補助金(平成25年度)

研究事業名	職名・研究者名	研究課題名	研究経費 (千円)	区分
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	教授・森田公一	SFTS の制圧に向けた総合的研究	5,000	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	教授・森田公一	我が国への侵入が危惧される蚊媒介性ウイルス感染症に対する総合的対策の確立に関する研究	1,400	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	教授・安田二郎	防疫上緊急対応を要する一類感染症や新興感染症に対する予防・診断・治療法に関する研究	2,000	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	教授・安田二郎	病原体及び毒素の管理システムおよび評価に関する総括的な研究	800	分担
地球規模保険課題推進研究事業	教授・一瀬休生	サハラ以南アフリカにおけるエイズ・結核研究ネットワーク構築に関する研究	100	分担
地球規模保険課題推進研究事業	教授・皆川昇	ポスト国連開発ミレニアム開発目標における熱帯アフリカマラリア根絶可能性に関する研究	400	分担
地球規模保険課題推進研究事業	教授・平山謙二	ポスト国連開発ミレニアム開発目標における熱帯アフリカマラリア根絶可能性に関する研究	400	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	教授・濱野真二郎	顧みられない寄生虫病の効果的監視法の確立と感染機構の解明に関する研究	1,850	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・早坂大輔	近隣地域からの侵入が危惧される我が国にない感染症の発生予防に関する研究	800	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・和田崇之	結核の革新的な診断・治療及び対策の強化に関する研究	2,100	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・浦田秀造	細胞内脂質合成を標的とした抗高病原性ウイルス療法の分子基盤	2,500	代表
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・早坂大輔	細胞内脂質合成を標的とした抗高病原性ウイルス療法の分子基盤	1,000	分担
新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業	助教・黒崎陽平	細胞内脂質合成を標的とした抗高病原性ウイルス療法の分子基盤	1,500	分担
エイズ対策研究事業	教授・有吉紅也	APOBEC3 分子のタンパク質レベルの機能性多型を基盤とした HIV-1 複製抑制機構の分子基盤の解明	1,600	分担
地球規模保険課題推進研究事業	客員研究員・久保亨	サハラ以南アフリカにおけるエイズ・結核研究ネットワーク構築に関する研究	350	分担
地球規模保険課題推進研究事業 (国際医学協力研究事業)	教授・平山謙二	アジア地域にまん延している疾病に関する研究	9,000	分担
合 計	16 件		30,800	

7. 3 受託研究費等（平成25年度）

7. 3. 1 受託研究費

委 託 者	事業名	職名・氏名	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
文部科学省	科学技術 試験研究	教 授・竹 内 勤	ベトナムにおける長崎大学 感染症研究プロジェクト	180,362 (53,846)	51,685 (16,154)	()内は、 前年度 繰越額
独立行政法人 科学技術 振興機構	地球規模課題 対応国際科学 技術協力 プログラム	教 授・森 田 公 一	ケニアにおける重要アルボウィ ルス感染症に対する簡易迅速診 断手法の開発とそのアウトブ レーク警戒システムの構築	28,638 (5,428)	8,591	()内は、 前年度 繰越額
独立行政法人 国際協力機構	地球規模課題 対応国際科学 技術協力 プログラム	教 授・森 田 公 一	ケニアにおける黄熱病およびリフ トバレー熱に対する迅速診断法の 開発とそのアウトブレイク警戒シ ステムの構築プロジェクト	47,160 (12,221)	0	()内は、 前年度 繰越額
独立行政法人 国際協力機構	地球規模課題 対応国際科学 技術協力 プログラム	教 授・皆 川 昇	南アフリカにおける気候予 測モデルをもとにした感染 症流行の早期警戒システム の構築	4,437	1,331	
University of South Florida		教 授・金 子 修	Long-term continuous culture of Plasmodium vivax blood stages	7,494	1,124	
国立大学法人 東 京 大 学	環境研究 総合推進 費	教 授・山 本 太 郎	保健・健康・衛生に関する 分野におけるポスト・ミレ ニアム開発目標と指標の提 示	4,616	1,385	
株 式 会 社 東 芝	農林水産省・ 食品産業 科学技術研 究推進事業	教 授・安 田 二 郎	普及型オンサイト家畜感染 症検査システムの開発	4,615	1,385	
国立大学法人 東 京 大 学	農林水産省・ 食品産業 科学技術研 究推進事業	教 授・安 田 二 郎	インターフェロンとその関 連因子による妊娠補助剤と 抗ウイルス治療の開発	16,820	5,046	
国立大学法人 帯広畜産大学	農林水産省・ 食品産業 科学技術研 究推進事業	助 教・麻 田 正 仁	家畜ピロプラズマ病予防・ 治療法の開発に向けたゲノ ム改変技術の開発	10,385	3,115	
独立行政法人 科学技術 振興機構	研究成果 最適展開 支援プロ グラム	講 師・和 田 昭 裕	新規なバイオフィルム形成 阻害剤の適応病原細菌の探 索	770	231	
独立行政法人 科学技術 振興機構	研究成果 最適展開 支援プロ グラム	助 教・麻 田 正 仁	ウシバベシア症に対する遺 伝子改変弱毒生ワクチン株 の開発	810	240	
独立行政法人 科学技術 振興機構	e-ASIA 共同研究 プログラム	教 授・長谷部 太	革新的なデング流行対策と 治療法開発に資するデング ウイルス準種と血管透過性 因子の網羅的解析	2,000	600	
合 計		12 件		308,107	74,733	

7. 3. 2 受託事業費

委 託 者	事業名	職名・氏名	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
独立行政法人 日本学術 振 興 会	アジア・ アフリカ 学術基盤 形成事業	助 教・中 澤 秀 介	マラリア伝播環境の変容と 人獣共通感染性マラリアの 出現の理解に向けた学際的 研究	5,225	0	
独立行政法人 日本学術 振 興 会	平成25年度 論文博士号 取得希望者 に対する支援 事業	教 授・有 吉 紅 也	論文博士号取得希望者に対 する支援事業	1,200	0	
独立行政法人 日本学術 振 興 会	平成25年度 論文博士号 取得希望者 に対する支援 事業	教 授・平 山 謙 二	論文博士号取得希望者に対 する支援事業	1,200	0	
独立行政法人 日本学術 振 興 会	平成25年度 論文博士号 取得希望者 に対する支援 事業	教 授・金 子 修	論文博士号取得希望者に対 する支援事業	1,200	0	
独立行政法人 国際協力機 構九州国際 センタ一	草 の 根 技術協力 事業	教 授・嶋 田 雅 暁	健康な地域社会をつくる学 童支援プロジェクト	19,646	1,090	
合 計		5 件		28,471	1,090	

7. 3. 3 その他の補助金

補助金名	職名・氏名	プログラム名	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	備 考
研究開発施設 共用等促進費 補 助 金	教 授・平 山 謙 二	病原微生物の収集・保存・提供体 制の整備(病原性原虫の収集・保 存と提供)	4,300	0	
若手研究者 戦略的海外派遣 事業費補助金	教 授・濱 野 真二郎	熱帯性蚊媒介ウイルスの国際調査 とフィールド志向型熱帯感染症専 門家の強化育成事業	23,375	0	
合 計		2 件	27,675	0	

7. 3. 4 民間等の共同研究

民間等機関名	職名・氏名	研 究 題 目	民 間 等 (千円)	大 学 (千円)	備 考
株式会社東芝	教授・安田二郎	ウイルス検出用DNAチップの開発	6,260	0	
住友化学株式会社	教授・皆川昇	殺虫剤デリバリー技術の性能評価及び評価系の構築	35,000	0	
アステラス製薬株式会社	教授・平山謙二	抗寄生原虫薬のスクリーニングに関する共同研究	15,000	0	
アステラス製薬株式会社	教授・森田公一	抗デングウイルス薬のスクリーニングに関する共同研究	12,000	0	
アース製薬株式会社	教授・皆川昇	蚊取り剤の効力試験	525	0	
株式会社西日本ビルサービス	教授・皆川昇	ベトナムの環境に適した害虫防除手法の検討	1,050	0	
有限会社T.Mエンタープライズ	准教授・川田均	蚊幼虫の発生抑制剤およびその方法の開発研究	500	0	
財団法人阪大微生物病研究会	教授・森田公一	ウエストナイル不活化ワクチンの実用化研究	0	0	
独立行政法人宇宙航空研究開発機構	教授・橋爪真弘	衛生データの健康保健部分野での利用に関する研究	0	0	
合 計	9件		70,335	0	

8 海外活動

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	有 吉 紅 也	World Health Summitへの参加, ロンドン熱帯医学校校長との面談等	シンガポール	H25. 4. 7 ～ H25. 4. 11	運営費交付金 (熱帯医学校)
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ(エチオピア), 紫雲膏プロジェクト実施及び倫理委員会打ち合わせ (タイ)	エチオピア タ イ	H25. 4. 8 ～ H25. 4. 18	運営費交付金
教 授	平 山 謙 二	紫雲膏プロジェクト打合せ	エチオピア	H25. 4. 9 ～ H25. 4. 13	運営費交付金
教 授	山 本 太 郎	中国雲南省の静注薬物常用者のHIV感染リスクの評価と対策構築に関する研究打合せ	中 国	H25. 4. 14 ～ H25. 4. 19	科学研究費 補 助 金
准教授	吉田 レイミント	小児呼吸器感染症の研究打合せ及び検体収集	ベ ト ナ ム	H25. 4. 14 ～ H25. 4. 26	寄 付 金
教 授	濱 野 真二郎	WHO Informal Core Group Meeting on Lymphatic Filariasis Morbidity Management and Disability Prevention (MMDP)	ス イ ス	H25. 4. 15 ～ H25. 4. 21	先 方 負 担 (W H O)
技 能 補佐員	川 島 恵美子	ビタ地区フィールド調査及び解析	ケ ニ ア	H25. 4. 15 ～ H25. 5. 10	運営費交付金
助 教	比 嘉 由紀子	フィールド調査と研究打合せ	マ ラ ウ イ	H25. 4. 15 ～ H25. 5. 13	受託研究等 収 入
准教授	川 田 均	ビタ地区フィールド調査	ケ ニ ア	H25. 4. 15 ～ H25. 5. 31	共 同 研 究 (住友化学)
教 授	嶋 田 雅 暁	JICA-JSPSプロジェクトセミナー参加	マ ラ ウ イ	H25. 4. 17 ～ H25. 4. 20	先 方 負 担 (JICA-JSPS)
産学官 連 携 研究員	樋 泉 道 子	呼吸器感染症のデータ収集・管理, ミーティングへの参加	ベ ト ナ ム	H25. 4. 21 ～ H25. 6. 7	受託研究等 収 入
助 教	二 見 恭 子	フィールド調査と研究打合せ	ケ ニ ア	H25. 4. 22 ～ H25. 6. 26	科学研究費 補 助 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ, タイ国立研究協議会にてトレーニング, FERCAP 会議出席	タ イ	H25. 4. 23 ～ H25. 5. 7	運営費交付金
教 授	皆 川 昇	現地調査打合せ(ケニア), 調査報告及び新年度打合せ (マラウイ)	ケ ニ ア マ ラ ウ イ	H25. 4. 26 ～ H25. 5. 12	科学研究費補 助金, 受託研 究 費 等 収 入
助 教	チャベスサナブリアル イス フェルナンド	5th World Congress on Leishmaniasis-WORLDDDELISH 5 参加による情報収集	ブ ラ ジ ル	H25. 5. 11 ～ H25. 5. 21	自 己 収 入 (交付金対象)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
准教授	吉田 レイミント	小児呼吸器感染症の研究打合せ及び検体収集	ベトナム	H25. 5. 12 ～ H25. 5. 18	寄 附 金
教 授	安 波 道 郎	研究打合せ（ベトナム），共同研究実施（タイ）	ベトナム タイ	H25. 5. 13 ～ H25. 5. 18	科学研究費補助金,自己収入 (交付金対象)
教 授	ローサボーン チャントラ	タマサート大学にて紫雲膏プロジェクトに関する打合せ（タイ），第13回アジア太平洋地域におけるワクチン学国際上級コース出席（韓国）	タイ 韓国	H25. 5. 13 ～ H25. 5. 22	運営費交付金, 先方負担(国際ワクチン研究所)
助 教	鈴木 基	カンホア県保健省にて感染症の研究打合せとデータ収集	ベトナム	H25. 5. 14 ～ H25. 5. 16	科学研究費補助金
助 教	後 藤 健 介	HDSSに係る研究実施及び打合せのため	ケニア	H25. 5. 15 ～ H25. 7. 21	運営費交付金
助 教	鈴木 基	サンラザロ病院にて研究打合せ	フィリピン	H25. 5. 22 ～ H25. 5. 24	自己収入 (交付金対象)
教 授	橋 爪 真 弘	GRL International Symposiumに参加し情報収集を行う	韓国	H25. 5. 22 ～ H25. 5. 26	先 方 負 担 (ソウル大学)
教 授	平 山 謙 二	Middleton International Fellow's Assosiation Leadership Committee Meeting 出席	アメリカ	H25. 5. 22 ～ H25. 5. 26	先方負担(倫理研究ミドルトン財団)
教 授	ローサボーン チャントラ	Middleton International Fellow's Assosiation Leadership Committee Meeting 出席	アメリカ	H25. 5. 22 ～ H25. 5. 26	先方負担(倫理研究ミドルトン財団)
准教授	カ レ ト ン リ チャード レイ ト ン	江蘇省血吸寄生虫防治研究所にて共同研究打合せ	中国	H25. 5. 25 ～ H25. 5. 28	自己収入 (交付金対象)
教 授	皆 川 昇	Program Global Mararia Eradication に参加	スウェーデン	H25. 5. 26 ～ H25. 5. 31	先 方 負 担 (大阪大学)
准教授	吉田 レイミント	小児呼吸器感染症の研究打合せ及び検体収集	ベトナム	H25. 5. 26 ～ H25. 6. 1	受託研究等収入
准教授	奥 村 順 子	18th World Congress on Disaster & Emergency Medicineにおいて口頭発表を行う	イギリス	H25. 5. 26 ～ H25. 6. 2	自 費
教 授	ローサボーン チャントラ	倫理委員会会議出席（中国），紫雲膏プロジェクトに関する打合せ（タイ）（エチオピア）	中国 タイ エチオピア	H25. 5. 26 ～ H25. 6. 13	先方負担(北京天伝 医員, 広州市中央病院), 運営費交付金
教 授	金 子 修	Advances in Plasmodium vivax Malaria Research出席及び研究打合せ	スペイン	H25. 5. 27 ～ H25. 6. 2	科学研究費補助金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	橋 爪 真 弘	感染症研究打合せ(イギリス) (ケニア)	イ ギ リ ス ケ ニ ア	H25. 5. 28 ～ H25. 6. 8	科学研究費 補 助 金
教 授	森 田 公 一	人獣共通感染症に関する研究打合せ並びに第44回NIHE-NUステコミ出席	ベ ト ナ ム	H25. 5. 29 ～ H25. 6. 1	受託研究等 収 入
教 授	森 田 公 一	SATREPSに関する打合せ	ケ ニ ア	H25. 6. 3 ～ H25. 6. 13	科学研究費 補助金, 受託 研究等収入
助 教	早 坂 大 輔	ベトナム北部山岳地帯におけるマダニ採集	ベ ト ナ ム	H25. 6. 4 ～ H25. 6. 8	科学研究費 補 助 金
教 授	平 山 謙 二	マラリアの免疫学研究の打ち合わせ(ベトナム) (エチオピア) (ケニア)	ベ ト ナ ム エチオピア ケ ニ ア	H25. 6. 7 ～ H25. 6. 16	運営費交付金
教 授	濱 野 真二郎	南アジアにおける赤痢アメーバ症のゲノム疫学及び免疫学的コホート研究に関する打合せ・討議のため	バングラデシュ	H25. 6. 10 ～ H25. 6. 14	科学研究費 補 助 金
准教授	奥 村 順 子	調査実施にかかる現地関係機関との協議	ラ オ ス	H25. 6. 10 ～ H25. 6. 21	科学研究費 補 助 金
助 教	チャベスサナプリアル ルイス フェルナンド	トリパノソーマに関する調査研究	パ ナ マ	H25. 6. 11 ～ H25. 6. 23	自 己 収 入 (交付金対象)
産学官 連 携 研究員	樋 泉 道 子	呼吸器感染症のデータ収集・管理, データクリーニング及びミーティングへの参加	ベ ト ナ ム	H25. 6. 12 ～ H25. 10. 27	受託研究等 収 入
教 授	安 田 二 朗	15th International Negative Strand Virus Meeting 出席のため	ス ペ イ ン	H25. 6. 15 ～ H25. 6. 22	科学研究費 補 助 金
助 教	黒 崎 陽 平	15th International Negative Strand Virus Meeting 出席のため	ス ペ イ ン	H25. 6. 15 ～ H25. 6. 23	自 己 収 入 (交付金対象)
助 教	浦 田 秀 造	15th International Negative Strand Virus Meeting 出席のため	ス ペ イ ン	H25. 6. 15 ～ H25. 6. 23	科学研究費 補 助 金
准教授	吉田 レイミント	共同研究に関する打合せ及びデータ収集	ベ ト ナ ム	H25. 6. 22 ～ H25. 7. 4	受託研究等 収 入
教 授	ローサボーン チャントラ	タマサート大学にて紫雲膏プロジェクト打合せ(タイ), FERCAPフォーラム出席のため(中国)	タ 中 イ 国	H25. 6. 22 ～ H25. 7. 5	運営費交付金, 先方負担(国際 ワクチン研究所)
教 授	金 子 聰	論文博士号取得希望者への研究指導	ケ ニ ア	H25. 6. 24 ～ H25. 7. 7	日 本 学 術 振 興 会

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	平 山 謙 二	FERCAP出席のため	中 国	H25. 6. 26 ～ H25. 6. 27	自 己 収 入 (交付金対象)
助 教	鈴 木 基	サンザラロ病院にて研究打合せ	フィリピン	H25. 6. 26 ～ H25. 6. 28	自 己 収 入 (交付金対象)
教 授	平 山 謙 二	シャーガス病の薬剤治療反応性を規定する原虫及び宿主遺伝要因解析の打合せ	ア メ リ カ	H25. 6. 30 ～ H25. 7. 6	科学 研 究 費 補 助 金
プ ロ ジェ クト 研 究 員	風 幸 世	ケニアにおける寄生虫に関するフィールド調査	ケ ニ ア	H25. 7. 3 ～ H25. 8. 10	運営費交付金
教 授	一 瀬 休 生	アルベール・シュバイツァー博士ガボン来訪100周年シンポジウム出席のため	ガ ボ ン	H25. 7. 5 ～ H25. 7. 10	間 接 経 費
教 授	皆 川 昇	SATREPS詳細計画策定調査の事前打合せ(南アフリカ), 研究調査打合せ(ザンビア)(モザンビーク)	南アフリカ ザンビア モザンビーク	H25. 7. 8 ～ H25. 7. 19	受託研究(SA- TREPS), 科学 研究費補助金
教 授	橋 爪 真 弘	SATREPS詳細計画策定調査の事前打合せ(南アフリカ)	南アフリカ	H25. 7. 8 ～ H25. 7. 19	受 託 研 究 (SATREPS)
技 術 員	戸 田 みつる	黄熱病及びリフトバレー熱の迅速診断キット(第一世代)の製造並びに品質検定を行うため	ケ ニ ア	H25. 7. 8 ～ H26. 1. 19	受託研究等 収 入 (SATREPS)
教 授	平 山 謙 二	デング出血熱の研究打合せ	ベ ト ナ ム	H25. 7. 9 ～ H25. 7. 11	受託研究等 収 入
教 授	ローサボーン チャントラ	FERCAPフォーラム参加のため(フィリピン), 紫雲膏プロジェクトうちあわせ(タイ)	フィリピン タ イ	H25. 7. 12 ～ H25. 7. 24	運営費交付金
教 授	平 山 壽 哉	The 5th Congress of European Microbiologists (FEMS 2013) 学会発表のため	ド イ ツ	H25. 7. 19 ～ H25. 7. 26	寄 附 金
准教授	吉田 レイミント	ステアリングコミッティ会議及び共同研究打合せ, データ管理収集を行う	ベ ト ナ ム	H25. 7. 23 ～ H25. 8. 3	受託研究等 収 入
准教授	森 本 浩之輔	研究内容のプレゼンテーションと討議, 研究ミーティングへの参加	ア メ リ カ	H25. 7. 24 ～ H25. 8. 5	科学 研 究 費 補 助 金
助 教	井 上 真 吾	黄熱病及びリフトバレー熱の迅速診断キットの製造・品質検定	ケ ニ ア	H25. 7. 24 ～ H25. 12. 15	受 託 研 究 (SATREPS)
助 教	鈴 木 基	カンホア県保健省にて感染症の研究打合せとデータ収集	ベ ト ナ ム	H25. 7. 29 ～ H25. 8. 1	自 己 収 入 (交付金対象)

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	安 波 道 郎	ベトナム中部に確立した出生コホートの拡充による小児重症疾患の総合的はリスク評価	ベ ト ナ ム	H25. 7. 29 ～ H25. 8. 3	科学研究費 補 助 金
教 授	濱 野 真二郎	ケニアにおける寄生虫に関するフィールド調査	ケ ニ ア	H25. 7. 31 ～ H25. 8. 9	運営費交付金
教 授	ローサボーン チャントラ	アカデミック倫理コース参加(コンケン大学), 紫雲膏プロジェクト打合せ(タマサート大学)	タ イ	H25. 8. 1 ～ H25. 8. 6	運営費交付金
教 授	皆 川 昇	MPH学生のフィールド調査に関する現地指導(ケニア), 南アフリカにおける蚊の分布調査(マラウイ), SATREPS詳細計画策定調査(南アフリカ)	ケ ニ ア マ ラ ウ イ 南アフリカ	H25. 8. 2 ～ H25. 8. 30	自己収入(交付金対象), 受託研究等収入 先方負担(JICA)
教 授	平 山 謙 二	XLIX Congress of the Brazilian Society of Tropical Medicine	ブ ラ ジ ル	H25. 8. 4 ～ H25. 8. 12	科学研究費 補 助 金
教 授	山 本 太 郎	西藏少数民族の高地適応戦略と生活習慣病についての研究	中 国	H25. 8. 8 ～ H25. 8. 13	寄 付 金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクトの研究打ち合わせ(タイ)FERCAP倫理国際コース参加(中国)	タ 中 中 イ 国	H25. 8. 12 ～ H25. 9. 6	運営費交付金, 先方負担(上海交通大学)
教 授	橋 爪 真 弘	International Society of Environmental Epidemiologyに参加し情報収集を行う	ス イ ス	H25. 8. 17 ～ H25. 8. 24	科学研究費 補 助 金
事 務 員	亀 澤 剛	南部アフリカにおける気候予測モデルをもとにした感染症流行に関するプロジェクトの詳細計画策定調査	南アフリカ	H25. 8. 17 ～ H25. 8. 29	受託研究等 収 入
教 授	平 山 壽 哉	学会発表(イタリア)と共同研究打合せ(フランス)	イ タ リ ア フ ラ ンス	H25. 8. 18 ～ H25. 8. 31	寄 付 金
教 授	安 波 道 郎	研究打合せ	ジャカルタ	H25. 8. 21 ～ H25. 8. 25	科学研究費 補 助 金
教 授	金 子 修	Southeast Asia ICEMR SAG Meeting出席及びマラリアに関する情報収集	中 国	H25. 8. 23 ～ H25. 8. 27	先 方 負 担 (Pennsylvania State University)
助 教	後 藤 健 介	HDSSに係る研究実施及び打合せのため	ケ ニ ア	H25. 8. 23 ～ H25. 10. 12	運営費交付金
准教授	川 田 均	ベトナムにおける害虫駆除入門講座へ講師として参加	ベ ト ナ ム	H25. 8. 26 ～ H25. 8. 28	受託研究等 収 入
助 教	角 田 隆	ベトナムと日本で採集した蚊の画像解析と研究打ち合わせ	タ イ	H25. 8. 28 ～ H25. 8. 29	受託研究等 収 入

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	濱 野 真二郎	Forum Cheju-16に参加，発表のため	韓 国	H25. 8. 30 ～ H25. 9. 1	寄 付 金
教 授	橋 爪 真 弘	Forum Cheju-16に参加し招待講演および情報収集を行う	韓 国	H25. 8. 30 ～ H25. 9. 1	先 方 負 担 (ソウル大学)
教 授	平 山 壽 哉	学会出席と発表(ERS Annual Congress2013)とマドリード(EHSG2013)	ス ペ イ ン	H25. 9. 5 ～ H25. 9. 16	科学 研 究 費 補 助 金
産学官 連 携 研究員	サンサラヤート パンパディット	共同研究 (マヒドン大学)	タ イ	H25. 9. 5 ～ H25. 10. 21	受託研究等 収 入
助 教	矢 幡 一 英	研究打合せ及び情報収集, 2013Annual Molecular Parasitology Meeting出席	ア メ リ カ	H25. 9. 6 ～ H25. 9. 15	科学 研 究 費 補 助 金
准教授	森 本 浩之輔	ヨーロッパ呼吸器学会に出席のため	ス ペ イ ン	H25. 9. 7 ～ H25. 9. 13	寄 附 金
助 教	鈴 木 基	ヨーロッパ呼吸器学会に出席のため	ス ペ イ ン	H25. 9. 7 ～ H25. 9. 13	寄 附 金
教 授	有 吉 紅 也	ロンドンLSHTM大学にて熱帯医学GH校設置準備打合せ	イ ギ リ ス	H25. 9. 7 ～ H25. 9. 16	運営費交付金
准教授	吉田 レイミント	共同研究打合せ及びデータ収集	ミャンマー	H25. 9. 7 ～ H25. 9. 16	運営費交付金
教 授	橋 爪 真 弘	共同研究者会議に参加し情報収集を行う	ミャンマー	H25. 9. 8 ～ H25. 9. 10	運営費交付金
教 授	ローサボーン チャントラ	1. 倫理研究会議出席 (アメリカ) 2. 現地調査 (マレーシア) 3. FERCAP打合せ (タイ)	ア メ リ カ マレーシア タ イ	H25. 9. 9 ～ H25. 9. 30	先方負担(倫理研究ミドル トン財団(アメリカ), 運営 費交付金(マレーシア, タイ))
教 授	橋 爪 真 弘	熱帯医学GH校設立準備のための打合せ	イ ギ リ ス	H25. 9. 11 ～ H25. 9. 14	運営費交付金
助 教	秋 山 剛	事業に係る統合的啓発活動実施のため	ケ ニ ア	H25. 9. 15 ～ H25. 10. 31	文 部 科 学 省 (1ヶ月以上)
教 授	金 子 聰	論文博士号取得希望者への指導	ケ ニ ア	H25. 9. 16 ～ H25. 9. 20	受託研究等 収 入
助 教	シャー モハマド モ ニ ル	リーディング大学院プログラムによる 学生受け入れと研究に関する打合せ	ケ ニ ア	H25. 9. 16 ～ H25. 10. 2	GP5)博士課程 教育リーディング プログラム

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
プロジェクト 研究員	風 幸 世	熱帯医学GH校準備打合せ(イギリス) フィールド見学・実施調査(ケニア)	ケ ニ ア	H25. 9. 16 ～ H25. 10. 27	運営費交付金
助 教	比 嘉 由紀子	デング熱媒介蚊幼虫採集調査	フィリピン	H25. 9. 18 ～ H25. 10. 17	受託研究等 収 入
准教授	川 田 均	デング熱媒介蚊採集調査(タイ, ミャン マー)	タ イ ミャンマー	H25. 9. 25 ～ H25. 10. 5	受託研究等 収 入
教 授	金 子 聰	マルチプレックス研究のフィールド調 査のための調整	ケ ニ ア	H25. 9. 28 ～ H25. 10. 1	科 学 技 術 振 興 機 構
教 授	皆 川 昇	学会参加による情報収集および研究打 合せ	南アフリカ	H25. 10. 6 ～ H25. 10. 16	受託研究等 収 入
教 授	山 本 太 郎	国際保健分野のPOST15 MDGsに関す る研究	ア メ リ カ	H25. 10. 8 ～ H25. 10. 16	受託研究等 収 入
助 教	中 澤 秀 介	カンフー地区現地調査及び研究打合せ	ベ ト ナ ム	H25. 10. 9 ～ H25. 10. 17	受託研究等 収 入
准教授	吉田 レイミント	共同研究打合せ, ステアリングコミッ ティー会議, 共同研究者会議	ベ ト ナ ム	H25. 10. 9 ～ H25. 10. 19	受託研究等 収 入
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲プロジェクト打合せ及びデータ解 析	タ イ	H25. 10. 10 ～ H25. 10. 16	運営費交付金
准教授	奥 村 順 子	乳幼児死亡の少数民族間における格差 に関する現地調査	ラ オ ス	H25. 10. 14 ～ H25. 10. 25	科学研究費 補 助 金
技 能 補佐員	竹 田 美 香	三日熱マラリア原虫に関する実験及び データ解析	タ イ	H25. 10. 15 ～ H25. 11. 21	科学研究費 補 助 金 (1ヶ月以上)
助 教	鈴 木 基	Khanh HoanHealthServiceにて感染症の 研究打合せとデータ収集	ベ ト ナ ム	H25. 10. 16 ～ H25. 10. 19	科学研究費 補 助 金
教 授	安 波 道 郎	ASHG 63rd Annual Meetingに出席, 発表	ア メ リ カ	H25. 10. 21 ～ H25. 10. 27	科学研究費 補 助 金
講 師	菊 池 三穂子	Regional Network for Asian Schistosoma s and Other Helminth Zoonoses(RNAS+)に出席・研究打合せ	タ イ	H25. 10. 22 ～ H25. 10. 27	科学研究費補 助 金
助 教	鈴 木 基	研究打合せ	フィリピン	H25. 10. 23 ～ H25. 10. 25	運営費交付金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	金 子 修	第55回韓国寄生虫学・熱帯医学会大会出席	韓 国	H25. 10. 24 ～ H25. 10. 26	先方負担(韓国寄生虫学・熱帯医学会)
助 教	和 田 崇 之	学会参加(シンガポール)ワークショップ(マレーシア)	シンガポール	H25. 10. 25 ～ H25. 10. 31	科学研究費補助金
教 授	森 田 公 一	SATREPS事業打合せ	ケ ニ ア	H25. 10. 27 ～ H25. 11. 1	受託研究等収入
助 教	二 見 恭 子	中間宿主員の分布と感染率の調査研究ほか	ケ ニ ア	H25. 10. 30 ～ H25. 12. 20	科学研究費補助金
准教授	吉田 レイミント	Meeting of the Paediatric Respiratory Syncytial Virus Investigators' Working Group, Edinburgh	イギリス	H25. 11. 2 ～ H25. 11. 8	先方負担(University of Edinburgh)
産学官 連 携 研究員	樋 泉 道 子	データ収集, 管理, 定期ミーティング参加(ベトナム), WSPID参加, ポスター発表(南アフリカ)	ベトナム 南アフリカ	H25. 11. 3 ～ H26. 1. 22	受託研究等収入
教 授	金 子 聰	HDSSを使用した現地住民の生態調査	ラ オ ス	H25. 11. 6 ～ H25. 11. 15	科学研究費補助金
助 教	秋 山 剛	事業に係る統合的啓発活動実施のため	ケ ニ ア	H25. 11. 6 ～ H25. 12. 30	文部科学省(1ヶ月以上)
教 授	金 子 修	研究打合せ及びデータ解析	タ イ	H25. 11. 9 ～ H25. 11. 16	科学研究費補助金
助 教	鈴 木 基	ロンドン大学衛生熱帯医学校での研究会議	イギリス	H25. 11. 9 ～ H25. 11. 17	科学研究費補助金
教 授	ローサボーン チャントラ	紫雲膏打合せおよびデータ解析(タイ), 13th FERCAP International Conference 参加(インドネシア)	タ イ インドネシア	H25. 11. 10 ～ H25. 11. 26	運営費交付金
教 授	皆 川 昇	GH校関連シンポジウム聴講・情報交換・視察	ア メ リ カ	H25. 11. 11 ～ H25. 11. 25	運営費交付金
助 教	藤 井 仁 人	Multiplesアッセイ法開発に関する研究実施と研究打合せ	ケ ニ ア	H25. 11. 11 ～ H25. 12. 14	科学研究費補助金
教 授	橋 爪 真 弘	ASTMH 62nd Annual Meeting参加	ア メ リ カ	H25. 11. 12 ～ H25. 11. 17	運営費交付金
教 授	安 波 道 郎	アジア霊長類と病原体の宿主寄生体関係史の探索・研究打合せ	タ イ	H25. 11. 14 ～ H25. 11. 18	科学研究費補助金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	平 山 謙 二	13th FERCAP International Conference 参加	インドネシア	H25. 11. 15 ～ H25. 11. 23	受託研究等 収 入
教 授	有 吉 紅 也	タイNIH共同研究者と研究活動打合せ, 「第11回アジア太平洋地域エイズ国際 会議 (ICAAP)」に参加	タ イ	H25. 11. 15 ～ H25. 11. 23	科学研究費 補 助 金
准教授	グエン フィ テ イ エ ン	13th FERCAP International Conference 参加	インドネシア	H25. 11. 16 ～ H25. 11. 27	運営費交付金
助 教	浦 田 秀 造	BSL-4施設視察	ド イ ツ	H25. 11. 17 ～ H25. 11. 24	運営費交付金
講 師	上 村 春 樹	BSL-4施設視察	ド イ ツ	H25. 11. 18 ～ H25. 11. 23	運営費交付金
助 教	後 藤 健 介	HDSSに係る研究実施及び研究打合せ	ケ ニ ア	H25. 11. 22 ～ H25. 12. 14	運営費交付金
助 教	比 嘉 由紀子	フィリピンにおける病原体媒介性ダニ 調査に関する打合せおよび予備調査	フィリピン	H25. 11. 23 ～ H25. 11. 28	科学研究費 補 助 金
教 授	安 波 道 郎	研究打合せおよびインターナルセミナー 出席	ベ ト ナ ム	H25. 11. 25 ～ H25. 11. 30	科学研究費 補 助 金
准教授	吉田 レイミント	共同研究打合せ	ベ ト ナ ム	H25. 11. 25 ～ H25. 11. 30	受託研究等 収 入
教 授	森 田 公 一	第47回ステコミ出席, インターナルセ ミナー出席	ベ ト ナ ム	H25. 11. 26 ～ H25. 11. 29	受託研究等 収 入
助 教	都 築 中	インターナルセミナー参加	ベ ト ナ ム	H25. 11. 26 ～ H25. 11. 30	受託研究等 収 入
助 教	川 田 均	デング熱媒介蚊の分布調査および殺虫 剤抵抗性調査	ガ ー ナ	H25. 11. 26 ～ H25. 12. 17	受託研究等 収 入
産学官 連 携 研究員	ミヤ ミヤツ スグエ トン	デングウイルスのサンプル採集	ミャンマー	H25. 11. 30 ～ H25. 12. 16	受託研究等 収 入
教 授	濱 野 真二郎	南アジアにおける赤痢アメーバ症のゲ ノム疫学および免疫学的コホート研究	バングラデシュ	H25. 12. 2 ～ H25. 12. 6	科学研究費 補 助 金
講 師	菊 池 三穂子	南アジアにおける赤痢アメーバ症のゲ ノム疫学および免疫学的コホート研究	バングラデシュ	H25. 12. 2 ～ H25. 12. 6	科学研究費 補 助 金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	ローサボーン チャントラ	リーディングプログラム大学院生ク ランセンソンプーン・ナットの研究に 関する打ち合わせ	タ イ	H25. 12. 5 ～ H25. 12. 11	GP5)博士課程教育リー ディングプログラム、 日本学術振興会
教 授	皆 川 昇	GH校に関連した大学院プログラムの 視察及び関係者からの情報収集	イ ギ リ ス	H25. 12. 6 ～ H25. 12. 12	運営費交付金
教 授	安 田 二 朗	1st Annual International Conference on Advances in Veterinary Science Re- search	シンガポール	H25. 12. 7 ～ H25. 12. 12	受託研究等 収 入
教 授	橋 爪 真 弘	Meeting of the Climate change and Health Thematic Working Group参加・情報収 集	インドネシア	H25. 12. 7 ～ H25. 12. 13	先 方 負 担 (W H O)
助 教	坂 口 美亜子	3DSEMを用いたマラリア感染赤血球の 構造解析について	ア メ リ カ	H25. 12. 8 ～ H25. 12. 14	運営費交付金
教 授	有 吉 紅 也	サンラザロ病院における発熱患者の現 状把握と微生物学室の現状把握	フィリピン	H25. 12. 9 ～ H25. 12. 11	運営費交付金
助 教	鈴 木 基	フィリピン国立サンラザロ病院で、レ プトスピラ症に関する研究打合せ	フィリピン	H25. 12. 9 ～ H25. 12. 11	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	山 本 太 郎	西藏少数民族の高地適応戦略と生活習 慣病についての研究	中 国	H25. 12. 10 ～ H25. 12. 20	寄 附 金
教 授	金 子 聰	MPH学生のインターンシップ先訪問と研究進捗状況の 視察(フィリピン), GRENEとアジアアフリカ学術基 盤形成事業の合同シンポジウム参加(ベトナム)	フィリピン ベトナム	H25. 12. 11 ～ H25. 12. 17	運営費交付金
准教授	奥 村 順 子	乳幼児死亡の少数民族間における格差 に関する現地調査	ラ オ ス	H25. 12. 15 ～ H25. 12. 21	科学 研 究 費 補 助 金
教 授	橋 爪 真 弘	共同研究打合せ及び情報収集	ケ ニ ア	H25. 12. 17 ～ H25. 12. 22	科学 研 究 費 補 助 金
助 教	和 田 崇 之	結核分子疫学研究打合せ, サル白血病 の研究打合せ, 抗酸菌感染症の研究打 合せ	台 湾	H25. 12. 19 ～ H25. 12. 22	運営費交付金
産学官 連 携 研究員	林 下 真 美	抗酸菌感染症に関する研究打合せ, サ ル白血病に関する研究打合せ	台 湾	H25. 12. 19 ～ H25. 12. 22	運営費交付金
技 術 職 員	柳 哲 雄	アジアにおける新種病原アメーバの分 布とゲノム多様性に関する研究	ミャンマー	H25. 12. 19 ～ H25. 12. 25	先 方 負 担 (ヤンゴン工 科 大 学)
教 授	皆 川 昇	住血吸虫症の中間宿主具に関する調査・ 研究	ケ ニ ア	H25. 12. 25 ～ H26. 1. 8	科学 研 究 費 補 助 金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
教 授	ローサ ボーン チャントラ	紫雲膏プロジェクト打合せ, FERCAP 打合せ	タ イ	H26. 1. 2 ～ H26. 1. 16	運営費交付金
助 教	二 見 恭 子	中間宿主貝の分布と件旋律の調査研究	ケ ニ ア	H26. 1. 2 ～ H26. 2. 14	若手研究者戦 略的海外派遣 事業費補助金
助 教	秋 山 剛	ケニア拠点に関する事務打合せ	ケ ニ ア	H26. 1. 4 ～ H26. 3. 23	文部科学省 (1ヶ月以上)
教 授	橋 爪 真 弘	共同研究打合せ及び情報収集	ケ ニ ア	H26. 1. 7 ～ H26. 1. 12	運営費交付金
教 授	安 波 道 郎	ホーチミンパスツール研究所・ニャチャ ンパスツール研究所にて研究打合せ, 共同研究実施	ベ ト ナ ム	H26. 1. 7 ～ H26. 1. 17	科学研究費 補 助 金
講 師	菊 池 三穂子	フィールド調査	フィリピン	H26. 1. 10 ～ H26. 1. 15	科学研究費 補 助 金
客 員 教 授	テンプルトン トーマス ジェームズ	マラリア原虫分子に関する研究打合せ 及び情報収集	ア メ リ カ	H26. 1. 11 ～ H26. 1. 21	自 費
准教授	吉田 レイミント	論文博士研究者の「中部ベトナムにお けるHIVウイルスの分子疫学」論文作 成に伴う研究指導	ベ ト ナ ム	H26. 1. 13 ～ H26. 1. 18	受託研究等 収 入
助 教	井 上 真 吾	黄熱病及びリフトバレー熱の迅速診断 キットの製造・品質検定のため	ケ ニ ア	H26. 1. 16 ～ H26. 4. 20	受託研究等 収 入
教 授	有 吉 紅 也	熱帯医学GH研究科設置打合せ	イ ギ リ ス	H26. 1. 19 ～ H26. 1. 26	運営費交付金
教 授	橋 爪 真 弘	共同研究打合せ	イ ギ リ ス	H26. 1. 22 ～ H25. 1. 29	先 方 負 担 (筑波大学)
教 授	金 子 修	熱帯熱マラリア原虫に関する研究打合 せ	ケ ニ ア	H26. 1. 23 ～ H26. 2. 4	受託研究等 収 入
教 授	ローサ ボーン チャントラ	タマサート大学でケセラ先生とリーディ ング大学院生NutのAntiCCAの研究打ち 合わせ	タ イ	H26. 1. 24 ～ H26. 2. 3	GP5) 博士課程 教育リーディ ングプログラム
助 教	鈴 木 基	教育研究フィールドの打合せ	ケ ニ ア	H26. 1. 27 ～ H26. 2. 2	運営費交付金
助 教	余 福 勲	ELISA診断キットの評価	ケ ニ ア	H26. 1. 27 ～ H26. 2. 12	受託研究等 収 入

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
技 術 員	戸 田 みつる	黄熱病及びリフトバレー熱に係る早期警戒システム構築のため	ケ ニ ア	H26. 2. 3 ～ H26. 4. 2	受託研究等 収 入
教 授	ローサボーン チャントラ	タマサート大学でケセラ先生とリーディング大学院生NutのAntiCCAの研究打ち合わせ	日 本	H26. 2. 6 ～ H26. 2. 11	GP5)博士課程 教育リーディング プログラム
助 教	シャー モハマト モ ニ ル	16th International Conference on Emerging Infectious Diseases in the Pacific Rimへの参加する	バングラデシュ	H26. 2. 8 ～ H26. 2. 16	GP5)博士課程 教育リーディング プログラム
教 授	山 城 哲	第16回汎太平洋新興感染症会議(EID)出席	バングラデシュ	H26. 2. 9 ～ H26. 2. 14	受託研究等 収 入
助 教	早 坂 大 輔	節足動物媒介ウイルス研究の打ち合わせ、情報収集及び現地調査を行うため	ベ ト ナ ム	H26. 2. 11 ～ H26. 2. 17	GP5)博士課程 教育リーディング プログラム
教 授	山 城 哲	インフルエンザ研究に関する打合せ	ベ ト ナ ム	H26. 2. 16 ～ H26. 2. 22	受託研究等 収 入
研究員	アロンゾ マリア テレス ガルベズ	セントルークス医療センターとのデング出血熱の共同研究	フィリピン	H26. 2. 17 ～ H26. 3. 10	受託研究等 収 入
助 教	後 藤 健 介	HDSSにかかる研究実施施設及び研究打合せ	ケ ニ ア	H26. 2. 18 ～ H26. 2. 27	運営費交付金
事 務 員	亀 澤 剛	事務打合せ	ベ ト ナ ム	H26. 3. 1 ～ H26. 3. 4	受託研究等 収 入
事 務 員	垣 内 陶 奈	事務打合せ	ベ ト ナ ム	H26. 3. 1 ～ H26. 3. 4	受託研究等 収 入
講 師	上 村 春 樹	熱帯熱マラリア原虫に関する研究及び情報収集	インドネシア	H26. 3. 2 ～ H26. 3. 17	運営費交付金
教 授	金 子 修	Malaria Culture Syatems Consortium 2014 Annual Meeting 出席及び研究打合せ	ス ペ イ ン	H26. 3. 3 ～ H26. 3. 9	受託研究等 収 入
助 教	鈴 木 基	サンラザロ病院にて研究打合せ	フィリピン	H26. 3. 5 ～ H26. 3. 7	科学研究費 補 助 金
教 授	皆 川 昇	住血吸虫に関する調査研究における情報収集	イ ギ リ ス	H26. 3. 5 ～ H26. 3. 10	日 本 学 術 振 興 会
教 授	平 山 壽 哉	共同研究打合せおよび論文作成	ア メ リ カ	H26. 3. 5 ～ H26. 3. 10	運営費交付金

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	市 川 智 生	Postgraduate forum of Environmental history for East Asia in Shanghai2014に参加	中 国	H26. 3. 6 ～ H26. 3. 9	先 方 負 担 (東京大学)
教 授	ローサボーン チャントラ	NYのAlbany Law Schoolにて大学院生の研究打ち合わせを行うOlympiaにてMFESの会議に出席する	ア メ リ カ	H26. 3. 7 ～ H26. 3. 15	GP5)博士課程 教育リーディング プログラム
教 授	安 波 道 郎	研究打合せ, 43rd Investigator Meeting出席	ベ ト ナ ム	H26. 3. 9 ～ H26. 3. 14	科学 研究 費 補 助 金
准教授	奥 村 順 子	乳幼児死亡の少数民族間における格差に関する現地調査	ラ オ ス	H26. 3. 9 ～ H26. 3. 15	科学 研究 費 補 助 金
准教授	吉田 レイミント	論文博士研究者の「中部ベトナムにおけるHIVウイルスの分子疫学」論文作成に伴う研究指導	ベ ト ナ ム	H26. 3. 9 ～ H26. 3. 15	受 託 研 究 等 収 入
助 教	佐 藤 光	熱帯医学臨床コースの運営補助, MTM学生指導, サンラザロ病院職員との打合せ	フィリピン	H26. 3. 10 ～ H26. 3. 13	運営費交付金
助 教	後 藤 健 介	スリランカにおける津波被災後の高齢者の外傷後成長と認知症に関する学術的研究に関する調査	スリランカ	H26. 3. 10 ～ H26. 3. 16	科学 研究 費 補 助 金
助 教	余 福 勲	江南省疾病管理予防センター (CDC)にて長崎大学作成のSFTSキットの評価を行う	中 国	H26. 3. 10 ～ H26. 3. 17	科学 研究 費 補 助 金
助 教	和 田 崇 之	マイコバクテリアに関する研究打合せ・調査, 関西坑酸菌連合会議出席	ネ パ ー ル	H26. 3. 13 ～ H26. 3. 20	運営費交付金
教 授	山 本 太 郎	感染症に関する共同研究・現地調査	ラ オ ス	H26. 3. 14 ～ H26. 3. 20	寄 付 金
教 授	平 山 謙 二	シヤーガス病の薬剤治療に関する研究池合わせおよび資料収集	ア メ リ カ	H26. 3. 15 ～ H26. 3. 23	科学 研究 費 補 助 金
戦 略 職 員	齊 藤 信 夫	共同研究打合せ, 長崎大学疫学セミナー参加	ベ ト ナ ム	H26. 3. 16 ～ H26. 3. 22	運営費交付金
教 授	濱 野 真二郎	英国訪問における協力関係及び国際的なネットワークの構築・強化	イ ギ リ ス	H26. 3. 17 ～ H26. 3. 24	日 本 学 術 振 興 会
助 教	二 見 恭 子	英国訪問における協力関係及び国際的なネットワークの構築・強化	イ ギ リ ス	H26. 3. 17 ～ H26. 3. 24	日 本 学 術 振 興 会
教 授	安 田 二 朗	リーディング大学院教育における共同研究の打合せと現地調査のため	南アフリカ	H26. 3. 18 ～ H26. 3. 22	GP5)博士課程 教育リーディング プログラム

渡 航 者		渡 航 目 的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職 名	氏 名				
助 教	早 坂 大 輔	リーディング大学院教育における共同研究の打合せと現地調査のため	南アフリカ	H26. 3. 18 ～ H26. 3. 22	GP5) 博士課程教育リーディングプログラム
助 教	浦 田 秀 造	リーディング大学院教育における共同研究の打合せと現地調査のため	南アフリカ	H26. 3. 18 ～ H26. 3. 22	GP5) 博士課程教育リーディングプログラム
教 授	ローサボーン チャントラ	学会参加 GCP Platform Construction and Clinical Trials of New Drug and Medical Device	中 国	H26. 3. 21 ～ H26. 3. 24	先方負担(首都医科大学付属北京同仁病院)
教 授	有 吉 紅 也	TMGH事前打合せ, 日英研究者会議出席	イギリス	H26. 3. 23 ～ H26. 3. 30	運営費交付金
教 授	安 田 二 朗	日英研究者会議出席	イギリス	H26. 3. 25 ～ H26. 3. 28	運営費交付金
助 教	チャベスサナブリア ルイス フェルナンド	セミナー発表及び情報交換	アメリカ	H26. 3. 25 ～ H26. 3. 30	先 方 負 担 (ジョージア大学)
教 授	山 本 太 郎	POST15 教育と保健に関する研究・現地調査	カンボジア	H26. 3. 27 ～ H26. 4. 2	受託研究等 収 入
教 授	安 田 二 朗	ラッサ熱等BSL-4病原体に関する研究打合せ	アメリカ	H26. 3. 29 ～ H26. 4. 5	科学研究費 補 助 金
助 教	黒 崎 陽 平	BSL-4施設の視察および研究打合せ	アメリカ	H26. 3. 29 ～ H26. 4. 5	運営費交付金

9 外国人研究者の受け入れ

9. 1 平成25年度に受け入れた外国人研究者

分野等	氏名	国籍	受入期間	経費	備考
ウイルス学	Samson Limbaso Konongoi	ケニア	H25. 10. 22 ～ H25. 12. 16	J I C A	
	Phu Ly Minh Huong	ベトナム	H26. 1. 19 ～ H26. 1. 26	科学研究費 補助金	
新興感染症学	Unigwe Uche Sonny	ナイジェリア	H25. 10. 17 ～ H25. 11. 13	科学研究費 補助金	
原虫学	Sungkapong Tippawan	タイ	H25. 6. 1 ～ H25. 7. 22	科学研究費 補助金	外国人客員 研究員 外国人客員研究員 (客員教授)
	Zhu Xiaotong	中国	H25. 7. 1 ～ H25. 8. 19	科学研究費 補助金	
	Striepen Boris	ドイツ	H25. 7. 20 ～ H25. 7. 27	科学研究費 補助金	
	Sukmawati Basuki	インドネシア	H25. 8. 20 ～ H25. 12. 22	外国政府 (1ヵ月以上)	
	Gitaka Jesse Njihia	ケニア	H25. 9. 28 ～ H25. 11. 28	受託研究等 収入	
	Templeton Thomas James	アメリカ	H25. 11. 1 ～ H26. 3. 31	運営費交付金	
	Quang Nguyen Tuyen	ベトナム	H25. 11. 23 ～ H25. 11. 28	受託研究等 収入	
	Marchard Roeland Pieter	ベトナム	H25. 11. 23 ～ H25. 11. 28	受託研究等 収入	
	Fitriah	インドネシア	H25. 11. 1 ～ H25. 11. 10	外国政府	
寄生虫学	Kato Stonewall Shaban	ウガンダ	H25. 9. 30 ～ H25. 10. 9	運営費交付金	
	Hermann Feldmeier Peter Matthias	ドイツ	H25. 9. 28 ～ H25. 10. 8	運営費交付金	
免疫遺伝学	Chua James Christoper	フィリピン	H25. 4. 22 ～ H25. 5. 31	科学研究費 補助金	
	Kesara Na Bangchang	タイ	H25. 10. 19 ～ H25. 10. 30	運営費交付金	
	Nguyen Van Thuong	ベトナム	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 7	受託研究等 収入	
	Nguyen Thi Phuong	ベトナム	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 7	受託研究等 収入	
	Revollo Guzman, Roberto Jimmy	ボリビア	H25. 10. 25 ～ H25. 11. 11	科学研究費 補助金	
	Panida Kongjam	タイ	H25. 11. 5 ～ H25. 11. 8	運営費交付金	
	Kesara Na Bangchang	タイ	H25. 11. 5 ～ H25. 11. 10	運営費交付金	
	Chitr Sitthi-amorn	タイ	H25. 11. 5 ～ H25. 11. 10	運営費交付金	

分 野 等	氏 名	国 籍	受入期間	経 費	備 考
	Dao Huy Manh	ベ ト ナ ム	H26. 1. 16 ～ H26. 1. 22	受託研究等 収 入	
生 態 疫 学	Samson Muuo Nzou	ケ ニ ア	H25. 5. 7 ～ H25. 6. 22	受託研究等 収 入	外国人客員 研 究 員
	Hadley matendechedero Sultani	ケ ニ ア	H26. 3. 20 ～ H26. 3. 27	運営費交付金	
	Moses Matil Mwau	ケ ニ ア	H26. 3. 20 ～ H26. 3. 27	運営費交付金	
	Samson Muuo Nzou	ケ ニ ア	H26. 3. 20 ～ H26. 3. 27	科 学 技 術 振 興 機 構	
臨 床 感 染 症 学	Do Hung Thai	ベ ト ナ ム	H25. 7. 6 ～ H25. 9. 5	日 本 学 術 新 興 会	
	Behzad Nadjm	イ ギ リ ス	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 7	運営費交付金	
	Judd Walson	ア メ リ カ	H25. 11. 2 ～ H25. 11. 9	運営費交付金	
	Christopher Parry	イ ギ リ ス	H25. 11. 11 ～ H25. 12. 14	運営費交付金	
	Richard Cash	ア メ リ カ	H25. 12. 11 ～ H25. 12. 18	運営費交付金	
	Winston Go	フィリピン	H26. 2. 17 ～ H26. 2. 21	運営費交付金	
	Marilyn Go	フィリピン	H26. 2. 17 ～ H26. 2. 21	運営費交付金	
	Edith Tria	フィリピン	H26. 2. 17 ～ H26. 2. 21	運営費交付金	
	James William Rudge	イ ギ リ ス	H26. 3. 18 ～ H26. 3. 23	運営費交付金	
	Alexander Richard Cook	イ ギ リ ス	H26. 3. 17 ～ H26. 3. 20	運営費交付金	
	Richard James Coker	イ ギ リ ス	H26. 3. 18 ～ H26. 3. 20	運営費交付金	
	Martin Weber	ド イ ツ	H26. 3. 13 ～ H26. 3. 17	運営費交付金	
	Umberto D'Alessandro	イ タ リ ア	H26. 3. 7 ～ H26. 3. 16	運営費交付金	
	Anton Camacho	フ ラ ン ス	H26. 3. 9 ～ H26. 3. 22	運営費交付金	
	Victoria Simms	イ ギ リ ス	H26. 3. 16 ～ H26. 3. 22	運営費交付金	
	Mark Wilson	ア メ リ カ	H26. 3. 10 ～ H26. 3. 31	運営費交付金	
小 児 感 染 症 学	Le Huy Hoang	ベ ト ナ ム	H26. 2. 7 ～ H26. 3. 7	受託研究等 収 入	

分 野 等	氏 名	国 籍	受入期間	経 費	備 考
臨 床 開 発 学	Wiriyaporn Sumsakul	タ イ	H25. 11. 29 ～ H26. 3. 31	先 方 負 担 (タマサート大学)	
ベ ト ナ ム 拠 点	Le Thi Quynh Mai	ベ ト ナ ム	H25. 9. 30 ～ H25. 10. 8	受 託 研 究 等 収 入	
	Nguyen Binh Minh	ベ ト ナ ム	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 6	受 託 研 究 等 収 入	
	Dang Duc Anh	ベ ト ナ ム	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 6	受 託 研 究 等 収 入	
	Tran Vu Phong	ベ ト ナ ム	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 6	受 託 研 究 等 収 入	
	Nguyen Van Trang	ベ ト ナ ム	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 6	受 託 研 究 等 収 入	
	Nguyen Thi Thu Thuy	ベ ト ナ ム	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 6	受 託 研 究 等 収 入	
	Nguyen Hoang Vu	ベ ト ナ ム	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 6	受 託 研 究 等 収 入	
	Nguyen Tran Hien	ベ ト ナ ム	H25. 10. 2 ～ H25. 10. 6	受 託 研 究 等 収 入	
	Nguyen Ngoc Linh	ベ ト ナ ム	H26. 1. 31 ～ H26. 2. 28	受 託 研 究 等 収 入	
	Vu Van Chuyen	ベ ト ナ ム	H26. 3. 18 ～ H26. 3. 21	受 託 研 究 等 収 入	
	Du Duc Luu	ベ ト ナ ム	H26. 3. 18 ～ H26. 3. 21	受 託 研 究 等 収 入	
	Vu Dinh Thiem	ベ ト ナ ム	H26. 3. 18 ～ H26. 3. 21	受 託 研 究 等 収 入	
共 同 研 究 室	Salama Al Hamidhi	オ マ ー ン	H25. 7. 1 ～ H25. 9. 30	I A E A	
	Tang JianXia	中 国	H25. 10. 5 ～ H25. 12. 14	寄 付 金	
	Abhinay Ramaprasad	イ ン ド	H25. 11. 13 ～ H26. 2. 6	先 方 負 担 (キンガブドラ工科大学)	

10 研究成果の発表状況

10. 1 研究業績

ウイルス学分野

- 1) **Kwallah AO, Inoue S, Muigai AW, Kubo T, Sang R, Morita K, Mwau M** : A real-time reverse transcription loop-mediated isothermal amplification assay for the rapid detection of yellow fever virus. J Virol Methods (May 18) ;Vol.193(1):23-27. 2013
- 2) **Ngwe Tun MM, Thant KZ, Inoue S, Kurosawa Y, Lwin YY, Lin S, Aye KT, Thet Khin P, Myint T, Htwe K, Mapua CA, Natividad FF, Hirayama K, Morita K** : Serological characterization of dengue virus infections observed among dengue hemorrhagic fever/dengue shock syndrome cases in Upper Myanmar. J Med Virol Vol. 85:1258-1266, 2013
- 3) **Hayasaka D, Aoki K, Morita K** : Development of simple and rapid assay to detect viral RNA of tick-borne encephalitis virus by reverse transcription-loop-mediated isothermal amplification. Virology Journal Mar 4;10:68. 2013
- 4) **Hayasaka D, Shirai K, Aoki K, Nagata N, Simantini DS, Kitaura K, Takamatsu Y, Gould E, Suzuki R, Morita K** : TNF- α acts as an immunoregulator in the mouse brain by reducing the incidence of severe disease following Japanese encephalitis virus infection. PLoS One. August 5;8(8):e71643. 2013
- 5) **Chris Lauber, Jelle J. Goeman, Maria del Carmen Parquet, Phan Thi Nga, Eric J. Snijder, Kouichi Morita, Alexander E. Gorbalenya** : The Footprint of Genome Architecture in the Largest Genome Expansion in RNA Viruses. PLoS Pathogens 9 (7) : e1003500, July 2013
- 6) **Nguyen Thanh Thuy, Tran Quang Huy, Phan Thi Nga, Kouichi Morita, Irene Dunia, Lucio Benedetti** : A new nidovirus (NamDinh virus NDiV): Its ultrastructural characterization in the C6/36 mosquito cell line. Virology Vol. 444, 337-342, 2013
- 7) **Basu D. Pandey, Takeshi Nabeshima, Kishor Pandey, Saroj P. Rajendra, Yogendra Shah, Bal R. Adhikari, Govinda Gupta, Ishan Gautam, Mya M. N. Tun, Reo Uchida, Ichiro Kurane and Kouichi Morita** : First Isolation of Dengue Virus from the 2010 Epidemic in Nepal. Tropical Medicine and Health Vol. 41 No. 3: 1-9, 2013
- 8) **Yuki Takamatsu, Leo Uchida, Phan Thi Nga, Kenta Okamoto, Takeshi Nabeshima, Dang Thi Thu Thao, Do Thien Hai, Nguyen Thi Tuyet, Hoang Minh Duc, Le Xuan Luat, Futoshi Hasebe and Kouichi Morita** : An approach for differentiating Echovirus 30 and Japanese encephalitis virus infections in acute meningitis/encephalitis : a retrospective study of 103 cases in Vietnam. Virology Journal 10:280, 2013
- 9) **Khalid A Enan, Takeshi Nabeshima, Toru Kubo, Corazon C Buerano, Abdel Rahim M El Hussein, Isam M Elkhidir, Eltahir AG Khalil and Kouichi Morita** : Survey of causative agents for acute respiratory infections among patients in Khartoum-State, Sudan, 2010-2011. Virology Journal 10:312. 2013
- 10) **Haorile Chagan - Yasutan, Lishomwa C Ndhlovu, Talitha Lea Lacuesta, Toru Kubo, Prisca Susan A Leano, Toshiro Niki, Shigeru Oguma, Kouichi Morita, Glen M**

Chew, Jason D Barbour, Elizabeth Freda O Telan, Mitsuomi Hirashima, Toshio Hattori, Efren M Dimaano : Galectin-9 Plasma Levels Reflect Adverse Hamatological and Immunological Features in Acute Dengue Virus Infection J Clin Virol Vol. 58. 635-640, 2013

- 11) **Biswas Neupane, Komal Raj Rijal, Gyan Bahadur Aryal, Yogendra Shah, Megha Raj Banjara, Jeevan Bahadur Sherchand, Kouichi Morita and Basu Dev Pandey** : Clinical and laboratory features of dengue fever in the southern lowlands of Nepal, Dengue Bulletin Vol. 37:1-10, 2013

新興感染症学分野

- 12) **Sakabe S, Takano R, Nagamura-Inoue T, Yamashita N, Nidom CA, Quynh Le Mt, Iwatsuki-Horimoto K, Kawaoka Y** : Differences in cytokine production in human macrophages and in virulence in mice are attributable to the acidic polymerase protein of highly pathogenic influenza A virus subtype H5N1. J Infect Dis 207(2) : 262-71, 2013
- 13) **Morita M, Kuba K, Ichikawa A, Nakayama M, Katahira J, Iwamoto R, Watanabe T, Sakabe S, Daidoji T, Nakamura S, Kadowaki A, Ohto T, Nakanishi H, Taguchi R, Nakaya T, Murakami M, Yoneda Y, Arai H, Kawaoka Y, Penninger JM, Arita M, Imai Y** : The lipid mediator protection D1 inhibits influenza virus replication and improves severe influenza. Cell 153(1) : 112-25, 2013
- 14) **Kiso M, Takano R, Sakabe S, Katsura H, Shinya K, Uraki R, Watanabe S, Saito H, Toba M, Kohda N, Kawaoka Y** : Protective efficacy of orally administered, heat-killed *Lactobacillus pentosus* b240 against influenza A virus. Sci Rep 3:1563, 2013
- 15) **Fukuma A, Yoshikawa R, Miyazawa T, and * Yasuda J** : A new approach to establish a cell line with reduced risk of endogenous retroviruses. PLoS One, 8(4) : e61530 (1-5), 2013
- 16) **Oue M, Sakabe S, Horiike M, Yasui M, Miura T, Igarashi T** : No viral evolution in the lymph nodes of simian immunodeficiency virus-infected rhesus macaques during combined antiretroviral therapy. J Virol 87(8) : 4789-93, 2013
- 17) **Shojima T, Hoshino S, Abe M, Yasuda J, Shogen H, Kobayashi T, and Miyazawa T** : Construction and characterization of an infectious molecular clone of Koala retrovirus. Journal of Virology 87(9) : 5081-5088, 2013
- 18) **Shimode S, Nakaoka R, Hoshino S, Abe M, Shogen H, Yasuda J, and Miyazawa T** : Identification of cellular factors required for the budding of koala retrovirus. Microbiology and Immunology 57(7) : 543-546, 2013
- 19) **Imakawa K, Yasuda J, Kobayashi T, and Miyazawa T** : Changes in Gene Expression Associated with Conceptus Implantation to the Maternal Endometrium. Journal of Mammalian Ova Research 30, 2-10, 2013

細菌学分野

- 20) **中野政之, 八尋錦之助, 平山壽哉** : *Helicobacter pylori* の病原因子. 臨床と微生物 (近代出版) Vol. 40, No. 2, p. 178-181, 2013
- 21) **中野政之, 平山壽哉** : ピロリ菌の空胞化毒素VacAの病原性に関する新たな洞察. 日本ヘリコバ

クター学会誌 (日本ヘリコバクター学会), Vol. 15, No. 1, p. 12-21, 2013

- 22) Akazawa Y, Isomoto H, Matsushima K, Kanda T, Minami H, Yamaguchi N, Taura N, Shiozawa K, Ohnita K, Takeshima F, Nakano M, Moss J, Hirayama T, Nakao K : Endoplasmic reticulum stress contributes to *Helicobacter pylori* VacA-induced apoptosis. PLoS One 8: e82322, 2013
- 23) 平山壽哉, 中野政之 : ピロリ菌感染における vacuolating cytotoxin (VacA) の役割に関する研究. 化学療法の領域 29 (12): 117-123, 2013

原虫学分野

- 24) Sakura T, Yahata K, Kaneko O : The upstream sequence segment of the C-terminal cysteine-rich domain is required for microneme trafficking of *Plasmodium falciparum* erythrocyte binding antigen 175. Parasitol Int 62(2):157-164, 2013
- 25) Zhu XT, Yahata K, Alexandre JSF, Tsuboi T, Kaneko O : The N-terminal segment of *Plasmodium falciparum* SURFIN_{4.1} is required for its trafficking to the red blood cell cytosol through the endoplasmic reticulum. Parasitol Int 62(2): 215-229, 2013
- 26) Miao M, Wang Z, Yang Z, Yuan L, Parker DM, Putaporntip C, Jongwutiwes S, Xangsayarath P, Pongvongsa T, Moji H, Dinh Tuong T, Abe T, Nakazawa S, Kyaw MP, Yan G, Sirichaisinthop J, Sattabongkot J, Mu J, Su XZ, Kaneko O, Cui L : Genetic Diversity and Lack of Artemisinin Selection Signature on the *Plasmodium falciparum* ATP6 in the Greater Mekong Subregion. PLoS ONE 8(3):e59192. (2013)
- 27) Ferreira PE, Culleton R, Gil JP, Meshnick SR : Artemisinin resistance in *Plasmodium falciparum* : what is it really? Trends Parasitol 29(7):318-320, 2013
- 28) Morris U, Aydin-Schmidt B, Shakely D, Martensson A, Jorhagen L, Ali AS, Msellem MI, Petzold M, Gil JP, Ferreira PE, Bjorkman A : Rapid diagnostic tests for molecular surveillance of *Plasmodium falciparum* malaria -assessment of DNA extraction methods and field applicability. Malar J 12: 106, 2013.
- 29) Sukanuma K, Mochabo KM, Hakimi H, Yamasaki S, Yamagishi J, Asada M, Kawazu S, Inoue N : Adenosine-uridine-rich element is one of the required cis-elements for epimastigote form stage-specific gene expression of the congolense epimastigote specific protein. Mol Biochem Parasitol 191(1): 36-43, 2013.
- 30) Inoue M, Yasuda K, Uemura H, Yasaka N, Schnauffer A, Yano M, Kido H, Kohda D, Doi H, Fukuma T, Tsuji A, Horikoshi N: *Trypanosoma brucei* 14-3-3I and II proteins predominantly form a heterodimer structure that acts as a potent cell cycle regulator in vivo. J Biochem 153(5): 431-439, 2013.

寄生虫学分野

- 31) Adachi K, Osada Y, Nakamura R, Tamada K, Hamano S: Unique T cells with unconventional cytokine profiles induced in the livers of mice during *Schistosoma mansoni* infection. PLoS One 8(12):e82698, 2013
- 32) Shimokawa C, Culleton R, Imai T, Suzue K, Hirai M, Taniguchi T, Kobayashi S,

- Hisaeda H, Hamano S:** Species-specific immunity induced by infection with *Entamoeba histolytica* and *Entamoeba moshkovskii* in mice. PLoS One 8(11): e82025, 2013
- 33) **Kato K, Takegawa Y, Ralston KS, Gilchrist CA, Hamano S, Petri WA Jr, Shinohara Y:** Sialic acid-dependent attachment of mucins from three mouse strains to *Entamoeba histolytica*. Biochem Biophys Res Commun 436(2):252-8:2013
- 34) **Vallur AC, Duthie MS, Reinhart C, Tutterrow Y, Hamano S, Bhaskar KR, Coler RN, Mondal D, Reed SG:** Biomarkers for intracellular pathogens: establishing tools as vaccine and therapeutic endpoints for visceral leishmaniasis. Clin Microbiol Infect 2013
- 35) **Inoue M, Nagi S, Chadeka E, Mutungi F, Osada-Oka M, Oda T, Tanaka M, Ozeki Y, Kalenda DJY, Ono K, Okabe M, Niki M, Hirayama Y, Fukui M, Kobayashi K, Matsumoto M, Shimada M, Kaneko S, Ogura H, Ichinose Y, Njenga SM, Hamano S, Matsumoto S :** Relationship between *Mycobacterium tuberculosis* and hookworm infections among school children in Mbita, Kenya. Journal of Tropical Disease 2013; 1: 120.
- 36) **Kato K, Miura M, Mitsui Y :** In vitro effects of amodiaquine on paired *Schistosoma mansoni* adult worms at concentrations of less than 5 μ g/ml. Memorias do Instituto Oswaldo Cruz 108(2): 192-196, 2013
- 37) **Arimori Y, Nakamura R, Yamada H, Shibata K, Maeda N, Kase T, Yoshikai Y :** Type I interferon limits influenza virus-induced acute lung injury by regulation of excessive inflammation in mice. Antiviral Res 99(3):230-7, 2013
- 38) **Khan MG, Bhaskar KR, Salam MA, Akther T, Kikuchi M, Haque R, Mondal D, Hamano S:** Comparison of PCR-based diagnosis for visceral leishmaniasis in Bangladesh. Parasitol Int 2014; 63(2): 327-331.

免疫遺伝学分野

- 39) **Del Puerto F, Kikuchi M, Nishizawa JE, Roca Y, Avilas C, Gianella A, Lora J, Gutierrez Velarde FU, Hirayama K:** 21-Hydroxylase gene mutant allele CYP21A2*15 strongly linked to the resistant HLA haplotype B*14:02-DRB1*01:02 in chronic Chagas disease. Hum Immunol 74(6):783-786. 2013 doi: 10.1016/j.humimm.2013.01.023.
- 40) **Bao LQ, Huy NT, Kikuchi M, Yanagi T, Senba M, Shuaibu MN, Honma K, Yui K, Hirayama K:** CD19(+) B Cells Confer Protection against Experimental Cerebral Malaria in Semi-Immune Rodent Model. PLoS One 8(5): e64836, 2013 doi: 10.1371/journal.pone.0064836.
- 41) **Bodi JM, Nsibu CN, Longenge RL, Aloni MN, Akilimali PZ, Tshibassu PM, Kayembe PK, Omar AH, Hirayama K, Verhaegen J :** Blackwater fever in Congolese children: a report of clinical, laboratory features and risk factors. Malar J 12:205, 2013 doi: 10.1186/1475-2875-12-205.
- 42) **Huy NT, Shima Y, Maeda A, Men TT, Hirayama K, Hirase A, Miyazawa A, Kamei K:** Phospholipid membrane-mediated hemozoin formation : the effects of physical properties and evidence of membrane surrounding hemozoin. PLoS One 8(7):e70025, 2013 doi: 10.1371/journal.pone.0070025.
- 43) **Ngwe Tun MM, Thant KZ, Inoue S, Kurosawa Y, Lwin YY, Lin S, Aye KT, Thet Khin**

- P, Myint T, Htwe K, Mapua CA, Natividad FF, Hirayama K, Morita K** : Serological characterization of dengue virus infections observed among dengue hemorrhagic fever/dengue shock syndrome cases in upper Myanmar. *J Med Virol* 85(7):1258-66, 2013 doi: 10.1002/jmv.23577.
- 44) **Helegbe GK, Huy NT, Yanagi T, Shuaibu MN, Kikuchi M, Cherif MS, Hirayama K** : Anti-erythropoietin antibody levels and its association with anaemia in different strains of semi-immune mice infected with *Plasmodium berghei* ANKA. *Malar J* 12:296, 2013 doi: 10.1186/1475-2875-12-296.
- 45) **Huy NT, Van Giang T, Thuy DH, Kikuchi M, Hien TT, Zamora J, Hirayama K** : Factors associated with dengue shock syndrome: a systematic review and meta-analysis. *PLoS Negl Trop Dis* 7(9):e2412. doi: 10.1371/journal.pntd.0002412.
- 46) **Huy NT, Thao NT, Ha TT, Lan NT, Nga PT, Thuy TT, Tuan HM, Nga CT, Tuong VV, Dat TV, Huong VT, Karbwang J, Hirayama K** : Development of clinical decision rules to predict recurrent shock in dengue. *Crit Care* 17(6):R280m 2013
- 47) **Huy NT, Trieu HT, Okamoto K, Ninh TTH, Ha TTN, Hirayama K** : Proteomic Profile of Circulating Immune Complexes in Dengue Infected Patients. *J Trop Dis* 1(2): 109, 2013
- 48) 平山謙二：その他の吸虫症(肺吸虫症, 肝吸虫症, 横川吸虫症, 肝蛭症). *Today's Therapy* 2013, 今日の治療指針2013版 (Volume 55)―私はこう治療している. Pp266-267., 医学書院, 総編集: 山口徹, 北原光夫, 福井次矢, 2013, (2013年1月1日発刊)
- 49) 平山謙二：シャーガス病, 特集 世界に広がるトロピカルディジーズ, 化学療法の領域, Vol.29, No.8, pp60-68., 株式会社 医薬ジャーナル社, 2013年8月号, (2013年7月25日発刊)
- 50) 平山謙二：心疾患や消化器疾患の原因が寄生原虫だった!? トレンドビュー◎シャーガス病を知っていますか? 日経メディカルオンライン, 2013年9月20日
- 51) 木村彰方, 石川義英, 一戸辰夫, 大田正穂, 田中秀則, 徳永勝士, 成瀬妙子, 西村泰治, 平山謙二, 湯沢賢治: 平成25年度HLA検査技術者認定試験に関する報告. *MHC* 20(3):163-179, 2013 2013年12月発刊
- 52) 林 尚子, 菊池三穂子, 千種雄一: フィリピンにおける日本住血吸虫症有病地の現状. *日本獣医学雑誌* 第12(2):79-80, 2013

病理学分野

- 53) **Ishikawa C, Kawakami H, Uchihara JN, Senba M, Mori N** : CD69 overexpression by human T-cell leukemia virus type 1 Tax transactivation. *Biochem Biophys Acta - Molecular Cell Research (BBA-Mol Cell Res)* : 1833(6): 1542-1552, 2013
- 54) **Wada A, Wong PF, Hojo H, Hasegawa M, Ichinose A, Llanes R, Kubo Y, Senba M, Ichinose Y** : Alarin but not its alternative-splicing form, GALP (Galanin-like peptide) has antimicrobial activity. *Biochem Biophys Res Commun* : 434(2): 223-227, 2013
- 55) **Bao LQ, Huy NT, Kikuchi M, Yanagi T, Senba M, Shuaibu MN, Honma K, Yui K, Hirayama K** : CD19(+) B cells confer protection against experimental cerebral malaria in semi-immune rodent model. *PLoS One* 28;8(5):e64836, 2013
- 56) **Rokkaku T, Kimura R, Ishikawa C, Yasumoto T, Senba M, Kanaya F, Mori N** : Anticancer effects of marine carotenoids, fucoxanthin and its deacetylated product, fucoxanthinol, on

osteosarcoma. *Int J Oncol*, 2013; 43: 1176–1186.

- 57) **Kimura R, Senba M, Cutler SJ, Ralph SJ, Xiao G, Mori N** : Human T-cell leukemia virus type I Tax-induced I κ B- ζ modulates Tax-dependent and -independent gene expression in T cells. *Neoplasia* 15(9): 1110–1124, 2013
- 58) **Ishikawa C, Tanaka J, Katano H, Senba M, Mori N** : Hippuristanol reduces the viability of primary effusion lymphoma cells both in vitro and in vivo. *Mar Drugs* 11 (9): 3410–3423, 2013
- 59) **Kimura R, Rokkaku T, Takeda S, Senba M, Mori N** : Cytotoxic effects of fucoidan nanoparticles against osteosarcoma. *Mar Drugs* 11 (11): 4267–4278, 2013

生態疫学分野

- 60) **Jephtha C Nmor, Toshihiko Sunahara, Kensuke Goto, Kyoko Futami, George Sonye, Peter Akweywa, Gabriel Dida, Noboru Minakawa** : Topographic models for predicting malaria vector breeding habitats: potential tools for vector control managers. *Parasites & Vectors*, 6 (14), SCI : 2. 94, 2013

国際保健学分野

- 61) **Osada-Oka M, Tateishi Y, Hirayama Y, Ozeki Y, Niki M, Kitada S, Maekura R, Tsujimura K, Koide Y, Ohara N, Yamamoto T, Kobayashi K, Matsumoto S** : Antigen 85A and mycobacterial DNA-binding protein 1 are targets of immunoglobulin G in individuals with past tuberculosis. *Microbiol Immunol* 57(1): 30–37, 2013
- 62) **Haque U, Glass GE, Bomblies A, Hashizume M, Mitra D, Noman N, Haque W, Kabir MM, Yamamoto T, Overgaard HJ** : Risk factors associated with clinical malaria episodes in Bangladesh: a longitudinal study. *Am J Trop Med Hyg* 88(4): 727–732, 2013
- 63) **Mizumoto K, Yamamoto T, Nishiura H** : Contact behaviour of children and parental employment behaviour during school closures against the pandemic influenza A (H1N1–2009) in Japan. *J Int Med Res* 41(3): 716–724, 2013
- 64) **Mizumoto K, Yamamoto T, Nishiura H** : Age-dependent estimates of the epidemiological impact of pandemic influenza (H1N1–2009) in Japan. *Comput Math Methods* 2013: 637064, 2013
- 65) **Mizumoto K, Nishiura H, Yamamoto T** : Effectiveness of antiviral prophylaxis coupled with contact tracing in reducing the transmission of the influenza A (H1N1–2009): a systematic review. *Theor Biol Med Model* 10(4): 4, 2013
- 66) **Wada T, Maeda S** : Multiplex agarose gel electrophoresis system for variable number of tandem repeats genotyping: analysis example using *Mycobacterium tuberculosis*. *Electrophoresis* 34(8): 1171–1174, 2013
- 67) **Nakanishi N, Wada T, Arikawa K, Millet J, Rastogi N, Iwamoto T** : Evolutionary robust SNPs reveal the misclassification of *Mycobacterium tuberculosis* Beijing family strains into sublineages. *Infect Genet Evol* 16: 174–177, 2013
- 68) **Mizumoto K, Ejima K, Yamamoto T, Nishiura H** : Vaccination and clinical severity: is the effectiveness of contact tracing and case isolation hampered by past vaccination?. *Int J Environ Res Public Health* 10(3): 816–829, 2013

- 69) Umeda K, Wada T, Kohda T, Kozaki S : Multi-locus variable number tandem repeat analysis for *Clostridium botulinum* type B isolates in Japan: comparison with other isolates and genotyping methods. Infect Genet Evol 16: 298-304, 2013
- 70) 瀬戸順次, 阿彦忠之, 和田崇之, 長谷 篤, 山田敬子 : 結核低蔓延地域における網羅的な結核菌反復配列多型 (VNTR) 分析の有用性. 結核88(6): 535-542, 2013
- 71) Yamamoto T : Pandemic control measures. Japan Medical Association Journal. 56(1): 1-4, 2013
- 72) 田丸亜貴, 和田崇之, 岩本朋忠, 長谷 篤 : JATA(12)-VNTR型別による結核集団発生事例の菌株異同調査. 結核88(4):399-403. 2013
- 73) 和田崇之, 田丸亜貴, 岩本朋忠, 有川健太郎, 中西典子, 小向 潤, 松本健二, 長谷 篤 : 複数自治体をまたぐ広域的結核分子疫学の基盤構築—JATA(12)-VNTR型別に基づくクラスター形成とその傾向—. 結核88(4):393-398, 2013
- 74) Tateishi Y, Tamaru A, Ogura Y, Niki M, Wada T, Yamamoto T, Hirata K, Hayashi T, Matsumoto S : Whole-genome Sequence of the potentially hypertransmissible multidrug-resistant *mycobacterium tuberculosis* Beijing strain. OM-V02_005. Genome Announcement 1(4): 608-613, 2013
- 75) Xia P, Okumura J, Yan P, Xie M, Wu S, Zhuang M, Zheng J, Zhang C, Zhang M, Kato M, Cai G, Yamamoto T : Steps towards preventive HIV treatment in Fujian, China: problems identified via an assessment of initial antiretroviral therapy provision. PLoS One 8(9): e76483, 2013
- 76) ジャック・ペパン (山本太郎訳) : エイズの起源. みすず書房. 2013
- 77) 吉田志緒美, 富田元久 : *Mycobacterium intercellulare* の遺伝子型とクラリスロマイシン感受性の検討. 臨床微生物学会誌23(3): 203-211, 2013
- 78) Zhang J, Duan H, Chen H, Zhang Z, Yamamoto T, Cai G : Environmental changes of Lake Erhai, Dali, Yunnan and related livelihood choices Among Bai Nationality Fishing Families. INFORMATION 16(10): 7777-7784, 2013
- 79) Masumoto S, Yamamoto T, Ohkado A, Yoshimatsu S, Querri AG, Kamiya Y : Factors associated with health-related quality of life among pulmonary tuberculosis patients in Manila, the Philippines. Qual Life Res 2013: 1-11, 2013

病害動物学分野

- 80) Tsunoda T, Kawada H, Huynh TT, Le LL, Hoang SL, Ngoc HT, Huong Thi Que Vu, Minh HL, Hasebe F, Tsuzuki A & Takagi M : Field trial on a novel control method for the dengue vector, *Aedes aegypti* by the systematic use of Olyset® Net and pyriproxyfen in Southern Vietnam. Parasites & Vectors 6(6), 2013
- 81) Nmor JC, Sunahara T, Goto K, Futami K, Sonye G, Akweywa P, Dida G & Minakawa N : Topographic models for predicting malaria vector breeding habitats : potential tools for vector control managers. Parasites & Vectors 6(14), 2013
- 82) Itokawa K, Komagata O, Kasai S, Kawada H, Mwatele C, Dida GO, Njenga SM, Mwandawiro C & Tomita T : Global spread and genetic variants of the two CYP9M10 haplotype forms associated with insecticide resistance in *Culex quinquefasciatus* Say. Heredity, 1-11, 2013
- 83) Kuwata R, Phan T.N, Nguyen T.Y, Hoshino K, Isawa H, Higa Y, Nguyen V.H, Bui

- M.T, Do P.L, Tran V.P, Sasaki T, Tsuda Y, Kobayashi M, Sawabe K & Takagi M : Surveillance of Japanese Encephalitis Virus Infection in Mosquitoes in Vietnam from 2006 to 2008. American Journal of Tropical Medicine & Hygiene 88(4), 681–688, 2013
- 84) Luis Fernando Chaves, Jose E Calzada, Chystrie Rigg, Anayansi Valderrama, Nicole L Gottdenker & Azael Saldaña : Leishmaniasis sand fly vector density reduction is less marked in destitute housing after insecticide thermal fogging. Parasites & Vectors 6–164, 2013
- 85) Ohba S, Ohashi K, Endan Pujiyati, Higa Y, Kawada H, Mito N & Takagi M : The effect of pyriproxyfen as a "Population Growth Regulator" against *Aedes albopictus* under semi-field conditions. Plos one 8 (7), e67045, 2013
- 86) Toma T, Miyagi I, Okazawa T, Higa Y, Siew Fui Wong, Moi Ung Leh & Hoi Sen Yong : Redescription of *Armigeres* (*Leicesteria*) *longipalpis* (*Leicester*) (Diptera: Culicidae) from Sarawak, Malaysia, 9, 5–14, 2013
- 87) Luis Fernando Chaves, Higa Yukiko, Su Hyun Lee, Ji Yeon Jeong, Sang Taek Heo, Miok Kim, Minakawa Noboru & Keun Hwa Lee: Environmental forcing shapes regional house mosquito synchrony in a warming temperate island. Population Ecology 42(4), 605–613, 2013
- 88) Tsuzuki A, Sunahara T, Vu Trong Duoc, Nguyen Hoang Le, Higa Y, Tran Vu Phong & Minakawa N: Effect of housing factors on infestation by *Aedes aegypti* (L.) and *Aedes albopictus* skuse in urban hanoi city, Vietnam 44(6), 2013
- 89) Hoshi T, Banda PM, Pemba DF, Sunahara T. & Minakawa N : Beyond buzzing: mosquito watching stimulates malaria bednet use - a household-based cluster-randomized controlled assessor blind educational trial. 2, e67;doi:10. 1038/emi. 2013. 67, 2013
- 90) Luis Fernando Chaves, Thomas W Scott, Amy C. Morrison, Takada T : Hot temperatures can force delayed mosquito outbreaks via sequential changes in *Aedes aegypti* demographic parameters in autocorrelated environments. Acta Tropica 129, 15–24, 2014
- 91) Kaneko A, Luis F. Chaves, Taleo G, Kalkoa M, Isozumi R, Wickremasinghe R, Perlmann H, Takeo S, Tsuboi T, Tachibana S, Kimura M, Bjorkman A, Troye-Blomberg M, Tanabe K, Drakeley C : Characteristic Age Distribution of *Plasmodium vivax* Infections after Malaria Elimination on Aneityum Island, Vannuatu. Infection and Immunity 82(1), 243–252, 2014
- 92) Hoshi T, Higa Y & Luis F : Chaves *Uranotaenia novobscura ryukyuana* (Diptera: Culicidae) Population Dynamics Are Denso-Cependent and Autonomous From Weather Fluctuations. Annals of the Entomological Society of America 107(1), 136–142, 2014
- 93) Luis Fernando Chaves : The Dynamics of Latifundia Formation. PLOS ONE, 8(12)e82863, 2013
- 94) Miyagi I, Okazawa T, Toma T, Higa Y, Siew Fui Wong, Moi Ung Leh & Hoi Sen Yong : A redescription of *Topomyia trifida* Edwards (Diptera: Culicidae) from Sarawak, Malaysia. Journal of Science and Technology in the Tropics 9, 103–111, 2013
- 95) Endang Pujiyati, Kawada H, Sunahara T, Kasai S & Minakawa N.:Pyrethroid resistance status of *Aedes albopictus* (Skuse) collected in Nagasaki city, Japan. Japanese Journal of Environmental Entomology and Zoology 24 (4), 143–153, 2013

- 96) **Sapsutthipas S, Tsuchiya N, Pathipavanich P, Ariyoshi K, Sawanpanyalert P, Takeda N, Isarangkura-na-ayuthaya P, Kameoka M** : CRF01_AE-specific, broadly neutralizing activity is observed in plasma derived from HIV-1-infected, slow progressors residing in northern Thailand. *PLoS One* 8(1):e53920, 2013
- 97) **Suzuki M, Yoshimine H, Harada Y, Tsuchiya N, Shimada I, Ariyoshi K, Inoue K.** : Estimating the influenza vaccine effectiveness against medically attended influenza in clinical settings: A hospital-based case-control study with a rapid diagnostic test in Japan. *PLoS One* 8(1):e52103, 2013
- 98) **Ando T, Mochizuki Y, Iwata T, Nishikido M, Shimazaki T, Furumoto A, Minami S, Kinoshita N, Kawakami A** : Aggressive pulmonary calcification developed after living donor kidney transplantation in a patient with primary hyperparathyroidism. *Transplant Proc.* 2013 Sep;45(7):2825-30
- 99) **Noda N, Matsumoto K, Fukuyama S, Asai Y, Kitajima H, Seki N, Matsunaga Y, Kan-O K, Moriwaki A, Morimoto K, Inoue H, Nakanishi Y** : Cigarette smoke impairs phagocytosis of apoptotic neutrophils by alveolar macrophages via inhibition of the histone deacetylase/Rac/CD9 pathways. *Int Immunol.* 2013 Nov;25(11):643-50
- 100) **Bruce D. Uhal, Hang Nguyen, MyTrang Dang, Indiwari Gopallawa, Jing Jiang, Vinh Dang, Shinji Ono, Konosuke Morimoto** : Translational Research in Acute Lung Injury and Pulmonary Fibrosis Abrogation of ER stress-induced apoptosis of alveolar epithelial cells by Angiotensin 1-7. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* 305: L33-L41, 2013
- 101) **Chabon J, Gebreab L, Poole J, Debella E, Davis L, Tanaka T, Sanders L, Dropcho N, Bandeira A, Vandivier RW, Champion HC, Butrous G, Wang XJ, Wynn TA** : TGF-beta signaling promotes pulmonary hypertension caused by *Schistosoma mansoni*. *Graham BB, Tudor RM. Circulation.* 2013 Aug 19
- 102) **Yamashita Y, Hoshino Y, Oka M, Matsumoto S, Ariga H, Nagai H, Makino M, Ariyoshi K, Yokota-Tsunetsugu Y.** : Multicolor Flow Cytometric Analyses of CD4⁺ T Cell Responses to Mycobacterium tuberculosis-Related Latent Antigens. *Jpn. J. Infect. Dis.* 66, 207-215, 2013
- 103) **Migita K, Nakamura M, Abiru S, Jiuchi Y, Nagaoka S, Komori A, Hashimoto S, Bekki S, Yamasaki K, Komatsu T, Shimada M, Kouno H, Hijioka T, Kohjima M, Nakamuta M, Kato M, Yoshizawa K, Ohta H, Nakamura Y, Takezaki E, Nishimura H, Sato T, Ario K, Hirashima N, Oohara Y, Naganuma A, Muro T, Sakai H, Mita E, Sugi K, Yamashita H, Makita F, Yatsuhashi H, Ishibashi H, Yasunami M** : Association of STAT4 Polymorphisms with Susceptibility to Type-1 Autoimmune Hepatitis in the Japanese Population. *PLoS One* 8(8):e71382(2013).
- 104) **An J, Nakajima T, Shibata H, Arimura T, Yasunami M, Kimura A** : A novel link of HLA locus to the regulation of immunity and infection : NFKBIL1 regulates alternative splicing of human immune-related genes and influenza virus M gene. *J Autoimmunity* 47:25-33(2013)
- 105) **Migita K, Agematsu K, Masumoto J, Ida H, Honda S, Jiuchi Y, Izumi Y, Maeda Y, Uehara R, Nakamura Y, Koga T, Kawakami A, Nakashima M, Fujieda Y, Nonaka F, Eguchi K, Furukawa H, Nakamura T, Nakamura M, Yasunami M** : The Contribution of

- SAA1 Polymorphisms to Familial Mediterranean Fever Susceptibility in the Japanese Population. PLoSOne 8:e55227 (2013)
- 106) **Shimazaki T, Marte SD, Saludar NR, Dimaano EM, Salva EP, Ariyoshi K, Villarama JB, Suzuki M** : Risk factors for death among hospitalised tuberculosis patients in poor urban areas in Manila, The Philippines. *Int J Tuberc Lung Dis*. 2013 Nov;17(11):1420-6.
- 107) **Harada Y, Kinoshita F, Yoshida LM, Minh le N, Suzuki M, Morimoto K, Toku Y, Tomimasu K, Moriuchi H, Ariyoshi K.** : Does respiratory virus coinfection increases the clinical severity of acute respiratory infection among children infected with respiratory syncytial virus? *Pediatr Infect Dis J*. 2013 May;32(5):441-5
- 108) **Takahashi K, Suzuki M, Minh le N, Anh NH, Huong LT, Son TV, Long PT, Ai NT, Thole H, Morimoto K, Kilgore PE, Anh DD, Ariyoshi K, Yoshida LM** : The incidence and aetiology of hospitalised community-acquired pneumonia among Vietnamese adults : a prospective surveillance in Central Vietnam. *BMC Infect Dis*. 2013 Jul 1;13:296
- 109) **Yoshida LM, Nguyen HA, Watanabe K, Le MN, Nguyen AT, Vu HT, Yoshino H, Suzuki M, Takahashi K, Le T, Moriuchi H, Kilgore PE, Edmond K, Mulholland K, Dang DA, Ariyoshi K** : Incidence of radiologically-confirmed pneumonia and *Haemophilus influenzae* type b carriage before *Haemophilus influenzae* type b conjugate vaccine introduction in Central Vietnam. *J Pediatr*. 2013 Jul;163(1 Suppl):S38-43.
- 110) **Yoshida LM, Suzuki M, Nguyen HA, Le MN, Dinh Vu T, Yoshino H, Schmidt WP, Nguyen TT, Le HT, Morimoto K, Moriuchi H, Dang DA, Ariyoshi K** : Respiratory syncytial virus : co-infection and paediatric lower respiratory tract infections. *Eur Respir J*. 2013 Aug;42(2):461-9.
- 111) **Daito H, Suzuki M, Shiihara J, Kilgore PE, Ohtomo H, Morimoto K, Ishida M, Kamigaki T, Oshitani H, Hashizume M, Endo W, Hagiwara K, Ariyoshi K, Okinaga S** : Impact of the Tohoku earthquake and tsunami on pneumonia hospitalisations and mortality among adults in northern Miyagi, Japan: a multicentre observational study. *Thorax*. 2013 Jun;68(6):544-50.

小児感染症学分野

- 112) **Haque U, Glass GE, Bomblies A, Hashizume M, Mitra D, Noman N, Haque W, Kabir M, Yamamoto T, Overgaard HJ** : Risk factors associated with clinical malaria episodes in Bangladesh : a longitudinal study. *American Journal of Tropical Medicine & Hygiene*, 88(4):727-732, 2013
- 113) **Yoshida LM, Suzuki M, Nguyen HA, Le MN, Vu TD, Yoshino H, Schmidt WP, Nguyen TTA, Le HT, Morimoto K, Moriuchi H, Dang DA and Ariyoshi K** : Respiratory Syncytial Virus, its Co-infection and Paediatric Lower Respiratory tract Infections. *European Respiratory Journal*, 42(2):461-9, 2013
- 114) **Dewan AM, Corner RJ, Hashizume M, Ongee ET** : Typhoid fever and its association with environmental factors in the Dhaka Metropolitan Area of Bangladesh: a spatial and time-series approach. *PLoS Neglected Tropical Diseases* 2013;7(1): e1998. doi:10.1371/journal.pntd.0001998
- 115) **Tran DN, Pham TMH, Tuan Ha M, Tran TTL, Dang TKH, Yoshida LM, Okitsu S,**

- Hayakawa S, Mizuguchi M, and Ushijima H** : Molecular Epidemiology and Disease Severity of Human Respiratory Syncytial Virus in Vietnam. PLoS One 2013;8(1) : e45436.
- 116) **Hashizume M, Chaves LF, Faruque ASG, Yunus M, Streatfield PK, Moji K** : A differential effect of Indian Ocean Dipole and El Nino on cholera dynamics in Bangladesh. PLoS One 2013;8(3) : e60001. doi:10.1371/journal.pone.0060001
- 117) **Harada Y, Kinoshita F, Yoshida LM, Minh LN, Suzuki M, Morimoto K, Toku Y, Tomimasu K, Moriuchi H, Ariyoshi K** : Does respiratory virus co-infection increase the clinical severity of acute respiratory infection among children infected with respiratory syncytial virus? Pediatric Infectious Disease Journal 32(5) :441-445, 2013
- 118) **Corner RJ, Dewan AM, Hashizume M** : Modelling typhoid risk in Dhaka Metropolitan Area of Bangladesh : the role of socio-economic and environmental factors. International Journal of Health Geographics 2013, 12:13 doi:10.1186/1476-072X-12-13
- 119) **Daito H, Suzuki M, Shiihara J, Kilgore PE, Ohtomo H, Morimoto K, Ishida M, Kamigaki T, Oshitani H, Hashizume M, Endo W, Hagiwara K, Ariyoshi K, Okinaga S** : Impact of the Tohoku earthquake and tsunami on pneumonia hospitalisations and mortality among adults in northern Miyagi, Japan: A multicentre observational study. Thorax 68(6) :544-550, 2013
- 120) **Takahashi K, Suzuki M, Minh le N, Anh NH, Huong LT, Son TV, Long PT, Ai NT, Tho le H, Morimoto K, Kilgore PE, Anh DD, Ariyoshi K, Yoshida LM** : The incidence and aetiology of hospitalised community-acquired pneumonia among Vietnamese adults: a prospective surveillance in Central Vietnam. BMC Infect Dis 2013;13:296. doi: 10.1186/1471-2334-13-296.
- 121) **Yoshida LM, Nguyen HA, Watanabe K, Le MN, Nguyen ATT, Vu HTT, Yoshino H, Suzuki M, Takahashi K, Le TH, Moriuchi H, Kilgore PE, Edmond K, Mulholland K, Dang DA, Ariyoshi K** : Incidence of Radiologically Confirmed Pneumonia and *Haemophilus influenzae* Type b Carriage before *Haemophilus influenzae* Type b Conjugate Vaccine Introduction in Central Vietnam. Journal of Pediatrics, 163(1 Suppl) :S38-43, 2013
- 122) **Tran LA, Yoshida LM, Nakagomi T, Gauchan P, Ariyoshi K, Anh DD, Nakagomi O, Thiem VD** : A high incidence of intussusception revealed by a retrospective hospital-based study in Nha Trang, Vietnam between 2009 and 2011. Trop Med Health, 41(3)121-127, 2013
- 123) **樋泉道子ほか** : ベトナム・カンホア省で多発した先天性風疹症候群の臨床疫学的特徴. 病原微生物検出情報 2013年4月号; 34: 92-93

臨床開発学分野

- 124) **Huy NT, Thao NTH, Ha TTN, Lan NTP, Nga PTT, Thuy TT, Tuan HM, Nga CTP, Tuong VV, Dat TV, Huong VTQ, Karbwang J, and Hirayama K** : Development of clinical decision rules to predict recurrent shock. Crit Care.17(6) :R280, 2013
- 125) **Huy NT, Tran Van Giang, Dinh Ha Duy Thuy, Mihoko Kikuchi, Tran Tinh Hien, Javier Zamora, and Kenji Hirayama.** : Factors Associated with Dengue Shock Syndrome : A Systematic Review and Meta-analysis. PLoS Negl Trop Dis. 7(9) :e2412, 2013
- 126) **Helegbe GK, Huy NT, Yanagi T, Shuaibu MN, Kikuchi M, Cherif MS, Hirayama K** : Anti-erythropoietin antibody levels and its association with anaemia in different strains of semi-im-

- mune mice infected with *Plasmodium berghei* ANKA. *Malar J.* 12 (1), 1–10, 2013
- 127) **Huy NT, Shima Y, Maeda A, Men TT, Hirayama K, Hirase A, Miyazawa A, and Kamei K** : Phospholipid Membrane-Mediated Hemozoin Formation : The Effects of Physical Properties and Evidence of Membrane Surrounding Hemozoin. *PLoS One* 8(7) :e70025, 2013
- 128) **Bao LQ, Huy NT, Kikuchi M, Yanagi T, Senba M, Shuaibu MN, Honma K, Yui K, Hirayama K** : CD19(+) B Cells Confer Protection against Experimental Cerebral Malaria in Semi-Immune Rodent Model. *PLoS One* 8(5) :e64836 (Impact Factor: 3. 73),. 2013
- 129) **Huy NT, Trieu HT, Okamoto K, Ninh TTH, Ha TTN, Morita K, Huong VTQ, Lan NTP, Thuy TT, Nga CTP, Kikuchi M, Kuroda N, Karbwang J, Ohyama K, Hirayama K** : Proteomic Profile of Circulating Immune Complexes in Dengue Infected Patients. *J Trop Dis* 1(2) 109, 2013
- 130) **Kesara Na-Bangchang and Juntra Karbwang** : Emerging artemisinin resistance in the border areas of Thailand. *Expert Rev Clin Pharmacol.* 2013 May;6(3):307–22. doi: 10. 1586/ecp. 13. 17
- 131) **Walther H Wernsdorfer, Harald Noedl, Pamela Rendi-Wagner, Herwig Kollaritsch, Gerhard Wiedermann, Andrea Mikolasek, Juntra Karbwang, Kesara Na-Bangchang** : Gender-specific distribution of mefloquine in the blood following the administration of therapeutic doses. *Malar J.* 2013 Dec 9;12:443. doi: 10. 1186/1475–2875–12–443
- 132) **Na-Bangchang K, Muhamad P, Ruengweerayut R, Chaichaorenkul W and Karbwang J** : Identification of resistance of *Plasmodium falciparum* to artesunate-mefloquine combination in an area along the Thai-Myanmar border: Integration of clinico-parasitological response, systemic drug exposure, and in vitro parasite sensitivity. *Malar J.* 2013 Jul 30;12:263. doi: 10. 1186/1475–2875–12–263.
- 133) **Piengpen Thisoda, Kanchana Ketsa-ard, Sommai Thongprasert, Molvibha Vongsakul, Pornthipa Picha, Juntra Karbwang, Kesara Na-Bangchang.** : Immuno-stimulating Effect of a well-known Thai Folkloric Remedy in Breast Cancer Patients, *Asian Pacific Journal of Cancer Prevention.* Asian Pac J Cancer Prev. 2013;14(4) :2599–605.
- 134) **Juntra Karbwang and Kesara NaBangchang** : Practical Application of International Standards and Guidelines to Address Ethical Challenges in Clinical Trials.

ケニア拠点

- 135) **Nmor JC, Sunahara T, Goto K, Futami K, Sonye G, Akweywa P, Dida G, Minakawa N** : Topographic models for predicting malaria vector breeding habitats: potential tools for vector control managers. *Parasit Vectors* 6:14, 2013
- 136) **Inoue S, Wandera E, Miringu G, Bundi M, Narita C, Ashur S, Kwallah A, Galata A, Abubakar M, Suka S, Mohamed S, Karama M, Horio M, Shimada M, Ichinose Y** : The NUITM-KEMRI P3 Laboratory in Kenya: Establishment, Features, Operation and Maintenance. *Trop Med Health* 41(1):27–37, 2013
- 137) **Inoue M, Nagi S, Chadeka E, Mutungi F, Osada-Oka M, Ono K, Oda T, Tanaka M, Ozeki Y, Kalenda DJY, Okabe M, Niki M, Hirayama Y, Fukui M, Kobayashi K, Matsumoto M, Shimada M, Kaneko S, Ogura H, Ichinose Y, Njenga SM, Hamano S,**

- Matsumoto S** : Relationship between *Mycobacterium tuberculosis* and Hookworm infections among School Children in Mbita, Kenya. *J Trop Dis* 1:120, 2013
- 138) **Wada A, Wong PF, Hojo H, Hasegawa M, Ichinose A, Llanes R, Kubo Y, Senba M, Ichinose Y** : Alarin but not its alternative-splicing form, GALP (Galanin-like peptide) has antimicrobial activity. *Biochem Biophys Res Commun* 434(2):223-7, 2013
- 139) **Wanyua S, Ndemwa M, Goto K, Tanaka J, K'Opiyo J, Okumu S, Diela P, Kaneko S, Karama M, Ichinose Y, Shimada M** : Profile : the Mbita Health and Demographic Surveillance System. *Int J Epidemiol* 42(6):1678-85, 2013
- 140) **Kwallah AO, Inoue S, Muigai AW T, Kubo T, Sang R, Morita K, Mwau M** : A real-time reverse transcription loop-mediated isothermal amplification assay for the rapid detection of yellow fever virus. *J Virological Methods* 193(1):23-27, 2013
- 141) **Itokawa K, Komagata O, Kasai S, Kawada H, Mwatele C, Dida GO, Njenga SM, Mwandawiro C, Tomita T** : Global spread and genetic variants of the two CYP9M10 haplotype forms associated with insecticide resistance in *Culex quinquefasciatus* Say. *Heredity* 111(3):216-26, 2013
- 142) **Chaves LF, Higa Y, Lee SH, Jeong JY, Heo ST, Kim M, Minakawa N, Lee KH** : Environmental forcing shapes regional house mosquito synchrony in a warming temperate island. *Environ Entomol* 42(4):605-13, 2013
- 143) **Hoshi T, Banda PM, Pemba DF, Sunahara T, Minakawa N** : Beyond buzzing: mosquito watching stimulates malaria bednet use - a household-based cluster-randomized controlled assessor blind educational trial. *Emerging Microbes & Infections* 2, e67, 2013

ベトナム拠点

- 144) **時沢亜佐子, 橋本邦生, 福永啓文, 本村秀樹, 森内浩幸** : 急性期に咽後膿瘍様の所見を呈した川崎病の一例. *長崎医学会雑誌* 88(1):65-70, 2013
- 145) **Takemura T, Kawamata M, Urabe M, Murakami T** : Cyclophilin A-dependent restriction to capsid N121K mutant human immunodeficiency virus type 1 in a broad range of cell lines. *J Virol* 87(7):4086-90, 2013
- 146) **山城 哲** : 長崎大学熱帯医学研究所ベトナム研究拠点. (特集: 海外拠点におけるウイルス感染症研究). *ウイルス* 63(6):69-74, 2013
- 147) **Koma T, Yoshimatsu K, Yasuda S-P, Li T, Amada T, Shimizu K, Isozumi R, Le TQM, Nguyen TH, Nguyen V, Yamashiro T, Hasebe F, and Arikawa J** : A survey of rodent-borne pathogens carried by wild *Rattus* spp. in Northern Vietnam. *Epidemiology and Infection* 141(9):1876-1884, 2013
- 148) **Hotta K, Takakuwa H, Yabuta T, Ung TTH, Usui T, Hang LK, Nguyen TT, Le QM, Yamaguchi T, Otsuki K, Ito T, Murase T, Yamashiro T** : Antibody survey on avian influenza viruses using egg yolks of ducks in Hanoi between 2010 and 2012. *Veterinary Microbiology* 166(1-2):179-183, 2013
- 149) **Takakuwa H, Yamashiro T, Le QM, Phuong LS., Ozaki H, Tsunekuni R, Usui T, Ito H, Yamaguchi T, Ito T, Murase T, Ono E, and Otsuki K** : The characterization of low pathogenic avian influenza viruses isolated from wild birds in northern Vietnam from 2006 to 2009. *Comp*

マラリア研究室

- 150) **Ferreira P E, Culleton R, Gil J P, Meshnick S R** : Artemisinin resistance in *Plasmodium falciparum* : What is it really? Trends in Parasitology 29(7) : 318–320, 2013
- 151) **Bispo N.A., Culleton R, Silva L.A. and Cravo P** : A systematic in silico search for target similarity identifies several approved drugs with potential activity against the *Plasmodium falciparum* apicoplast. PLoS ONE 8(3) : e59288, 2013
- 152) **Hunja CW, Unger H, Ferreira P, Lumsden R, Morris S, Aman R, Alexander C, Mita T, Culleton R** : Travelers as sentinels : Assaying the worldwide distribution of polymorphisms associated with artemisinin combination therapy resistance in *Plasmodium falciparum* using malaria cases imported into Scotland. International Journal for Parasitology 43(11) : 885–9, 2013
- 153) **Shimokawa C, Culleton R, Imai T, Suzue K, Hirai M, Taniguchi T, Kobayashi S, Hisaeda H, Hamano S** : Species-specific immunity induced by infection with *Entamoeba histolytica* and *Entamoeba moshkovskii* in mice. Plos ONE 8(12) : e82025, 2013

10. 2 学会発表演題

- 1) 黒崎陽平, 西村聡子, 浦田秀造, 安田二郎: ハザラウイルス増殖抑制に関わる細胞性因子. 2nd Negative Strand Virus-Japan Symposium, 沖縄, 2013年1月14日～1月16日.
- 2) 奥村順子: 大規模自然災害急性期における必須医薬品リストはなぜ必要か? 第18回日本集団災害医学総会・学術集会 ワークショップ3「災害薬品の標準化」於: 神戸, 神戸, 2013年1月17日～1月19日.
- 3) Nguyen Hoai Thu, Nguyen Dong Tu, Ngo Tuan Cuong, Le Thanh Huong, Masahiko Ehara, Nguyen Binh Minh, and Tetsu Yamashiro: Monitoring on vibriophages and *Vibrio cholerae* strains in environmental water in northern Vietnam - Possibility to predict cholera outbreak? Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2013, 東京医科歯科大学湯島キャンパス (東京都文京区), 2013年1月23日～1月24日.
- 4) Ngo Tuan Cuong, Nguyen Dong Tu, Nguyen Hoai Thu, Le Thanh Huong, Asish K. Mukhopadhyay, Nguyen Binh Minh, and Tetsu Yamashiro: Genetic analysis of the *ctxB* gene of *Vibrio cholerae* strains isolated in 2007-2010 seasons in Vietnam. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2013, 東京医科歯科大学湯島キャンパス (東京都文京区), 2013年1月23日～1月24日.
- 5) Toshiyuki Murase, Nguyen Binh Minh, Ngo Tuan Cuong, Tran Huy Hoang, Nguyen Hoai Thu, Tetsu Yamashiro: Antimicrobial resistance, resistance genes, and class 1 integrons in *Salmonella* and *Escherichia coli* isolated from retail meat in northern Vietnam. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2013, 東京医科歯科大学湯島キャンパス (東京都文京区), 2013年1月23日～1月24日.
- 6) Kozue Hotta, Hiroki Takakuwa, Toshiyo Yabuta, Trang TH Ung, Nguyen LK Hang, Le T Thanh, Le Q Mai, Koich Otsuki, Toshihiro Ito, Toshiyuki Murase and Tetsu Yamashiro: Antibody survey on avian influenza viruses using duck's egg yolk in Hanoi, during 2010 to 2012. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2013, 東京医科歯科大学湯島キャンパス (東京都文京区), 2013年1月23日～1月24日.
- 7) 佐倉孝哉, 矢幡一英, 金子 修: 熱帯熱マラリア原虫の赤血球認識分子EBA-175の細胞内輸送. 感染症若手フォーラム, 北広島クラッセホテル, 北海道北広島市, 2013年2月28日～3月2日.
- 8) 井上愛美, 金子 修, カレトン リチャード: 遺伝連鎖群解析法を用いた赤内期マラリア感染に対する株特異的免疫の標的抗原の探索. 感染症若手フォーラム, 北広島クラッセホテル, 北海道北広島市, 2013年2月28日～3月2日.
- 9) 井上愛美: 遺伝連鎖群解析法を用いた赤内期マラリア感染に対する株特異的免疫の標的抗原の探索. 感染症若手フォーラム2013, 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター・感染免疫部門, 2013年2月28日～3月2日.
- 10) 黒崎陽平, 西村聡子, 浦田秀造, 安田二郎: ハザラウイルスの増殖を抑制する細胞性因子. 感染症若手フォーラム2013, 北広島, 2013年2月28日～3月2日.
- 11) 井上愛美: *Plasmodium yoelii yoelii*の赤内期又は赤外期マラリア原虫に対する免疫の種特異性の検証. 第6回寄生虫感染免疫研究会, 大分大学医学部, 2013年3月8日～3月9日.
- 12) Shinjiro Hamano, Dinesh Mondal: カラアザールの発症危険因子ならびに治療前後の免疫

- 応答に関する研究. 第6回 寄生虫感染免疫研究会, 大分市, 2013年3月8日～3月9日.
- 13) **中野将之, 平山壽哉**: ピロリ菌が産生するvacuolating cytotoxin (VacA)はLRP1を介してオートファジーを誘導する. 第37回長崎感染症研究会, 長崎市, 2013年3月16日.
 - 14) **八尋錦之助, 中野政之, 野田公俊, 平山壽哉**: ヘリコバクター・ピロリVacAのLRP1を介したオートファジーとアポトーシス誘導. 第86回日本細菌学会総会, 千葉県幕張, 2013年3月17日～3月20日.
 - 15) **中村寛海, 和田崇之, 梅田 薫, 小笠原 準, 長谷 篤**: 食中毒起因ウェルシュ菌のスーパーオキシドジスムターゼ遺伝子 (sod) に基づく系統解析. 第86回日本細菌学会総会, 千葉県幕張メッセ, 2013年3月18日～3月20日. 日本細菌学雑誌 (68) 1. 2013. P21
 - 16) **中西典子, 和田崇之, 有川健太郎, 岩本朋忠**: 結核菌北京型1, 054株を用いた遺伝的系統解析法の評価. 第86回日本細菌学会総会, 千葉県幕張メッセ, 2013年3月18日～3月20日. 日本細菌学雑誌 (68) 1. 2013. P38
 - 17) **角 泰人, 白須紀子, 大類隼人, 森 亨**: ハイチでの結核診断における PURE-TB-LAMP法導入の試み. 第88回日本結核病学会総会, 千葉県幕張メッセ, 2013年3月28日～3月29日.
 - 18) **Richard Culleton, 井上愛美, Hunt Paul, Zoungrana Augustin, Mitaka Hayato, Abkallo Hussein, 金子 修, Martinelli Axel, Pain Arnab**: Quantative whole Genome Resequencing and Genetic Linkage Analyses Identify Genes Controlling Medically Important Phenotypes of Malaria Parasites. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月28日～3月31日.
 - 19) **井上愛美, Hunt Paul, Martinelli Axel, Aoungrana Augustin, 金子 修, Pain Arnab, Culleton Richard**: 遺伝連鎖解析によるマラリア赤内期感染に対する防御抗原の探索. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月28日～3月31日.
 - 20) **大槻 均, 入子英幸, 石野智子, 金子 修, 福本宗嗣, 坪井敬文, 鳥居本美**: ネズミマラリア原虫赤血球結合リガンド (EBL) の細胞内輸送ドメインの解析. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日.
 - 21) **井上雅広, 安田幸一, 岡本健太, 上村春樹, 森田公一, 堀越信夫**: Tb14-3-3によるAKB14-3-3-1の蛋白リン酸化制御. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日.
 - 22) **麻田正仁, 後藤康之, 矢幡一英, 横山直明, 井上 昇, 金子 修, 河津信一郎**: バイオイメーシングによるBabesia bovisメロゾイト滑走運動の研究. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日.
 - 23) **川合 覚, サトウ 恵, 林 尚子, 前野芳正, リチャード カレトン, 中澤秀介**: 実験的Plasmodium knowlesi感染サルの血液, 尿, および糞便中に含まれる原虫DNA断片の消長. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日.
 - 24) **Abkallo H, Tangena JA, Inoue M, Culleton R**: The consequences of within-host competition in mixed strain malaria infections. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日.
 - 25) **前野芳正, Culleton R, Quang NT, 川合 覚, Marchand RP, 中澤秀介**: ベトナム南部における生殖母体からみた森林マラリア伝播の分子疫学的研究. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日.

- 26) 井上愛美, Hunt P, Zoungrana A, Mitaka H, Abkallo H, 金子 修, Martinelli A, Pain A, Culleton R : Quantitative Whole Genome Resequencing and Genetic Linkage Analyses to Identify Genes Controlling Virulence in Malaria Parasites. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日.
- 27) 加藤健太郎, 武川泰啓, Ralston Katherine, Gilchrist Carol, 濱野真二郎, Petri Jr. William, 篠原康郎 : シアル酸依存的な *Entamoeba histolytica* 感染感受性. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日. 第82回日本寄生虫学会大会プログラム・抄録集 P100
- 28) 下川周子, 小林正規, 千馬正敬, 鈴江一友, 平井 誠, 今井 孝, 谷口委代, 久枝 一, 濱野真二郎 : Double-edged effects of IFN- γ in amoeba infection of mice. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日. 第82回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集P62
- 29) 安達圭志, 濱野真二郎 : マンソン住血吸虫感染時に肝臓内で誘導される免疫反応についての解析. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日. 第82回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集P76
- 30) Cherif Mahamoud Sama, Shuaibu Mohammed Nasir, 兒玉幸修, 菊池三穂子, 黒崎友亮, Helegbe koffi, Gideon, 柳 哲雄, 佐々木 均, 平山謙二 : Augmented protective effect of Nanoparticle -coated PYGPI8p-transamidase related in mouse model. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日. 第82回日本寄生虫学会大会プログラム・抄録集, pp 64
- 31) 橘 裕司, 柳 哲雄, 王 女亭, 河田寿子, 馮 萌, 小林正規, 平山謙二, Pattanawong Urasaya, Putaporntip Chaturong, Jongwutiwes Somchai : タイ中央部における野生カンクイザルからの *Entamoeba nuttalli* の分離とその性状解析. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日. 第82回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集, pp80
- 32) 菊池三穂子, Leonardo Lydia R, Fernandez Natasha Andrea, 千種雄一, 加藤-林 尚子, Arevalo Napoleon L., Lim Ronald R, Agsolid Lea M, Chua James C, 吾妻 健, 平山謙二 : フィリピンにおける高度浸淫地における若年性住血吸虫性肝線維化症の実態調査. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日. 第82回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集, pp81
- 33) Mbanefo Evaristus C., Chuanxin Yu, 菊池三穂子, Shuaibu Mohammed N, Boamah Daniel, 桐木雅史, 林 尚子, 千種雄一, 長田良雄, 平山謙二 : Molecular characterization of a Novel Protein-Coding Gene Family with SEA-like Domain in *Schistosoma japonicum*. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日. 第82回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集, pp97
- 34) 林 尚子, Chua James C, Leonardo Lydia R, Arevalo Napoleo L, Tagum Ma Nerissa B, Agsord Lea, 菊池三穂子, 大前比呂思, 春樹宏介, 千種雄一 : 尿中の住血吸虫遊離型DNAを標的とした活動性感染の検出. 第82回日本寄生虫学会大会, 東京医科歯科大学湯島キャンパス, 2013年3月29日～3月31日. 第82回日本寄生虫学会大会プログラム抄録集, pp89
- 35) 二見恭子, Gabriel O Dida, Peter A Lutiali : ネットアイシマカの発生環境と亜種厚生. 第65

- 回日本衛生動物学会大会，江別市，酪農学園大学，2013年4月5日～4月7日．*Medical Entomology and Zoology* Vol.64 Suppl, 2013, pp37
- 36) 角田 隆, Tran Chi Cuong, Tran Duc Dong, Nguyen Thi Yen, Nguyen Hoang Le, Tran Vu Phong, 皆川 昇：ハノイ市内における冬期のネッタイシマカ及びヒトスジシマカの成虫の活動．第65回日本衛生動物学会大会，江別市，酪農学園大学，2013年4月5日～4月7日．*Medical Entomology and Zoology* Vol.64 Suppl, 2013, pp42
- 37) 比嘉由紀子, Nguyen Thi Yen, Tran Hai Son, Trang Duc Dong, Vu Ngoc Thuy, 都築 中, Nguyen Hoang Le, Tran Vu Phong, 皆川 昇：ベトナムにおけるデング熱媒介蚊のモニタリング調査（2010年および2011年）．第65回日本衛生動物学会大会，江別市，酪農学園大学，2013年4月5日～4月7日．*Medical Entomology and Zoology* Vol.64 Suppl, 2013, pp42
- 38) 川島恵美子, Gabriel O Dida, 二見恭子, 川田 均, 皆川 昇：西ケニア地区におけるAn.gambiae s.s.のkdr遺伝子の出現について．第65回日本衛生動物学会大会，江別市，酪農学園大学，2013年4月5日～4月7日．*Medical Entomology and Zoology* Vol.64 Suppl, 2013, pp43
- 39) 砂原俊彦：サルマラリア伝播の数理モデル．第65回日本衛生動物学会大会，江別市，酪農学園大学，2013年4月5日～4月7日．*Medical Entomology and Zoology* Vol.64 suppl, 2013, pp43
- 40) 川田 均, Dida G O, Sonie G, Njenga S M Mwandawiro C, 皆川 昇：ケニア西部におけるマラリア媒介蚊のピレスロイド感受性に関する調査（7）第4ベクター An.rivulorumの重要性についての再考．第65回日本衛生動物学会大会，江別市，酪農学園大学，2013年4月5日～4月7日．*Medical Entomology and Zoology* Vol.64 Suppl, 2013, pp44
- 41) 川田 均, Dida G O Sonie G, Njenga S M Mwandawiro C, 皆川 昇：ケニア西部におけるマラリア媒介蚊のピレスロイド感受性に関する調査（8）LLIN（オリセット？ネット）の使用が主要3種のベクターに与えるインパクトについての考察．第65回日本衛生動物学会大会，江別市，酪農学園大学，2013年4月5日～4月7日．*Medical Entomology and Zoology* Vol.64 Suppl, 2013, pp44
- 42) 山下嘉郎, 星野仁彦, 岡 真優子, 松本壮吉, 有賀晴之, 横田恭子, 有吉紅也：結核関連抗原に対するCD4陽性T細胞サイトカインプロファイルの検討．第110回日本内科学会講演会，東京，2013年4月11日～4月13日．
- 43) 宮原麗子, 安波道郎, 吉田レイミント, 高橋健介, ダン ドックアイン, 有吉紅也：遺伝子発現を用いた呼吸器感染症発症リスクの検討．第110回日本内科学会講演会，東京，2013年4月11日～4月13日．
- 44) 泉田真生, 古本朗嗣, 島崎貴治, 関野元裕, 森本浩之輔, 有吉紅也：kluiveria ascorbataによる敗血症を繰り返したクッシング症候群の一例．第86回日本感染症学会総会，長崎，2013年4月25日～4月26日．
- 45) 風 幸世, 嶋田雅暁, 濱野真二郎：住血吸虫感染と人口密度との関連．日本アフリカ学会第50回学術大会，東京都，2013年5月25日～5月26日．日本アフリカ学会第50回学術大会研究発表要旨集vi
- 46) 鈴木 基, レニャットミン, 吉田レイミント, 吉嶺裕之, 森本浩之輔, 有吉紅也：2011 12 シーズンにおけるインフルエンザ・ワクチンの効果と呼吸器ウイルス流行の影響．第87回日本感染症学会学術講演会，横浜，2013年6月4日～6月6日．
- 47) 柿内聡志, 齊藤信夫, 松井昂介, 石藤智子, 山梨啓友, 高木理博, 神白麻衣子, 古本朗嗣, 森

- 本浩之輔，有吉紅也：当科が経験した感染性心内膜炎 33 例の検討．第87回日本感染症学会学術講演会，横浜，2013年 6 月 4 日～ 6 月 6 日．
- 48) 濱口杉大，有吉紅也，吉田レイミント：ベトナムの高次医療機関感染症科に入院となる未分類熱性患者におけるリケッチア症について当科が経験した感染性心内膜炎 33 例の検討．第87回日本感染症学会学術講演会，横浜，2013年 6 月 4 日～ 6 月 6 日．
- 49) 齊藤信夫，古本朗嗣，神白麻衣子，鈴木 基，森本浩之輔，有吉紅也：高齢者の心臓血管外科手術術後感染におけるリスク因子の研究．第87回日本感染症学会学術講演会，横浜，2013年 6 月 4 日～ 6 月 6 日．
- 50) 松井昂介，石藤智子，柿内聡志，神白麻衣子，古本朗嗣，坂上拓郎，森本浩之輔，有吉紅也：抗 IFN γ 自己抗体を認めた播種性 *Mycobacterium abscessus* 感染症の一例．第87回日本感染症学会学術講演会，横浜，2013年 6 月 4 日～ 6 月 6 日．
- 51) 樋泉道子，本村秀樹，吉田レイミント，橋爪真弘，森内浩幸：ベトナム・カンホア省で発生した先天性風疹症候群の臨床疫学的特徴．第54回日本臨床ウイルス学会，岡山県倉敷市，倉敷市文芸館，2013年 6 月 8 日～ 6 月 9 日．
- 52) 八尋錦之助，中野政之，野田公俊，平山壽哉：ピロリ菌の空胞化毒素VacAによるオートファジーとアポトーシスはLRP1を介して誘導される．第19回日本ヘリコバクター学会学術集会，長崎市，2013年 6 月28日～ 6 月29日．
- 53) 津川 仁，鈴木秀和，佐谷秀行，松崎潤太郎，平田賢郎，福原誠一郎，岡田佐和子，正岡建洋，畠山昌則，平山壽哉，日比紀文：細胞内CagA安定性を規定する細胞表層LRP1のautophagy制御機構．第19回日本ヘリコバクター学会学術集会，長崎市，2013年 6 月28日～ 6 月29日．
- 54) 松島加代子，磯本 一，赤澤祐子，大仁田 賢，中尾一彦，平山壽哉：胃MALTリンパ腫における拡大内視鏡所見の検討．第19回日本ヘリコバクター学会学術集会，長崎市，2013年 6 月28日～ 6 月29日．
- 55) 松島加代子，磯本 一，赤澤祐子，大仁田 賢，平山壽哉：H.pylori感染胃粘膜の背景：miRNA発現変動と炎症．第19回日本ヘリコバクター学会学術集会，長崎市，2013年 6 月28日～ 6 月29日．
- 56) 赤澤祐子，磯本 一，松島加代子，南 ひとみ，山口直之，塩澤 健，大仁田 賢，竹島史直，平山壽哉，中尾一彦：VacAは小胞体ストレスの活性化により胃上皮細胞にアポトーシスを誘導する．第19回日本ヘリコバクター学会学術集会，長崎市，2013年 6 月28日～ 6 月29日．
- 57) 森田公一：「新興・再興感染症と生体防御」デング熱・デング出血熱．第24回日本生体防御学会学術総会，熊本市，2013年 7 月10日～ 7 月12日．
- 58) 金子 修：マラリア原虫による赤血球マトリョーシカ化機構．国際シンポジウム&第2回マトリョーシカ型生物学会 マトリョーシカ生物の世界，京都ガーデンパレス，京都市，2013年 7 月24日～ 7 月26日．
- 59) 佐倉孝哉，矢幡一英，金子 修：The upstream sequence segment of the C-terminal cysteine-rich domain is required for microneme trafficking of *Plasmodium falciparum* erythrocyte binding antigen 175．国際シンポジウム&第2回マトリョーシカ型生物学会 マトリョーシカ生物の世界，京都ガーデンパレス，京都市，2013年 7 月24日～ 7 月26日．
- 60) 宮崎真也，Zhu Xiaotong，矢幡一英，金子 修：熱帯熱マラリア原虫タンパク質SURFINの赤血球への輸送機構．国際シンポジウム&第2回マトリョーシカ型生物学会 マトリョー

シカ生物の世界, 京都ガーデンパレス, 2013年7月24日～7月26日.

- 61) 矢幡一英, Mutungi Joe Kimanthi, 坪井敬文, 金子 修: 赤血球侵入時におけるマラリア原虫タンパク質の時間空間的な局在解析. 国際シンポジウム&第2回マトリョーシカ型生物学研究会 マトリョーシカ生物の世界, 京都ガーデンパレス, 京都市, 2013年7月24日～7月26日.
- 62) Eiki Yamasaki, Masayuki Nakano, Toshiya Hirayama, Hisao Kurazono: Rapid identification of Salmonella serotypes by SNP profiling. 日米医学協力研究会コレラ・細菌性腸管感染症専門部会 日本国内総会, 京都, 2013年8月8日.
- 63) Taichiro Takemura, Asako Tokizawa, Tetsu Yamashiro: Analysis of CRISPR/Cas module in *Vibrio cholerae*. 日米コレラ日本部会, 稲盛財団記念館/京都大学東南アジア研究所関連施設 (京都市), 2013年8月8日.
- 64) 山崎栄樹, 中野政之, 平山壽哉, 倉園久生: Salmonella enterotoxinはサルモネラ属菌にとって必須の病原因子か? 第80回日本細菌学会北海道支部学術総会, 北海道, 2013年8月25日～8月26日.
- 65) 加賀谷 渉, 宮崎真也, 矢幡一英, 太田伸生, 金子 修: 赤内期熱帯熱マラリア原虫SURFIN4.2のマウレル裂から赤血球表面への輸送機構. 第21回分子寄生虫学ワークショップ, 神戸市立神戸セミナーハウ, 神戸市, 2013年8月25日～8月28日.
- 66) 麻田正仁, Xangsayarath P, 矢幡一英, 金子 修: Plasmodium yoelii赤血球侵入機構の解析に向けたテトラサイクリン発現調節システムの開発. 第21回分子寄生虫学ワークショップ, 神戸市立神戸セミナーハウス, 2013年8月25日～8月28日.
- 67) 福土路花, 矢幡一英, 佐倉孝哉, 金子 修, 永宗喜三郎: トキソプラズマやマラリアが持つ植物液胞様オルガネラ. 第21回分子寄生虫学ワークショップ, 神戸市立神戸セミナーハウス, 神戸市, 2013年8月25日～8月28日.
- 68) Ernerst W. Apondi, Koki Taniguchi, Satoshi Komoto, Yoshimasa Maeno, Mitsutaka Wakuda, Mohammad Shah, Kouichi Morita, Yoshio Ichinose: Detection and Molecular Characterization of Rotavirus Strains from Diarrhoeal Children in Kiambu, Kenya, between 2009 and 2011. The 66th Japanese bacteriology association Kyushu branch general meeting and the 50th Japanese virology association Kyushu branch general meeting, 長崎市, 2013年9月6日～9月7日.
- 69) 早坂大輔, 青木康太郎, Mya Myat Ngwe, 嶋田 聡, 森田公一: 日本脳炎ウイルス感染マウスにおける感染量とインターフェロン応答の分析. 第66回日本細菌学会九州支部総会 第50回日本ウイルス学会九州支部総会, 長崎市, 2013年9月6日～9月7日.
- 70) Richard Culleton: Quantitative Whole Genome Resequencing and Genetic Linkage Analyses Identify Genes Controlling Medically Important Phenotypes of Malaria Parasites. 第12回あわじしま感染症免疫フォーラム, 兵庫県淡路市 淡路夢舞台国際会議場, 2013年9月10日～9月13日.
- 71) Hussein Abkallo, Ferreira Pedro, Nakazawa Shusuke, Hokama Sarina, Meno Yoshimasa, Huffman Michael, satoru Kawai, Weimin Lui, Hahn Beatrice, Culleton R: Detection of Pre-Erythrocytic Stage Malaria Parasite DNA in Blood and Faeces of Sporozoite- Infected Mice and Monkeys. 第12回あわじしま感染症免疫フォーラム, 兵庫県淡路市 淡路夢舞台国際会議場, 2013年9月10日～9月13日.
- 72) Yuki Takamatsu, Kenta Okamoto, Tuan Duc Dinh, Fuxun Yu, Daisuke Hayasaka,

- Leo Uchida, Takeshi Nabeshima, C Buerano Corazon, kouichi Morita : NS1' protein facilitates Japanese Encephalitis virus production in avian cells. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Japan, 2013年9月10日～9月13日.
- 73) Muhareva Raekiansyah, Lyre Anni Espada-Murao, Kenta okamoto, Toru Kubo, Kouichi Morita : Suppression of TNF- α -induced endothelial permeability by dengue virus infection. The 12th awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Japan, 2013年9月10日～9月13日.
- 74) Erika Ban, Yuka Yoshida, Takayuki Wada, Naoki Ichikawa, Takashi Hamabata, Takeaki Wajima, and Yoshikazu Nishikawa : DNA sequence and analysis of virulence plasmid of enterotoxigenic Escherichia coli 0169:H41 that adhere to HEp-2 cells in unique aggregative manner. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity (AIFII 2013), Awaji Yumebutai International Conference Center, Japan, 2013年9月10日～9月13日.
- 75) Bhim Gopal Dhoubhadel, Lay-Myint Yoshida, Nguyen Hien Anh, Le Nhat Minh, Le Hoo Tho, Michio Yasunami, Motoi Suzuki, Konosuke Morimoto, Dang Duc Anh, Koya Ariyoshi : Association of Bacterial Load and Multiple-Serotype Colonization of Pneumococcus with Childhood ARI cases in Vietnam. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity (AIFII), Awaji Yumebutai International Conference Center, Japan, 2013年9月10日～9月13日.
- 76) 平山謙二, Huy Nguyen Tien, ハマダ モハメッド サモラ ジャビエル : 住血吸虫性肝疾患とHLAとの関連に関するメタ解析. 第22回日本組織適合性学会大会, コラッセふくしま, 福島県, 2013年9月14日～9月16日. 第22回日本組織適合性学会大会 抄録集, HLA バリアと臨床: 葛藤から順応, そして応用, 2013年9月14日-16日, コラッセふくしま, 福島, 日本, pp.87
- 77) 安田二郎, 吉川祐助, 宮沢孝幸, 福岡藍子 : 抗ウイルス細胞因子Tetherinを利用した安全なワクチン製造用細胞株の樹立. 第156回日本獣医学会学術集会, 岐阜大学, 岐阜市, 2013年9月20日～9月22日.
- 78) 坂部沙織, 安田二郎 : インフルエンザ感染におけるヒトTetherin/BST-2の効果. 第156回日本獣医学会学術集会, 岐阜大学, 岐阜市, 2013年9月20日～9月22日.
- 79) 早坂大輔, 淵上剛志, 森田公一 : フラビウイルス脳炎の分子イメージング. 第156回日本獣医学会学術集会, 岐阜大学, 岐阜市, 2013年9月20日～9月22日.
- 80) 麻田正仁, Suarez Carlos, 薄井美帆, 後藤康之, 横山直明, 井上 昇, 矢幡一英, 金子 修, 河津信一郎 : Babesia bovisチオレドキシンペルオキシターゼBbTPx-1ノックアウト原虫は活性窒素種負荷に対する感受性が上昇する. 第156回日本獣医学会学術集会, 岐阜大学, 岐阜市, 2013年9月20日～9月22日.
- 81) 矢幡一英, Mutungi JK, 坪井敬文, 金子 修 : マラリア原虫が赤血球に侵入する際の細胞内オルガネラタンパク質の局在変化. 第11回分子寄生虫・マラリアフォーラム, 長崎大学医学部ポンペ会館, 長崎市, 2013年10月2日～10月3日.
- 82) Pandey K, Ferreira PE, Yahata K, Kaneko O : Differential response of malaria parasite against the inhibitors of mammalian sarco-endoplasmic reticulum Ca²⁺-ATPase. 第11回分子寄生虫・マラリアフォーラム, 長崎大学医学部ポンペ会館, 長崎市, 2013年10月2日～10月3日.
- 83) 麻田正仁, Suarez C, 薄井美帆, 後藤康之, 横山直明, 井上 昇, 矢幡一英, 金子 修, 河

- 津信一郎：Babesia bovisチオレドキシンペルオキシターゼBbTPx-1ノックアウト原虫の活性窒素種負荷に対する感受性上昇。第11回分子寄生虫・マラリアフォーラム，長崎大学医学部ポンペ会館，長崎市，2013年10月2日～10月3日。
- 84) 加藤健太郎：赤痢アメーバ感染における宿主粘膜糖鎖の役割。第11回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム，長崎市，2013年10月2日～10月3日。第11回分子寄生虫・マラリア研究フォーラムプログラム・講演要旨P33
- 85) 三井義則，加藤健太郎，三浦光政，青木克己：マンソン住血吸虫の雌雄成虫に対するアモジアキンの5?g/ml以下でのインビトロの効果 In vitro effects of amodiaquine on paired Schistosoma mansoni adult worms at concentrations of less than 5 μ g/ml. 第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月4日。第54回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集P41
- 86) 井上 学，岡真優子，仁木満美子，尾関百合子，一瀬休生，濱野真二郎，松本壮吉：ケニア共和国 Mbita 地区の児童における結核菌感染と鉤虫感染の関連。第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月4日。第54回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集P39
- 87) 風 幸世，Chadeka Evans，砂原俊彦，Chaves Luis Fernando，Justin Yombo K. Dan，金子 聡，一瀬休生，松本壮吉，嶋田雅暁，濱野真二郎：Risk Factors and Spatial Distribution of Schistosoma mansoni Infection among Primary School Children in Western Kenya. 第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月4日。第54回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集P40
- 88) Kalenda Yombo Dan J, Kentaro Kato, Yasuyuki Goto, Yoshito Fujii, Shinjiro Hamano：Application of tandem repeat recombinant proteins as potential antigens for the sero-diagnostic test of Schistosoma mansoni infection. 第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月4日。第54回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集P40
- 89) 安達圭志，長田良雄，中村梨沙，玉田耕治，濱野真二郎：Unique T cells with unconventional cytokine profiles induced in the livers of mice during Schistosoma mansoni infection. 第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月4日。第54回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集P41
- 90) 内田玲麻，Eapada-Murao Lyre Anni，森田公一：デングウイルス感染ヒト培養細胞における?型インターフェロンの発現抑制。第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。
- 91) 和田崇之，山本太郎：わが国における結核分子疫学と伝搬経路推定：結核中蔓延国としての役割について。第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。
- 92) 角 泰人，源 不二彦，吉田美紀，森 安義，白須紀子，山本太郎，森 亨：ハイチにおける結核診療の現況と，日本からの支援についての考察。第54回熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。抄録Abstract p-132
- 93) 秦 亮，山本太郎，渡邊 浩：中国上海市における市中気道感染症由来インフルエンザ菌の薬剤感受性及び水平伝播についての研究。第54回熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。抄録Abstract. p-128
- 94) 高橋宗康，和田崇之，山本太郎：東日本大震災における年齢別死亡の考察。第54回熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。抄録Abstract.p-106
- 95) 水本憲治，江島啓介，山本太郎，西浦 博：系統的レビュー及び数理モデルを用いたデングニ

- 次感染時の重症化に関する疫学的機構の解明. 第54回熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日. 抄録Abstract. p-99
- 96) 飛永祥平, 松本充生, 吉田志緒美, 北市正則, 鈴木克洋, 露口一成, 岡田全司, 林 清二, 山本太郎, 和田崇之: 昭和後期における結核菌の薬剤耐性を探る—抗結核薬の変遷とその影響に関する考察. 第54回熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日. 抄録Abstract.p-151
- 97) Richard Culleton, Inoue Megumi, Hunt Paul, Mitaka Hayato, Kaneko Osamu, Illingworth Chris, Martinelli Axel, Shen Ho Y. Pain Arnab : Quantitative Whole Genome Resequencing and Genetic Linkage Analyses Identify Genes Controlling Medically Important Phenotypes of Malaria Parasites. 第54回日本熱帯医学会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日.
- 98) Richard Culleton, Abkallo Hussein, Ferreira Pedro, Nakazawa Shusuke, Hokama Sarina, Meno Yoshimasa, Huffman Michael, satoru Kawai, Weimin Lui, Hahn Beatrice : Detection of Pre-Erythrocytic Stage Malaria Parasite DNA in Blood and Faeces of Sporozoite- Infected Mice and Monkeys. 第54回日本熱帯医学会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日.
- 99) Pandey K, Ferreira PE, 矢幡一英, 金子 修 : Differential response of malaria parasite against the inhibitors of mammalian sarco-endoplasmic reticulum Ca^{2+} -ATPase. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日. 第54回日本熱帯医学会大会 プログラム抄録集 p98-99
- 100) Hussein A, 井上愛美, Hunt P, 三高隼人, 金子 修, Illingworth C, Martinelli Axel, Shwen HY, Pain A, Culleton R : Quantitative whole genome resequencing and genetic linkage analyses to identify genes controlling virulence in malaria parasites. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日. 第54回日本熱帯医学会大会 プログラム抄録集 p143-144
- 101) 前野芳正, Culleton R, Nguyen TQ, 川合 覚, 伊藤 誠, Machand RP, 中澤秀介: ベトナム南部におけるスポロゾイトからみた森林マラリア伝播の分子疫学的研究. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日. 第54回日本熱帯医学会大会 プログラム抄録集 p94-95
- 102) 川合 覚, サトウ恵, 伊藤 誠, 森 安義, 西本 太, 蔭 宏偉, 前野芳正, 中澤秀介, Tiengkham P, 門司和彦: ラオス・サワンナケート県セポン周辺地における地域住民および飼育サルを対象としたマラリア調査. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日. 第54回日本熱帯医学会大会 プログラム抄録集 p95
- 103) 黒崎陽平, 浦田秀造, 安田二郎: 抗エボラウイルス剤の開発に向けたシェードタイプウイルスによる感染性アッセイ系の確立. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日.
- 104) 浦田秀造, 安田二郎: ラッサウイルスの粒子形成・出芽解析. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月3日～10月5日.
- 105) Ngo Chi Cuong, 有吉紅也, 吉田レイミント, 小泉信夫, Pham Thanh Thuy, 濱口杉大: ハノイの高次医療機関に入院となる未分類熱性疾患患者におけるレプトスピラ症. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎, 2013年10月3日～10月5日.
- 106) 北庄司絵美, Lacuesta Talitha, 鈴木 基, 薄田大輔, 神白麻衣子, Dimaano Efren, Villarama Benito, 有吉紅也, 小泉信夫: レプトスピラ感染症診断における組み換えタンパク質抗原 leptospiral immunoglobulin-like A を用いたIgM ELISAの有用性. 第54回日本熱帯医学会

大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。

- 107) **Dhoubhadel Bhim Gopal, Yoshida Lay Myint, Anh Nguyen Hien, Minh Le Nhat, Tho Le Hoo, Yasunami Michio, Suzuki Motoi, Morimoto Konosuke, Anh Dang Dug, Ariyoshi Koya**：ベトナム人の小児肺炎における肺炎球菌の鼻腔定着率，菌量および血清型分布について．第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3～10月5日。
- 108) **安波道郎, 宮原麗子, 吉田レイミント, 中村仁美, 高橋健介, Vu Dinh Thiem, Trinh Xu-an mai, Dang duc anh, Le huu tho, 有吉紅也**：ニャチャン出生コホート研究 - 前向き研究による小児呼吸器感染の遺伝的危険因子同定．第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。
- 109) **北庄司絵美, Putong Nimfa, Dimaano Efren, 神白麻衣子, 鈴木 基, Villarama Benito, 有吉紅也**：フィリピン，マニラの国立感染症病院における中枢神経感染症の現状．第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。
- 110) **島崎貴治, Aludar Naomi Ruth D, 鈴木 基, 谷口智宏, Dimaano Efren M., Villarama Jose Benito, 有吉紅也**：フィリピン，マニラ市の国立感染症病院に入院した肺結核患者に合併した細菌性肺炎に関する前向き研究．第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。
- 111) **Dhoubhadel Bhim Gopal, Zabihullah Rahamani, Ferogh Alhaj Abdul rauf, Sahab Ahmad Shafiq, Rabi Alhaj Mirwais, Suzuki Motoi, Yasunami Michio, Yoshida Lay Myint, Watanabe Kiwao, Ariyoshi Koya**：アフガニスタンにおける小児肺炎の死亡率，リスク因子および肺炎球菌定着率に関する研究．第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月3日～10月5日。
- 112) **Nguyen Tien Huy, Tran Van Giang, Dinh Ha Duy Thuy, 菊池三穂子, Tran Tinh Hien, Javier Zamora, and 平山謙二**：デング熱の重症化：システムティックレビューとメタアナリシスによる検討 (Associated factors and biomarkers with dengue shock syndrome : A systematic review and meta-analysis.). 第54回日本熱帯医学会大会，長崎市(サテライト 10月3日(木) 長崎大学医学部坂本キャンパス)，2013年10月3日～10月5日．プログラム抄録集, pp76
- 113) **Nguyen Tien Huy, Nguyen Thanh Hong Thao, Tran Thi Ngoc Ha, Nguyen Thi Phuong Lan, Phan Thi Thanh Nga, Tran Thi Thuy, Ha Manh Tuan, Cao Thi Phi Nga, Vo Van Tuong, Tran Van Dat, Vu Thi Que Huong, Juntra Karbwang, and Kenji Hirayama.**：デングショック症候群患者の反復性ショックを初回のショック時の臨床データにより予測する方法の病院記録からの検討 (Development of clinical decision rules to predict recurrent shock during a patient's first dengue shock episode.). 第54回日本熱帯医学会大会，長崎市(サテライト 10月3日(木) 長崎大学医学部坂本キャンパス)，2013年10月3日～10月5日．プログラム抄録集, pp77
- 114) **Nguyen Van Thuong, Nguyen Thi Phuong Lan, Le Chi Thanh, Cao Minh Thang, Cao Thi My Nhon, Cao Thi Hong Nhung, Nguyen Thi Mai, Nguyen Quang Truong, Vu Thien Thu Ngu, Do Kien Quoc, Tran Thi Ngoc Ha, Nguyen Tien Huy, Tran Ton, Mihoko Kikuchi, Luong Chan Quang**：デング熱の重症化は急性期の末梢血ヘルパーT細胞分画比(Th1/Th2)に影響される (Proportion of T helper 1 / T helper 2 may determine the clinical course in the acute dengue infection.). 第54回日本熱帯医学会大会，長崎市(サテライト 10月3日(木)

- 長崎大学医学部坂本キャンパス), 2013年10月3日~10月5日. プログラム抄録集, pp78
- 115) **Rathnapala Upeksha, Yahathugoda T Channa, Weerasoriya Mirani V, 砂原俊彦, 木村英作, 伊藤 誠, 小林信之, 平山謙二**: 地形および土地被服データを用いたフィラリア流行地域予測モデル A Predictive model of residual areas of filariasis in Sri Lanka using remote sensing environmental and topography data. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市(サテライト 10月3日(木)長崎大学医学部坂本キャンパス), 2013年10月3日~10月5日. プログラム抄録集, pp91
- 116) **Plengsuriyakarn Tullayakorn, 松田尚樹, 平山謙二, Na-Bangchang Kesara, Karbwang Juntra**: ヒト胆管癌異種移植ヌードマウスモデルを用いた β -eudesmolの抗がん作用のPET-CTによる評価 (PET-CT and Anticancer Activity of beta-eudesmol in Human Cholangiocarcinoma Xenografted Nude Mouse Model.) 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市(サテライト 10月3日(木)長崎大学医学部坂本キャンパス), 2013年10月3日~10月5日. プログラム抄録集, pp93
- 117) **Vasquez Velasquez Clara Alejandra, 古田隆久, Nguyen Thi Phuong Lan, Nguyen Tien Huy, Vu Thi Que Huong, Tran Thi Thuy, Vo Dinh Tham, Cao Thi Phi Nga, Tran Thi Ngoc Ha, 菊池三穂子, 森田公一, 安波道郎, 渡辺直熙, 平山謙二**: デング熱重症化と関連するマスト細胞顆粒タンパクであるキマーゼおよびトリプターゼをコードする遺伝子の患者集団での多型解析. Association study between Chymase (CMA1) and Tryptase 1 (TPSAB1) genes polymorphism and severe forms of Dengue virus infection, Dengue Hemorrhagic Fever (DHF) / Dengue Shock Syndrome (DSS) in Vietnam. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市(サテライト 10月3日(木)長崎大学医学部坂本キャンパス), 2013年10月3日~10月5日. プログラム抄録集, pp117
- 118) **Mbanefo Evaristus Chibunna, 菊池三穂子, Nguyen Tien Huy, Shuaibu Mohammed Nasir, Cherif Mahamoud Sama, Yu Chuanxin, 若尾雅広, 隅田泰生, 平山謙二**: 日本住血吸虫ゲノム中に見出された新規遺伝子ファミリーはウニ精子蛋白質, エンテロキナーゼ及びアグリニン(SEA)ドメインを共有し, グリカンおよびヘムに対する結合性を有している Characterization of a gene family encoding SEA-domain proteins with lectin-like and heme-binding properties from Schistosoma japonicum. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市(サテライト 10月3日(木)長崎大学医学部坂本キャンパス), 2013年10月3日~10月5日. プログラム抄録集, pp135
- 119) **Cherif Mahamoud Sama, Shuaibu Mohammed Nasir, 兒玉幸修, 菊池三穂子, 柳 哲雄, 佐々木 均, 由井克之, Nguyen Huy Tien, Laothavorn Karbwang Juntra, 平山謙二**: ナノボールに封入したマウスマラリア新規DNAワクチン(GPI8pトランスアミダーゼ関連タンパク遺伝子)は樹状細胞を活性化しIL-12産生を亢進することで防御効果を増強する. (Protective nanoparticles-coated PYGPI8p-transamidase related protein (PyTAM) DNA vaccine in Plasmodium yoelii malaria model enhanced the Dendritic Cells maturation and production of IL-12). 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市(サテライト 10月3日(木)長崎大学医学部坂本キャンパス), 2013年10月3日~10月5日. プログラム抄録集, pp143
- 120) **Lam Quoc Bao, Nguyen Tien Huy, 菊池三穂子, 柳 哲雄, 千馬正敬, Shuaibu Mohammed Nasir, 本間季里, 由井克之, 平山謙二**: マラリア感染と治療を繰り返すことにより制御性のCD19陽性B細胞が生じ実験的脳マラリアの発症が抑制される (CD19(+) B cells Con-

- fer Protection Against Experimental Cerebral Malaria In Semi-immune Rodent Model) . 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市(サテライト 10月3日(木) 長崎大学医学部坂本キャンパス), 2013年10月3日~10月5日. プログラム抄録集, pp140
- 121) 橘 裕司, 柳 哲雄, 小林正規, Wang Ting, Feng Meng, 平山謙二, Thongaree Siriporn, Pattanawong Urassaya, Putaporntip Chaturong, Jongwutiwes Somchai. : タイのヒトとマカクにおける腸管寄生アメーバの感染状況と *Entamoeba nuttalli* 分離株の性状解析. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市(サテライト 10月3日(木) 長崎大学医学部坂本キャンパス), 2013年10月3日~10月5日. プログラム抄録集, pp145
- 122) 佐藤 光, 中込 治, 有吉紅也, 平山謙二. : 海外研修病院との連携による長崎大学熱帯医学修士課程の新たな試みー文科省「組織的な大学院教育改革推進プログラム(GPプログラム)『国際連携による熱帯感染症専門医の養成』」平成21年度採択事業ー. 第54回日本熱帯医学会大会「熱帯医学からグローバルヘルスへ」, 長崎市(サテライト 10月3日(木) 長崎大学医学部坂本キャンパス), 2013年10月3日~10月5日. プログラム抄録集, pp154
- 123) 都築 中, Bui phu, Le nghia, 川田 均, Vu duoc, 長谷部 太, Trang phong, 皆川 昇: ボウフラ主要発生源対策及び殺虫剤浸漬網を使用したベトナム南部におけるネッタイシマカ防除試験. 第54回日本熱帯医学会, 長崎市, 2013年10月4日~10月5日. プログラム抄録集 pp32 P1-52
- 124) 角田 隆, Tran Chi Cuong, Tran Duc Dong, Tran Vu Phong, 皆川 昇: ハノイ市内における屋内と屋外のデング熱媒介蚊の密度. 第54回日本熱帯医学会, 長崎市, 2013年10月4日~10月5日. プログラム抄録集 pp32 P1-53
- 125) 岩下華子, Gabriel O Dida, 砂原俊彦, 二見恭子, George Sonye, Luis F Chaves, 皆川 昇: 蚊帳普及後のマラリア対策として, 家畜の活用は有効か? 第54回日本熱帯医学会, 長崎市, 長崎ブリックホール, 2013年10月4日~10月5日. プログラム抄録集 pp32 P1-55
- 126) Luis F Chaves : Leishmaniasis sand fly vector density reduction is less marked in destitute housing after insecticide thermal fogging. 第54回日本熱帯医学会, 長崎市, 2013年10月4日~10月5日. プログラム抄録集 pp31 P1-51
- 127) 森田公一: 東アジアにおける日本脳炎ウイルスの分子疫学解析. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日~10月5日.
- 128) Corazon C. Buerano, 鍋島 武, G. Alonzo Maria Terrese, C. Suarez Lady-Anne, Ngwe Tun Mya Myat, 井上真吾, R. Matias Ronald, F. Natividad Filipinas, 森田公一: Phylogenetic Analysis of the Envelop Gene of Dengue-3 Virus from the Philippines. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日~10月5日.
- 129) Alonzo Maria Tereese, Natividad Filipinas, 森田公一: Mechanism of Increased Vascular Permeability among Patients with Severe Secondary Dengue Virus Infection. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎ブリックホール (長崎市), 2013年10月4日~10月5日.
- 130) Thi Thu Thuy, Dang Thi Dinh, Pham Hoai Linh Ly, Nguyen Co Thach, 鍋島 武, 余 福勲, Le Thi Quynh Mai, 森田公一, 長谷部 太: ベトナムに棲息するコウモリに潜むヘニパウイルス. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日~10月5日.
- 131) 高松由基, 内田玲麻, Phan Thi Nga, 岡本健太, 鍋島 武, Dang Thi Thu Thao, Do Thien Hai, Nguyen Thi Tuyet, 長谷部 太, 森田公一: ベトナム国の急性髄膜炎/脳炎患者にお

- けるエコーウイルス30感染例と日本脳炎ウイルス感染例の臨床比較解析. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日.
- 132)中村梨沙, 前田直良, 柴田健輔, 山田久方, 樗木俊聡, 吉開泰信: インターロイキン-15またはCD8T細胞を標的にしたインフルエンザAウイルス感染による急性肺障害治療の可能性. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日. 第54回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集 P26
- 133)谷川智洋, 藤井仁人, 三浦雅史, 濱野真二郎, 風 幸世, Nzou Samson, Mwau Matilu, 金子 聡: マルチプレックスアッセイ法を用いたマンスン住血吸虫由来組換え抗原の抗原性評価. 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日. 第54回日本熱帯医学会大会プログラム抄録集 P29
- 134)E W Apondi, K Taniguchi, S Komoto, Y Maeno, M Wakuda, M M Shah, K Morita, Y Ichinose : Detection and Molecular Characterization of Rotavirus Strains from Diarrhoeal Children in Kiambu, Kenya, between 2009 and 2011. 54th Annual Scientific Meeting for the Japanese Society of Tropical Medicine, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日.
- 135)Nguyen Van Trang, Nguyen Cong Khanh, Vu Dinh Thiem, Vu Thi Bich Hau, Vu Van Chuyen, Do Duc Luu, 時沢亜佐子, 竹村太地郎, Dang Duc Anh, 山城 哲: Emergence of G2P[4] rotavirus IN NON-VACCINATED POPURATION IN Northern VIETNAM in 2012-2013 SEASON. 第54回 日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日.
- 136)堀田こずえ, 曾田公輔, 宇野有紀子, 永井泰子, リ マイ, 尾崎弘一, 伊藤啓史, 伊藤壽啓, 山城 哲: ベトナム北部の生鳥市場のアヒルから分離された鳥インフルエンザウイルス遺伝子解析. 第54回 日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日.
- 137)竹村太地郎, 時沢亜佐子, 山城 哲: Vibrio choleraeのもつCRISPR/Casの解析. 第54回 日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日.
- 138)Asako Tokizawa, Vu Dinh Thiem, Nguyen Conh Khanh, Pham Duc Tho, Taichiro Takemura, and Tetsu Yamashiro : A background information of hospitalized children in Nam Dinh Children's Hospital, Northern Vietnam. 第54回 日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日.
- 139)Asako Tokizawa, Nguyen Binh Minh, Nguyen Van Trang, Vu Dinh Thiem, Vu Van Chuyen, Do Duc Luu, Nguyen Thi Phuong Lan, Taichiro Takemura, and Tetsu Yamashiro : Etiologies of childhood diarrhea in Nam Dinh province, northern Vietnam.. 第54回 日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日.
- 140)Nguyen Hoang Vu, Diep The Tai, Ha Van Thieu, Nguyen Thi Thu Hong, An Khac Huy, Nguyen Quang Truong, Nguyen Thi Ngoc Nhi, Nguyen Ngoc Anh Thu, Dang Cong Chanh, Asako Tokizawa, Taichiro Takemura, Nguyen Trong Noi, Nguyen Thi Phuong Lan, Tetsu Yamashiro. : Hospital based study of a broad range of etiological agents of diarrhea in Dong Nai province, southern Vietnam.. 第54回 日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日.
- 141)Kouichi Morita, Noboru Minakawa : Dengue Control : Where do we go now? 第54回日本熱帯医学会大会, 長崎市, 2013年10月4日～10月5日.
- 142)泉川公一, 栗原慎太郎, 高園貴弘, 森永芳智, 中村茂樹, 今村圭文, 塚本美鈴, 柳原克紀, 森

- 田公一，河野 茂：発熱，意識障害，DICを呈した海外渡航歴のない58歳，男性。。第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月4日～10月5日。
- 143)余 福勲，Ferdinard Adungo，泉川公一，栗原慎太郎，河野 茂，早坂大輔，森田公一：Expression of recombinant SFTS virus uncapsid protein and development of antibody-detecting diagnostic test kits.. 第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月4日～10月5日。
- 144)鍋島 武，井上真吾，岡本健太，H. Guillermo Posadas，Yu Fuxun，F. Natividad Filipinas，一瀬昭豊，坂口美亜子，砂原俊彦，森田公一：未知の蚊媒介性ウイルスを探索する。第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月4日～10月5日。
- 145)早坂大輔，青木康太郎，Mya Myat Ngwe Tun，嶋田 聡，森田公一：日本脳炎ウイルス感染マウスにおける感染量とインターフェロン応答の解析。第54回日本熱帯医学会大会，長崎ブリックホール（長崎市），2013年10月4日～10月5日。
- 146)高松由基，岡本健太，Duc Tuan Dinh，Fuxun Yu，早坂大輔，内田玲麻，鍋島 武，Corazon C Buerano，森田公一：日本脳炎ウイルスのNS1' タンパク質は，鳥細胞でのウイルス産生を増殖させる。。第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月4日～10月5日。
- 147)Mya Myat Ngwe Tun，Kyaw Zin Thant，井上真吾，鍋島 武，青木康太郎，Aung Kyaw Kyaw，Tin Myint，Thi Tar，早坂大輔，森田公一：ミャンマーにおいて新たに確認されたアフリカ型チクングニヤウイルスについて。。第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月4日～10月5日。
- 148)Ulanday Gianne，岡本健太，森田公一：デングウイルスプロテアーゼ阻害剤スクリーニングのための生化学アッセイを最適化する試み。第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月4日～10月5日。
- 149)Ferdinard Adungo，余 福勲，森田公一：Development of monoclonal antibody against yellow fever virus.. 第54回日本熱帯医学会大会，長崎市，2013年10月4日～10月5日。
- 150)石田正之，松本武格，井上祐一，綿屋 洋，高山浩一，高木理博，海老規之，岸本淳司，藤田昌樹，一瀬幸人：肺癌化学療法時の発熱性好中球減少症に対するCFPMとMEPMの無作為化比較第2相試験（LOGIK1003）。第71回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部 秋季学術講演会，福岡，2013年10月11日～10月12日。
- 151)西山 明，山梨啓友，高木理博，齋藤信夫，神白麻衣子，古本朗嗣，安井春奈，安部邦子，福岡順也，森本浩之輔，有吉紅也：Caplan症候群の1例。第71回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部 秋季学術講演会，福岡，2013年10月11日～10月12日。
- 152)高木理博，石田正之，齋藤信夫，神白麻衣子，古本朗嗣，木下直江，林徳真吉，森本浩之輔，有吉紅也：所麻酔下胸腔鏡による全層胸膜生検を施行した3症例。第71回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部 秋季学術講演会，福岡，2013年10月11日～10月12日。
- 153)和田崇之：反復配列多型（VNTR）分析法による結核菌型別—精度管理と考え方，使い方—。第72回日本公衆衛生学会総会，三重県津市，2013年10月23日～10月25日。
- 154)古尾谷法子，中尾理恵子，上田佳代，近藤正英，本田 靖，橋爪真弘：長崎県五島市における熱中症予防ランダム化地域比較介入研究。第72回日本公衆衛生学会，三重県総合文化センター，2013年10月23日～10月25日。日本公衆衛生雑誌 第60巻・第10号
- 155)樋泉道子，本村秀樹，高橋健介，吉田レイミント，橋爪真弘，森内浩幸：ベトナム・カンホア省で発生した先天性風疹症候群の心合併症の追跡調査（予後決定因子の解析）。第45回日本小

- 児感染症学会総会・学術集会，北海道札幌市，札幌コンベンションセンター，2013年10月26日～10月27日．
- 156) 黒崎陽平：博士号を取得して多様なキャリアパスを手に入れる．第51回日本生物物理学会年会男女共同参画・若手問題シンポジウム，京都，2013年10月28日～10月30日．
- 157) Endang Pujiyati, Kawada H, Sunahara T, Kasai S & Minakawa N : Pyrethroid resistance status of *Aedes albopictus* (Skuse) collected in Nagasaki city, Japan. 第66回日本寄生虫学会南日本支部大会・第63回日本衛生動物学会南日本支部大会，由布市，大分大学医学部臨床講義等1F 臨床中講義室，2013年11月2日～11月3日．プログラム講演要旨 pp5 衛生動物5
- 158) 砂原俊彦：吸血源を待ち伏せ中の蚊について．第66回日本寄生虫学会南日本支部大会・第63回日本衛生動物学会南日本支部大会，由布市，大分大学医学部臨床講義等1F 臨床中講義室，2013年11月2日～11月3日．プログラム講演要旨 pp5 衛生動物5
- 159) 時沢亜佐子, Vu Dinh Thiem, Nguyen Conh Khanh, Pham Duc Tho, Dr. Vu Van Chuyen, Dr. Do Duc Luu, 竹村太地郎, 山城 哲：ベトナム社会主義共和国ナムディン省における急性下痢症で入院した患者の来院時臨床像と生活背景．第28回日本国際保健医療学会学術大会，名桜大学（沖縄県名護市），2013年11月2日～11月3日．
- 160) 都築 中：疾病媒介蚊対策試験評価へのphase(相)分類の導入について．第28回日本国際保健医療学会学術大会，名護市，名桜大学，2013年11月2日～11月4日．演題番号：Po-0th-B07
- 161) 平山謙二, Juntra Karbwang, Abraham Aseffa：エチオピアでの皮膚リーシュマニア症に対する紫雲膏の有効性に関する研究．第1回ムラサキに関するシンポジウム，名古屋大学市立大学大学院薬学研究科 宮田専治記念ホール，愛知，日本，2013年11月3日～1月1日．（第1回ムラサキに関するシンポジウム講演要旨集，The 1st Symposium on Murasaki Abstract Papers, pp37-38, 主催 jムラサキに関するシンポジウム実行委員会）
- 162) 吉田志緒美, 露口一成, 鈴木 克, 岡田全司：Pyrosequencing法を用いた *Mycobacterium abscessus* 及びその近縁菌の遺伝子型とクラリスロマイシン感受性の迅速鑑別の試み．第56回日本感染症学会中日本地方会学術集会/第83回日本感染症学会西日本地方会学術集会/第61回日本化学療法西日本支部総会（合同大会），大阪国際会議場（グランキューブ大阪），2013年11月6日～11月8日．
- 163) 吉田志緒美, 露口一成, 鈴木克洋, 岡田全司：臨床から分離される抗酸菌?群菌に対するコバスTaqman法の評価検討．第56回日本感染症学会中日本地方会学術集会/第83回日本感染症学会西日本地方会学術集会/第61回日本化学療法西日本支部総会（合同大会），大阪国際会議場（グランキューブ大阪），2013年11月6日～11月8日．
- 164) 吉田志緒美, 佐々木由美子, 鈴木克洋, 林 清二, 露口一成, 吉田志緒美, 岡田全司, 富田元久：過去15年間の当院におけるM.szulgai症19例の検討．第56回日本感染症学会中日本地方会学術集会/第83回日本感染症学会西日本地方会学術集会/第61回日本化学療法西日本支部総会（合同大会），大阪国際会議場（グランキューブ大阪），2013年11月6日～11月8日．
- 165) 西山 明, 齋藤信夫, 神白麻衣子, 古本朗嗣, 森本浩之輔, 有吉紅也：インペネム(IPM)耐性 *Acinetobacter* による複雑性腹腔内感染症へのTigecycline治療の一例．第61回日本化学療法学会西日本支部総会，第56回日本感染症学会中日本地方会学術集会，第83回日本感染症学会西日本地方会学術集会，大阪，2013年11月6日～11月8日．
- 166) 望月恒太, 齋藤信夫, 島崎貴治, 坂下健太郎, 神白麻衣子, 古本朗嗣, 森本浩之輔, 堤 寛,

- 有吉紅也：脳生検で診断した1 HIV感染者の血清トキソプラズマIgG抗体陰性トキソプラズマ脳症の一例。第61回日本化学療法学会西日本支部総会，第56回日本感染症学会中日本地方会学術集会，第83回日本感染症学会西日本地方会学術集会，大阪，2013年11月6日～11月8日。
- 167)大澤令奈，齋藤信夫，神白麻衣子，古本朗嗣，森本浩之輔，有吉紅也：MSSAによる治療抵抗性多発性化膿性筋炎・筋膿の一例。第61回日本化学療法学会西日本支部総会，第56回日本感染症学会中日本地方会学術集会，第83回日本感染症学会西日本地方会学術集会，大阪，2013年11月6日～11月8日。
- 168)余 福勲，Ferdinand Adungo，内田玲麻，井上真吾，森田公一：Preparation of genetically-engineered antigen of RVF virus for development of antibody-detecting diagnostic test kits.. 第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸市，2013年11月10日～11月11日。
- 169)早坂大輔，青木康太郎，Mya Myat Ngwe Tun，嶋田 聡，森田公一：日本脳炎ウイルス感染マウスにおける感染量とインターフェロン応答の解析。第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸市，2013年11月10日～11月11日。
- 170)黒崎陽平，西村聡子，浦田秀造，安田二郎：IFN誘導性抗ウイルス因子によるハザラウイルス増殖への影響。第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸，2013年11月10日～11月12日。
- 171)浦田秀造，安田二郎：アレナウイルスの粒子形成・出芽解析。第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸，2013年11月10日～11月12日。
- 172)曾田公輔，堀田こずえ，豊海 晋，宇野有紀子，永井泰子，Le Quynh Mai，Phuong Song Lien，尾崎弘一，伊藤啓史，山城 哲，伊藤壽啓：ベトナム北部のアヒルから分離されたH5N1高病原性鳥インフルエンザウイルスの遺伝子と抗原性の解析。第61回 日本ウイルス学会学術集会，神戸国際会議場（神戸市），2013年11月10日～11月12日。
- 173)堀田こずえ，曾田公輔，東 典子，中村陽子，橋本康代，Mai TQ Le，伊藤壽啓，山城 哲：メコンデルタ地域の環境水中に含まれる鳥インフルエンザウイルス調査。第61回 日本ウイルス学会学術集会，神戸国際会議場（神戸市），2013年11月10日～11月12日。
- 174)高松由基，岡本健太，Dihn Tuan Duc，余 福勲，早坂大輔，内田玲麻，鍋島 武，Corazon C Buerano，森田公一：日本脳炎ウイルスのNS1'タンパク質は，鳥細胞でのウイルス産生を増加させる。第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸市，2013年11月10日～11月12日。
- 175)吾郷昌信，北川由美香，松本文昭，吉川 亮，陣内久美子，高柳俊光，森内浩幸：垂直感染による新生児重症ウイルス感染症2例を惹起したコクサッキーウイルスB2型。第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸市，2013年11月10日～11月12日。
- 176)安倍智子，左 一八，梅原 薫，Sabaratnam S Vikineswary，森田公一，野口博司，鈴木隆：オオヒラタケ熱水抽出物によるデングウイルス感染阻害。第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸市，2013年11月10日～11月12日。
- 177)白井顕治，北浦一孝，早坂大輔，高崎智彦，鈴木隆二，倉根一郎：日本脳炎感染マウスの予後に関連する脳内浸潤T細胞の質的な違い。第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸市，2013年11月10日～11月12日。
- 178)Mya Myat Ngwe Tun，Daisuke Hayasaka，Kotaro Aoki，Masachika Senba，Kenji Shirai，Ryuji Suzuki，Kouichi Morita：TNF- α and IL-10 reduce the incidence of mortality in mice following tick-borne encephalitis virus infection. 第61回日本ウイルス学会学術集会，神戸市，2013年11月10日～11月12日。

- 179) 菊池三穂子, James Chua, Lydia R. Leonardo, 千種雄一, 林 向子, 平山謙二: 尿中の循環抗原を検出フィリピンにおける高度浸淫地における若年性住血吸虫性肝線維化症の実態調査. 第7回蠕虫研究会, KKR江ノ島ニュー向洋, 神奈川, 日本, 2013年11月15日~11月16日. 第7回蠕虫研究会, プログラム・講演要旨, pp15
- 180) 田沼順子, Nguyen Quang Tuan, Pham Thi Thanh Thuy, Doan Thu Tra³, 吉田レイミント, 有吉紅也, 岡 慎一: 北ベトナムにおける HIV 感染夫婦の社会人口学的背景と夫婦間 HIV 伝播関連因子について. 第27回日本エイズ学会学術集会, 熊本, 2013年11月20日~11月22日.
- 181) 齊藤信夫, 古本朗嗣, 大澤令奈, 北庄司絵美, 松木 啓, 田中健之, 高木理博, 松田淳一, 赤松紀彦, 神白麻衣子, 森本浩之輔, 柳原克紀, 御手洗 聡, 有吉紅也: *M. genavense* による腹部リンパ節炎, 腹膜炎を呈したAIDSの2例. 第27回日本エイズ学会学術集会, 熊本, 2013年11月20日~11月22日.
- 182) Clara Alejandra Vasquez Velasquez, Kenji Hirayama, Nguyen Thi Phuong Lan, Mihoko Kikuchi, Le Chi Thanh, Nguyen Tien Huy, Vu Thi Que Huong, Tran Thi Thuy, Vo Dinh Tham, Tran Thi Ngoc Ha, Kouichi Morita, Naohiro Watanabe. : Association study between Chymase (CMA1) and Trypsin 1 (TPSAB1) genes polymorphism and severe forms of Dengue virus infection, Dengue Hemorrhagic Fever (DHF) / Dengue Shock Syndrome (DSS) in Vietnam. 日本人類遺伝学会 第58回大会, 江陽グランドホテル, 仙台市, 宮城県, 2013年11月20日~11月23日. 日本人類遺伝学会 第58回大会 プログラム・抄録集, pp.158 (P13)
- 183) 和田崇之, 梅田 薫, 畠山理沙, 阿部拓人, 和田崇之, 高倉耕一, 小笠原 準, 真田秀一, 長谷 篤: イヌ・ネコにおけるCapnocytophaga canimorsus分布状況および分離菌の遺伝学的解析 第. 29回日本微生物生態学会大会, 鹿児島大学, 2013年11月23日~11月25日.
- 184) Richard Culleton : DNA from pre-erythrocytic parasites is detectable by PCR in the blood and faeces of hosts. The fourth International Symposium on Human and Monkey Malaria in Vietnam (Nagasaki sympo), 長崎大学熱帯医学研究所, 2013年11月26日~11月27日.
- 185) 橋爪真弘, (シンポジスト「シンポジウム13 黄砂の健康への影響」2013年11月29日, 東京): 黄砂の疫学文献レビュー. 第63回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京都千代田区, ホテルニューオータニ, 2013年11月28日~11月30日.
- 186) 加藤健太郎, Dhoubhadel Bhim G, 藤井仁人, 橘 裕司: Identification of a carbohydrate recognition domain of the intermediate subunit of *Entamoeba histolytica* lectin (Igl). 第36回日本分子生物学会年会, 兵庫県神戸市, 2013年12月3日~12月6日.
- 187) 金子 修, 矢幡一英, 宮崎真也: マラリア原虫による宿主赤血球のゾンビ化現象, ワークショップ「寄生・共生における損美化機構の分子生物学的解析 (オーガナイザー永宗喜三郎・金子修). 第36回日本分子生物学会年会, 神戸ポートアイランド, 神戸市, 2013年12月3日~12月6日.
- 188) 金子 修, 矢幡一英, 宮崎真也: マラリア原虫による宿主赤血球のゾンビ化現象, ワークショップ「寄生・共生における損美化機構の分子生物学的解析 (オーガナイザー永宗喜三郎・金子修). 第36回日本分子生物学会年会, 神戸ポートアイランド, 神戸市, 2013年12月3日~12月7日.

- 189) **海老根一生, 平井 誠, 坂口美亜子, 矢幡一英, 金子 修, 中野由美子**: マラリア原虫のRab5bは脂質修飾依存的に感染赤血球内に運ばれる. 第36回分子生物学会年会, 神戸市, 2013年12月4日~12月6日.
- 190) **早坂大輔, 森田公一**: 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の血清診断法の確立および媒介マダニ調査. 九州微生物研究会, 福岡市, 2013年12月6日.

10. 3 国際会議における研究発表

- 1) **Inoue Megumi** : The specificity of immunity against the blood stages and pre-erythrocytic stages of *Plasmodium yoelii*. Keystone Malaria Symposium, Keystone, USA, 2013. 1 . 20～ 1 . 25.
- 2) **Ataru Tsuzuki, Le Trung Nghia, Bui Thanh Phu, Futoshi Hasebe, Vu Trong Duoc, Hitoshi Kawada, Tran Vu Phong, Noboru Minakawa** : Dengue Vector Control Trial with Simple Attachment of Insecticide Treated Window Screen and Larval Container Management in South Vietnam. Asian-African Research Forum, Tokyo Medical and Dental University, 2013. 1 . 23～ 1 . 24. p-41
- 3) **Takashi Tsunoda, Tran Chi Cuong, Tran Duc Dong, Nguyen Thi Yen, Nguyen Hoang Le, Tran Vu Phong, Futoshi Hasebe, Noboru Minakawa** : Seasonal Activity and Spatial Distribution of *Aedes aegypti* and *A. albopictus* in Hanoi. Asian-African Research Forum, Tokyo Medical and Dental University, 2013. 1 . 23～ 1 . 24. P-42
- 4) **Noboru Minakawa, Kyoko Futami, Jinping Hu, Hanako Iwashita, Yukiko Higa, Cassian Mwatele, Sammy Njenga** : Population Structure of *Aedes aegypti* in Kenya. Asian-African Research Forum, Tokyo Medical and Dental University, 2013. 1 . 2～ 1 . 24.
- 5) **Minakawa N** : Population Structure of *Aedes aegypti* in Kenya. Asian-African Research Forum, Tokyo Medical and Dental University, 2013. 1 . 23～ 1 . 24.
- 6) **Satoshi Komoto, Wandera Ernest Apondi, Michiko Ogino, James Nyangao, Sora Suka, Martin Bundi, Mitsutaka Wakuda, Yoshimasa Maeno, Takao Tsuji, Koki Taniguchi, Yoshio Ichinose** : Study on the distribution of G and P genotypes of human rotaviruses associated with acute gastroenteritis in Kenya. Asian-African research forum on emerging and reemerging infections 2013, Ministry of education, culture, sport, science and technology (MEXT), Japan Initiative for global research network on infectious diseases (J-GRID), Tokyo Medical Dental University, 2013. 1 . 23～ 1 . 24.
- 7) **Sachiyo Nagi, Evans Chadeka, Faith Mutungi, Yombo Kalenda Dan Justin, Makoto Ito, Satoshi Kaneko, Yoshio Ichinose, Sohkiichi Mastumoto, Sammy Njenga, Toshihiko Sunahara, Masahiro Hashizume, Masaaki Shimada and Shinjiro Hamano** : The morbidity and risk factors related to *Schistosoma mansoni* infection among primary school children in western Kenya. Asian-African research forum on emerging and reemerging infections 2013, Ministry of education, culture, sport, science and technology (MEXT), Japan Initiative for global research network on infectious diseases (J-GRID), Tokyo Medical Dental University, Tokyo, 2013. 1 . 23～ 1 . 24.
- 8) **Toizumi M, Motomura H, Takahashi K, Enga P, Hien VM, Yoshida LM, Tho LH, Anh DD, Hashizume M, Ariyoshi K, Moriuchi H** : High incidence and mortality of congenital rubella syndrome in central Vietnam. Asian-African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections (AARF) 2013., Tokyo Medical and Dental University, 2013. 1 . 23～ 1 . 24.
- 9) **Lan Nguyen Thi Phuong, Lan Nguyen Thi Phuong, Thuong Van Nguyen, Thanh Le Chi, Thang Minh Cao, Nhon Can Thi My, Truong Quang Nguyen, Ngu Vu Thien Thu, Quoc Kien Do, Ha Tran Thi Ngoc, Huy Tien Nguyen, Phuong Thi Pham, Ton Tran,**

- Mihoko Kikuchi, Quang Chan Long, An Van Tran, Huong Vu Thi Que, Kenji Hirayama** : Tcell subsets dynamics in the course of acute dengue infection. Asian African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 2013, M&D Tower 2F Akio Suzuki Memorial Hall, Tokyo Medical and Dental University, 2013. 1 . 23 ~ 1 . 24. (Asian African Research Forum on Emerging and Reemerging Infections 2013, January 23 Wed to 24 Thu 2013, M&D Tower 2F Akio Suzuki Memorial Hall, Tokyo Medical and Dental University, Ministry of Education, Cultrue, Sports, Science and Technology (MEXT), Japan Intitative for Global Research Network on Infectious Disease (J-GRID, pp. 122)
- 10) **Shingo Inoue, Matilu Mwau, Mitsuru Toda, James Kimotho, Rosemary Sang, Solomon Mpoke, Ian Njeru, Willis Akhwale, Yoshio Ichinose, Kouichi Morita** : Development of rapid diagnostics and establishment of alert system for outbreaks of yellow fever and Rift Valley fever in Kenya. Prince Mahidol Award Conference, 2013 (PMAC2013), 1st Global Conference on Regional Disease Surveillance Networks, 2nd International one Health Congress, Centennial Commemoration of the Rockefeller Foundation, Centara Grand & Bangkok Convention Centre, Bangkok, Thailand, 2013. 1 . 29 ~ 2 . 2 .
 - 11) **Jiro Yasuda** : Diagnostic studies of Lassa fever in Nigeria.. 6th US-J Medical Biodefense Research Symposium, "New Frontiers in Medical Biodefense Research Between the United States and Japan", Nagasaki, 2013. 2 . 4 .
 - 12) **Hashizume M** : More evidence on health impacts of climate change from developing regions. The 4th International Conference on Sustainability Science in Asia (ICSS-Asia 2013), Australian National University, Canberra, 2013. 2 . 4 ~ 2 . 8 .
 - 13) **Bii CC, Mashedi O, Ouko TT, Korir RK, Gatumwa EM, Abdi M, Yaguchi T, Yokoyama K, Ichinose Y, Kangogo M, Kawamoto S, Matsuzawa T, Gonoi T** : Mycotoxin Contamination of Cereals at Various Consumer Outlets in Kenya. KASH conference, KEMRI, Nairobi, Kenya, 2013. 2 . 6 ~ 2 . 8 .
 - 14) **Shingo Inoue, Matilu Mwau, Mitsuru Toda, James Kimotho, Rosemary Sang, Solomon Mpoke, Ian Njeru, Willis Akhwale, Yoshio Ichinose, Kouichi Morita** : Development of Rapid Diagnostics and Establishment of Alert System for Outbreaks of Yellow Fever and Rift Valley Fever in Kenya. The 3rd KEMRI Annual Scientific & Health Conference, Kenya Medical Research Institute (KEMRI) Headquarters, Nairobi, Kenya, 2013. 2 . 6 ~ 2 . 8 .
 - 15) **Mitsuru Toda, Ian Njeru, Shikanga O-Tipo, David Kareko, Matilu Mwau, Shingo Inoue, Kouichi Morita** : Proposed method to evaluate the response to suspected disease outbreaks using a short message service (SMS) model: A cluster randomized trial. The 3rd KEMRI Annual Scientific & Health Conference, Kenya Medical Research Institute (KEMRI) Headquarters, Nairobi, Kenya, 2013. 2 . 7 .
 - 16) **Nagi S, Hamano S** : Risk factors and spatial distributions of *Schistosoma mansoni* infection among primary school children in western Kenya. International Workshop on Enteric Protozoan infections, 2013. 2 . 22.
 - 17) **Shimokawa C, Hamano S** : *Entamoeba moshkovskii* is associated with diarrhea in infants and causes diarrhea and colitis in mice. International Workshop on Enteric Protozoan infections, Tokyo, 2013.

2 . 22.

- 18) **Shimokawa C, Kabir M, Taniuchi M, Mondal D, Kobayashi S, Ali IK, Sobuz SU, Senba M, Houpt E, Haque R, Petri WA Jr, Hamano S** : Entamoeba moshkovskii is associated with diarrhea in infants and causes diarrhea and colitis in mice. The XVII Amibiiasis Meeting, Tokyo, 2013. 3 . 1 ~ 3 . 5 .
- 19) **Yoshida LM, Minh LM, Suzuki M, Nguyen HA, Dinh TV, ThoLH, Quynh LM, Hashizume M, Moriuchi H, Dang DA, Ariyoshi K** : Respiratory Syncytial Virus is the Major Viral Pathogen and its co-infection with other respiratory viruses Increases the Risk of Pediatric Pneumonia Hospitalization: A three-year Population-based Study in Central Vietnam. 15th International Conference on Emerging Infectious Diseases (EID) in the Pacific Rim Emerging Viral Diseases in the Pacific Rim: Vaccines and Protective Immunity, Singapore, 2013. 3 . 11 ~ 3 . 13.
- 20) **Mitsuru Toda, Ian Njeru, Shikanga O-Tipo, David Kareko, Matilu Mwau, Shingo Inoue, Kouichi Morita** : Proposed method to evaluate the response to suspected disease outbreaks using a short message service (SMS) model: A cluster randomized trial. 1st East African Epidemiology Symposium (4th East African Community Annual Health and Scientific Conference), Serena Hotel, Kigali, Rwanda, 2013. 3 . 27 ~ 3 . 29.
- 21) **James H Kimotho** : From Concept To Commercialization Of Point-Of-Care Technologies : KEMRI Production Facility's Experience. 1st East African Epidemiology Symposium (4th East African Community Annual Health and Scientific Conference), Serena Hotel, Kigali, Rwanda, 2013. 3 . 27 ~ 3 . 29.
- 22) **Luis Fernando Chaves, Azael Saldana, Chystrie Rigg, Anayansi Valderrama, Jose Calzada** : Sand fly density reduction I sless marked in precarious housing after insecticide thermal fogging. 5th World Congress on Leishmaniasis, Porto de Galinhas, Pernambuco, Brazil, 2013. 4 . 5 ~ 4 . 7 .
- 23) **Shingo Inoue, Mitsuru Toda, Matilu Mwau, Rosemary Sang, Ian Njeru, Kouichi Morita** : Progress of JICA-JST SATREPS Project and dengue epidemiology surveillance in Kenya. Cross-Sectoral Collaboration for Health and Sustainability through Research and Action in Malawi, Department of Biology, Chancellor College, University of Malawi, Zomba, Malawi, 2013. 4 . 18.
- 24) **Allan Ole Kwallah, Shingo Inoue, Kouichi Morita, Matilu Mwau** : Development of rapid diagnostics for yellow fever and its related technology. Cross-Sectoral Collaboration for Health and Sustainability through Research and Action in Malawi, Department of Biology, Chancellor College, University of Malawi, Zomba, Malawi, 2013. 4 . 18.
- 25) **Mitsuru Toda, Ian Njeru, Shikanga O-Tipo, David Kareko, Matilu Mwau, Shingo Inoue, Kouichi Morita**: mSOS (mobile SMS-based disease outbreak alert system). Cross-Sectoral Collaboration for Health and Sustainability through Research and Action in Malawi., Department of Biology, Chancellor College, University of Malawi, Zomba, Malawi , 2013. 4 . 18.
- 26) **Mitsuru Toda, Ian Njeru, Shikanga O-Tipo, David Kareko, Matilu Mwau, Shingo Inoue, Kouichi Morita** : mSOS : Mobile SMS-based disease outbreak alert system model in Kenya. National Council for Science and Technology (NCST), Ministry of Higher Education, Science and Technology, Kenyatta International Conference Centre (KICC), Nairobi, Kenya, 2013. 5 . 16.

- 27) **Kenji Hirayama, Kenji Hirayama**: Reflections. Middleton International Fellows' Association Leadership Committee Meeting, Fairmont Olympic Hotel, Seattle, Washington, USA May 22-24, 2013, 2013. 5. 22~ 5. 24.
- 28) **Okumura J** : Development of a post-disaster essential medicine list in the absence of a national essential medicine list. The 18th World Congress on Disaster & Emergency Medicine,, Manchester, United Kingdom, 2013. 5. 28~ 5. 31. The 18th World Congress on Disaster & Emergency Medicine, Abstract book
- 29) **Yohei Kurosaki, Nishimura A, Urata S, Yasuda J** : Interferon-inducible antiviral protein Tetherin/BST-2 inhibits Nairovirus replication. 15th International Negative Strand Virus Meeting, Spain, 2013. 6. 16~ 6. 21.
- 30) **Shuzo Urata, Jiro Yasuda** : The impact of GPC and N-terminal region of Lassa virus Z on virus-like particle release. XV international Conference on Negative Strand Viruses, Spain, 2013. 6. 16~ 6. 21.
- 31) **E Ban, Y Yoshida, T Wada, N Ichikawa, T Hamabata, T Wajima, and Y Nishikawa** : DNA Sequence and Analysis of Virulence Plasmid of Enterotoxigenic Escherichia coli 0169:H41 that Adheres to HEP-2 Cells in Unique Aggregative Adhesion-like Manner. The 5th Congress of European Microbiologists (FEMS), LEIPZIG, GERMANY, 2013. 7. 11~ 7. 20.
- 32) **K. Teramoto, T Sato, T Wada, A Yamamoto, N Fujiwara** : Application of MALDI Spiral-TOF MS with High Mass Resolving Power to Assign Mycolic Acid Subclasses in Mycobacterium tuberculosis. The 5th Congress of European Microbiologists (FEMS), LEIPZIG, GERMANY, 2013. 7. 11~ 7. 20.
- 33) **Toshiya Hirayama** : Helicobacter pylori VacA cause autophagy and apoptosis Low-density lipoprotein receptor-related protein-1 (LRP-1). the 5th Congress of European Microbiologists (FEMS 2013), Leipzig, 2013. 7. 21~ 7. 25.
- 34) **Kenji Hirayama** : Genetic Analysis of Chronic Chagas Disease in Bolivia-Host or Parasite Factor? XLIX Congress of the Brazilian Society of Tropical Medicine, Campo Grande, MS, Brazil, at the Centro de Convenções Arquitecto Rubens Gil de Camilo, 2013. 8. 6 ~ 8. 10.
- 35) **Imai C, Hashizume M, Cheong HK, Kim H, Honda Y, Eum JH, Kim CT, Kim J, Kim Y, Fengthong T** : The impacts of global and local climates on dengue fever in Lao PDR and Cambodia. The 25th International Society for Environmental Epidemiology, Basel, Switzerland, 2013. 8. 19~ 8. 23.
- 36) **Imai C, Brooks WA, Goswami D, Anjali BA, Dewan A, Chung Y, Kim H, Hashizume M** : The association between weather variability and Influenza incidence among young children in a low-income urban population in Bangladesh. The 25th International Society for Environmental Epidemiology, Basel, Switzerland, 2013. 8. 19~ 8. 23.
- 37) **T.Hirayama, K.yahiro, M. Nakano, M. Noda, J. Moss** : Low-density lipoprotein receptor-related protein-1 (LRP-1) mediates autophagy and apoptosis caused by Helicobacter pylori VacA. 15th International Congress of Immunology, Milan, 2013. 8. 22~ 8. 27.
- 38) **Chikako Shimokawa, Shinjiro Hamano** : Intestinal inflammatory mediated clearance of Entamoeba moshkovskii is dependent on IFN- γ Forum Cheju 16, Korea, 2013. 8. 31~ 8. 31.

- 39) **S Nakashima, T Kakugawa, T Harada, S Hara, N Sakamoto, M Nakano, Y Ishimatsu, H Isomoto, H Mukae, H Kurazono, T Hirayama, S Kohno** : Identification of helicobacter pylori VacA in human lung and its effects on airway epithelial cells. ERS Annual Congress 2013, Barcelona, 2013. 9. 7 ~ 9. 11.
- 40) **Yahata K, Mutungi JK, Tsuboi T, Kaneko O** : Different timing of the AMA1 secretion between Plasmodium falciparum and Plasmodium yoelii. 24th Annual Molecular Parasitology Meeting, Marine Biological Laboratory, Woods Hole, MA, USA, 2013. 9. 8 ~ 9. 12.
- 41) **Mutungi JK, Yahata K, Kaneko O** : Imaging of the molecular dynamics of malaria antigens during erythrocyte invasion. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, 2013. 9. 10 ~ 9. 13.
- 42) **Pandey K, Ferreira PE, Yahata K, Kaneko O** : Differential response of malaria parasite against the inhibitors of mammalian sarco-endoplasmic reticulum Ca^{2+} -ATPase. The 12th Awaji International Forum on Infections and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, 2013. 9. 10 ~ 9. 13.
- 43) **Inoue M, Abkallo H, Xangsayarath P, Hunt P, Zoungrana A, Mitaka H, Kaneko O, Mustonen V, Fischer A, Illingworth C, Martinelli A, Shwen HY, Pain A, Culleton R** : Quantitative Whole Genome Resequencing and Genetic Linkage Analyses To Identify Genes Controlling Virulence in Malaria Parasites. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, 2013. 9. 10 ~ 9. 13.
- 44) **Abkallo HM, Ferreira PE, Nakazawa S, Hokama S, Maeno Y, Quang NT, Marchand R, Huffman M, Kawai S, Lui W, Sharp P, Hahn B, Carter R, Culleton R** : Detection of Pre-Erythrocytic Stage Malaria Parasite DNA in Blood and Faeces of Sporozoite-Infected Mice and Monkeys. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, 2013. 9. 10 ~ 9. 13.
- 45) **Chikako Shimokawa, Shinjiro Hamano** : Intestinal inflammatory mediated clearance of Entamoeba moshkovskii is dependent on IFN- γ . The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, 2013. 9. 10 ~ 9. 13. 2013, pp35.
- 46) **E W Apondi, K Taniguchi, S Komoto, Y Maeno, M Wakuda, M M Shah, K Morita, Y Ichinose** : Detection and Molecular Characterization of Rotavirus Strains from Diarrhoeal Children in Kiambu, Kenya, between 2009 and 2011. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, 2013. 9. 10 ~ 9. 13.
- 47) **Mbanefo EC, Kikuchi M, Huy NT, Shuaibu MN, Cherif MS, Chuanxin Y, Suda Y, Hirayama K** : Characterization of a novel SEA-domain protein family with lectin-like and heme-binding properties from Schistosoma japonicum. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, 2013. 9. 10 ~ 9. 13. 2013, pp67.
- 48) **Nguyen Tien Huy, Atsushi Maeda, Yusuke Shima, Tran Thanh Men, Ai Hirase, Atsuo Miyazawa, Kenji Hirayama, and Kaeko Kamei** : Phospholipid Membrane-Mediated Hemozoin Formation: an Evidence of Membrane Surrounding Hemozoin and the Essential Fluid Phase

- of Phospholipids. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity , Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, 2013. 9 . 10～ 9 . 13. 2013, pp68
- 49) **Mahamoud Sama Cherif, Mohammed Nasir Shuaibu, Yukinobu Kodama, Tomoaki Kurosaki, Gideon Kofi Helegbe, Mihoko Kikuchi, Akitoyo Ichinose, Tetsuo Yanagi, Hitoshi Sasaki, Katsuyuki Yui, Nguyen Huy Tien, Juntra Karbwang, Kenji Hirayama.** : Protective nanoparticles coated PYGPI8-transamidase related protein(PyTAM) DNA vaccine in plasmodium yoelii malaria model enhanced the dendritic cells maturation and IL-12 production. The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity, Awaji Yumebutai International Conference Center, Awaji City, Hyogo, Japan, 2013. 9 . 10～ 9 . 13. 2013, pp88
 - 50) **Osamu Kaneko** : Recognition and invasion of erythrocytes by malaria parasites. International Sessions "Biochemistry toward malaria control"The 86th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society, Pacifico Yokohama, Yokohama, 2013. 9 . 11～ 9 . 13.
 - 51) **Salame Ashur, Allan Ole Kwallah, Lucy Okubi, Mulati K. Omuyundo, Carolyne Kirwae, Samson Muuo Nzou, Matilu Mwau, Shingo Inoue, Kouichi Morita** : Isolation and molecular analysis of dengue virus from the Mombasa outbreak. 19th International Scientific Conference, Mayfair Hotel, Nairobi, Kenya, 2013. 9 . 11～ 9 . 13.
 - 52) **Hirayama T, Nakano M, Noda M, Yahiro K** : LRP-1 mediates autophagy and apoptosis caused by Helicobacter pylori vacuolating cytotoxin, VacA. XXVIth International Workshop on Helicobacter and related bacteria in chronic digestive inflammation and gastric cancer, Madrid, 2013. 9 . 12～ 9 . 14.
 - 53) **Okumura J** : Application and practical use of HDSS for investigating child survival. The 7th National Research Forum, Session 3 : Health Demographic Surveillance Systeme (HDSS) - Challenges and Future Directions, Vientiane, Lao PDR, 2013. 9 . 16～ 9 . 18. The 7th National Research Forum, Abstract book
 - 54) **Abkallo Hussein, Ferreira Pedro, Nakazawa Shusuke, Hokama Sarina, Meno Yoshimasa, Huffman Michael, satoru Kawai, Weimin Lui, Hahn Beatrice, Culleton Richard** : Detection of Pre-Erythrocytic Stage Malaria Parasite DNA in Blood and Faeces of Sporozoite- Infected Mice and Monkeys. 6th MIM Pan-African Malaria Conference, 南アフリカダーバン 国際コンベンションセンター, 2013. 10. 6 ～10. 11.
 - 55) **Inoue M, Abkallo H, Hunt P, Zoungrana A, Mitaka H, Kaneko O, Illingworth C, Martinelli A, Shwen HY, Pain A, Culleton R** : Quantitative Whole Genome Resequencing and Genetic Linkage Analyses To Identify Genes Controlling Virulence in Malaria Parasites. 6th MIM Pan-African Malaria Conference, Durban, South Africa, 2013. 10. 6 ～10. 11.
 - 56) **H.Tugawa, J.Matsuzaki, S.Okada, S.Fukuhara, H.Mori, T.Masaoka, A.Sato, H.Saya, M.Hatakeyama, T.Hirayama, H.Suzuki** : differential response of malaria parasite against the inhibitors of mammalian sarco-endoplasmic reticulum Ca^{2+} -atpase. Unites European Gastoro Gastroenterogy Week Belrin 2013, Belrin , 2013. 10. 12～10. 16.
 - 57) **Kaneko O** : Protein trafficking to the Red Blood Cell by Plasmodium falciparum. "International Symposium on Current Perspectives of Malaria" supported by Korean Society for Parasitology and Tropical Medicine, Dankook University School of Medicine, Cheonan, Korea, 2013. 10. 25～10. 25.
 - 58) **Kaneko O** : Protein trafficking to the Red Blood Cell by Plasmodium falciparum. RCB International

Symposium 2013, Chung-Ang University, Seoul, Korea, 2013. 10. 25.

- 59) **Mitsuru Toda, Ian Njeru, Shikanga O-Tipo, David Kareko, Matilu Mwau, Shingo Inoue, Kouichi Morita** : Methods to improve the notification and response of suspected disease outbreaks using SMS technology: A cluster randomized control trial. Infection Prevention Network ? Kenya (IPNET-K) / Infection Control Africa Network (ICAN) conference, Sarova White Sands Beach Resort, Mombasa, Kenya, 2013. 11. 6 ~11. 8 .
- 60) **Minakawa N, Hoshi T** : Beyond buzzing: mosquito watching stimulates malaria bednet use. AST-MH 62nd Annual Meeting , Washington, DC, USA, 2013. 11. 13~11. 17. Abstract NO.368
- 61) **Minakawa N, Peter S. Larson, Gabriel O. Dida, Mark L. Wilson** : Insecticide Treated Net Use under a Comprehensive Distribution Program in Kenya: Successes and Unavoidable Shortfalls . AST-MH 62nd Annual Meeting , Washington, DC, USA, 2013. 11. 13~11. 17. Abstract NO.1336
- 62) **Hashizume M, Chaves LF, ASG Faruque, Yunus M, Streatfield K, Terao T** : The Indian Ocean Dipole and cholera incidence in Bangladesh. American Society of Tropical Medicine and Hygiene 62nd Annual Meeting, Washington DC, America, 2013. 11. 13~11. 17.
- 63) **Gideon Kofi Helegbe, Nguyen Tien Huy, Tetsuo Yanagi, Mohammed Nasir Shuaibu, Mihoko Kikuchi, Mahamoud Sama Cherif and Kenji Hirayama** : Hemoglobin loss and its association with protection at relatively low parasitemia is influenced by a host genetic factor in semi-immune mice infected with Plasmodium berghei ANKA. The 62nd Annual Meeting of American Society of Tropical Medicine and Hygiene (ASTMH), Marriott Wardman Park Washington, DC, USA, 2013. 11. 13~11. 17. Am J Trop Med Hyg November 2013 89: 200
- 64) **Nguyen Tien Huy, Nguyen Thanh Tam, Le Thi Bich Thoa, Kenji Hirayama, Juntra Karbwang Laothavorn** : Participants' understanding of informed consent in clinical trials : A systematic review and meta-analysis. 13th Annual FERCAP Conference Addressing Ethical Issues Through Quality Multidisciplinary Research, Sanur Beach Hotel, Bali, Indonesia, 2013. 11. 17~11. 20.
- 65) **Kenji Hirayama, Kenji Hirayama**: Chair man. 13th FERCAP International Conference, Sanur Beach Hotel, Bali, Indonesia, 2013. 11. 17~11. 20.
- 66) **Toizumi M, Miyakawa M, Motomura H, Vo MH, Pham E, Le HT, Vynnycky E, Dang DA, Hashizume M, Moriuchi H and Yoshida LM** : High susceptibility to rubella and high incidence of congenital rubella syndrome in central Vietnam: urgent need to introduce rubella-containing vaccine. The 8th World Congress of the World Society for Pediatric Infectious Diseases, Cape Town, South Africa, 2013. 11. 19~11. 22.
- 67) **Yoshida LM, Hien Anh Nguyen, Vu Thi Thu Huong, Watanabe K, Ai Thi Thuy Nguyen, Le Huu Tho, Dang Duc Anh and Ariyoshi K** : High Prevalence of Carbapenem Resistant Pneumococcal Carriage among Acute Respiratory Infection and Healthy Children in Central Vietnam. The 8th World Congress of the World Society for Pediatric Infectious Diseases, Cape Town, South Africa, 2013. 11. 19~11. 22.
- 68) **Nakazawa S** : Asia Africa Scientific Platform Program and Network. The fourth International Symposium on Human and Monkey Malaria in Vietnam, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Nagasaki, Japan, 2013. 11. 26~11. 27.
- 69) **Lucky A** : Current status of Plasmodium knowlesi culture in our laboratory. The fourth International

Symposium on Human and Monkey Malaria in Vietnam, Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University, Nagasaki, Japan, 2013. 11. 26~11. 27.

10. 4 報告書等印刷物

- 1) 一瀬休生：ケニア教育研究拠点活動とウイルス感染症研究. ウイルス第63巻第1号, 2013年6月. p. 75~78
- 2) 一瀬休生, Choho企画編集会議：今, 熱い! 長崎大学とケニア第2弾. 長崎大学広報誌Choho第41号, 2013年1月1日. p. 11~20
- 3) 山本太郎：うず潮「老女の一生」. 長崎新聞, 2013年1月27日. p. 9
- 4) 山本太郎：うず潮「大きな自然の中で」. 長崎新聞, 2013年3月28日. p. 9
- 5) 山本太郎：うず潮「最後に, ありがとう」. 長崎新聞, 2013年3月28日. p. 9
- 6) 山本太郎：みすず「雪の上高地, 医師の山歩き5」. みすず, 2013年6月5日.
- 7) 朴 範士, 松本明子, 横山明子, 山野上敬夫, 桑原正雄, 山本太郎, 菅波 茂：ハイチでのコレラ流行に対する医療支援活動の報告. 日本集団災害医学会誌, 2013年7月10日.
- 8) 山本太郎 訳 ヨハン・ギゼック著：感染症疫学・感染症の計測・数学モデル・流行の構造「学際トーク・カフェ」(第2号) 京都大学グローバル生存学大学院連携プログラム, 2013年7月29日. (昭和堂, 2006年)
- 9) 山本太郎 翻訳：「エイズの起源」. 日本経済新聞, 2013年8月13日.
- 10) 山本太郎 翻訳：「エイズの起源」. 日経サイエンス, 2013年8月29日.
- 11) 山本太郎 翻訳：「エイズの起源」. 信濃毎日新聞, 2013年9月5日.
- 12) 山本太郎 翻訳：「エイズの起源」. 長崎大学図書新聞, 2013年9月30日.
- 13) 山本太郎：夏の空と僻村の往診 医師の山歩き6. みすず(2013年10月号), 2013年10月3日.
- 14) 山本太郎 翻訳：エイズの起源. 東京大学出版会「UP」(2013年11月号), 2013年11月日. p. 40~47
- 15) 山本太郎：公衆衛生分野で国際資金は何かができるか. 季刊 環境研究, 2013年10月8日. p. 80~83
- 16) 山本太郎：肥満が慢性疾患の原因：「武見国際保健プログラム」設立30周年記念シンポジウム. 産経新聞, 2013年12月21日. p. 14~15
- 17) Hashizume M, Faruque ASG, Dewan AM. In AM Dewan and RJ Corner (Eds) : Rain-fall dependence of hospital visits of Aeromonas-positive diarrhoea in Dhaka.. Dhaka Megacity : Geospatial Perspectives on Urbanization, Environment and Health., 2013年9月23日. p. 333~344
- 18) Dewan AM, Hashizume M, Corner RJ, Hashizume M. In AM Dewan and RJ Corner (Eds) : Modelling spatiotemporal patterns of typhoid cases between 2005 and 2009 using spatial statistics. Dhaka Megacity: Geospatial Perspectives on Urbanization, Environment and Health, 2013年9月9日. p. 345~365
- 19) Ali S, Hashizume M, Corner RJ, Hashizume M. In AM Dewan and RJ Corner (Eds) : Spatiotemporal analysis of dengue infection between 2005 and 2010.. Dhaka Megacity : Geospatial Perspectives on Urbanization, Environment and Health, 2013年. p. 367~384
- 20) Hashizume M., Hashizume M. In R Pielke, Sr. (Eds) : Precipitation and Flood Hazards : Health Effects, Risks, and Impacts.. Climate Vulnerability : Understanding and Addressing Threats to Essential Resources. Elsevier Inc., Academic Press, 2013年4月10日. p. 115~124
- 21) 黒崎陽平：微生物核酸簡易抽出キットの比較検討. 日本法科学技術学会誌・18(1), 2013年.

p. 71～77

- 22) 安田二郎：感染症研究とバイオセーフティー．九州実験動物雑誌・No. 29, 2013年. p. 49～51
- 23) 安田二郎：ウイルス性出血熱．化学療法の領域・29(8), 2013年. p. 33～40
- 24) 安田二郎：ウイルス性出血熱．今日の治療と看護, 2013年. p. 925～927
- 25) 安田二郎：出血熱ウイルスの治療・予防法の確立に資する粒子形成, 出芽機構の解析．平成24年度 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業「現在, 国内で分離・同定できないウイルス性出血熱等の診断等の対応方法に関する研究」総括・分担研究報告書, 2013年 3 月
- 26) 一瀬休生：コレラ．化学療法の領域 特集・世界に広がるトロピカルディジーズ, 2013年 8 月. p. 70～79
- 27) 平山謙二：まえがき．長崎大学グローバルCOEプログラム 熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略 平成24年度研究成果報告書, pp 2, 長崎大学熱帯医学研究所グローバルCOE推進室発行, 2013年 3 月 p. 2
- 28) 平山謙二：症候性マラリアに対するヒトの遺伝的感受性．長崎大学グローバルCOEプログラム 熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略 平成24年度研究成果報告書, 長崎大学熱帯医学研究所グローバルCOE推進室発行, 2013年 3 月 p. 46～47
- 29) 佐々木 均, 平山謙二：DNAワクチンの臨床応用を目指した改良型ナノボールの開発．長崎大学グローバルCOEプログラム 熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略 平成24年度研究成果報告書, pp48-49, 長崎大学熱帯医学研究所グローバルCOE推進室発行, 2013年 3 月31日. p. 48～49
- 30) 平山謙二, 北 潔, 狩野繁之, 坪井敬文, 野崎智義：寄生虫疾患の病態解明及びその予防・治療をめざした研究．厚生労働科学研究補助金地球規模保健課題推進研究事業(国際医学協力研究事業)．(H24-国医-指定-004) 平成24年度 総括・分担研究報告書, 研究代表者 平山謙二, 2013年 3 月 p. 1～329
- 31) 平山謙二：日本住血吸虫性肝線維症と関連するHLA-DRB1*15:01遺伝子頻度の高齢者での減少．分担研究報告書 厚生労働科学研究補助金地球規模保健課題推進研究事業(国際医学協力研究事業)．(H24-国医-指定-004) 平成24年度総括・分担研究報告書, 研究代表者 平山謙二, pp. 11-14, 長崎大学熱帯医学研究所, 2013年 3 月31日. p. 11～14
- 32) 吾妻 健, 徳弘慎治, 林 尚子, 千種雄一, 菊池三穂子：フィリピンにおいて最近発見された日本住血吸虫症浸淫地の日本住血吸虫と宮入貝の分子生物地理学的解析．平成24年度(2012)熱帯医学研究拠点共同研究報告書, 長崎大学熱帯医学研究所(全国共同利用研究所), 長崎大学熱帯医学研究所, 2013年 7 月31日. p. 116～123
- 33) 佐々木 均, Greg Koski, Lisa Hamadian, Young-Mo Koo, Cristina Torre, Xiuqin Wang, 土田 尚, 津谷喜一郎, 内田英二, 楊河宏章, 三原華子, Juntra Karbwang, 平山謙二：医学研究のための倫理に関する国際セミナー．平成24年度(2012)熱帯医学研究拠点共同研究報告書, 長崎大学熱帯医学研究所(全国共同利用研究所), 長崎大学熱帯医学研究所, 2013年 7 月31日. p. 160～170
- 34) 平山謙二：アフリカで治験参加 ハエ媒介 感染症に『効果』 横須賀市の漢方薬メーカー．神奈川新聞 2013年 4 月23日. p. 1
- 35) 平山謙二, Juntra Karbwang, Oumer Ali, Abraham Aseffa：大草薬品．紫雲膏プロジェクトー漢方性愛の国際化へ向けた新たな取り組み．長崎大学ホームページ, 学術情報一覧, 2013

年 4 月 25.

- 36) **Kenji Hirayama** : Ghana-Japan to collaborate in Malaria control. Daily Graphic, Monday, June 17, 2013 in Ghana.
- 37) **平山謙二** : ご挨拶. 第54回日本熱帯医学会(平成25年10月 5 日, 長崎ブリックホール国際会議場) 市民公開講座 海外旅行と病気～どのように予防するか. 西日本新聞, 2013年 9 月22日. p. 23
- 39) **平山謙二** : 第54回日本熱帯医学会(平成25年10月 5 日, 長崎ブリックホール国際会議場) 市民公開講座 海外旅行と病気～どのように予防するか. 読売新聞, 2013年 9 月28日. p. 34
- 40) **森田公一** : デング熱と vector-borne diseases. 化学療法の領域 Vol29(8):25-32, 2013年
- 41) **森田公一** : デング熱. 臨床と研究 90:12号, 18-22, 2013年

11 講 演 会

11. 1 熱帯医学研究所における所外講師による講演

1) 「NTDプロジェクトへの貢献」

①データ統合によるターゲットタンパク質探索の試み

石田貴士 (東京工業大学 大学院情報理工学研究科 助教)

秋山泰先 (東京工業大学 情報生命博士教育院 教育院長)

平成24年度第82回大学院セミナー, 長崎大学熱帯医学研究所大会議室 (120号室)

2013年 2 月 5 日

2) 「NTDプロジェクトへの貢献」

②スーパーコンピュータを用いた分子シミュレーションによる創薬

関嶋政和 (東京工業大学 学術国際情報センター 准教授)

平成24年度第82回大学院セミナー, 長崎大学熱帯医学研究所大会議室 (120号室)

2013年 2 月 5 日

3) Genetic comparisons of susceptibility of the snail host *Biomphalaria glabrata* snails to *Schistosoma mansoni* infection

Dr. Matty Knight (Biomedical Research Institute, Rockville, MD 20852, U.S.A)

平成24年度第94回大学院セミナー, 長崎大学熱帯医学研究所大会議室 (120号室)

2013年 3 月25日

4) Introduction to research ethics : History and the need of ethical review system

Fabio Zicker (WHO/TDR, Switzerland)

The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan

2013年 7 月 7 日

5) Roles and functions of research ethics committees

Cristina Torres (FERCAP-Philippines)

The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan

2013年 7 月 7 日

6) Informed consent

Cristina Torres (FERCAP-Philippines)

The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan

2013年 7 月 7 日

- 7) Conflict of interest
Young Mo Koo (FERCAP-South Korea)
The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2013年 7 月 7 日
- 8) Ethical issues in pediatric research
Nao Tsuchida (National Center for Child Health and Development, Japan)
The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics,, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2013年 7 月 7 日
- 9) Ethical issues in traditional medicine research
Kiichiro Tsutani (University of Tokyo, Japan)
The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2013年 7 月 7 日
- 10) Ethical issues in epidemiological and social research
Cristina Torres (FERCAP-Philippines)
The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2013年 7 月 7 日
- 11) Ethical issues in international health research:
Study design, informed consent, level of care, post trial benefit
Akiko Matsuyama (Nagasaki University), **Cristina Torres** (FERCAP-Philippines)
The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2013年 7 月 7 日
- 12) Risks and benefits evaluation
Hiroaki Yanagawa (Tokushima University Hospital)
The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2013年 7 月 7 日
- 13) Sugar-chain based nano-biotechnology:
Sugar Chip and Sugar-Chain Immobilized Gold Nano-Particles
隅田泰生 (鹿児島大学工学部科学生命工学科)
平成25年度第31回大学院セミナー, 長崎大学熱帯医学研究所大会議室 (120号室)
2013年 7 月12日

- 14) What do human parasites do with a chloroplast anyway?

Boris Striepen

医歯薬学総合研究科大学院セミナー，熱帯医学研究所

2013年7月22日

- 15) Japan Initiative for Global Research Network on Infectious Diseases (J-GRID) Collaborative Study on Emerging and Re-emerging Infectious Diseases in Vietnam: Enhancement of Research Capacity project - Phase II -

Tetsu Yamashiro

日越国交樹立40周年記念医学歯学交流ワークショップ，ハノイオペラハウス(ベトナム ハノイ市)

2013年11月23日

11. 2 熱帯医学研究所教員による講演

- 1) ウイルス増殖を抑制する細胞性因子Tetherin/BST-2
安田二郎
岐阜大学応用生物科学部セミナー，岐阜大学
2013年1月25日
- 2) 地球温暖化に伴う熱中症の防止と紫外線防御の相対的対策
大渡 伸
教育学部保健体育科卒論発表会に於ける特別講演，総合教育研究棟2階多目的ホール
2013年2月2日
- 3) Diagnostic studies of Lassa fever in Nigeria.
安田二郎
6 th US-J Medical Biodefense Research Symposium, "New Frontiers in Medical Biodefense Research Between the United States and Japan", Nagasaki
2013年2月4日
- 4) 感染症のジオコミュニケーション～ハイチ大地震とコレラ大流行～ Indian Ocean Dipole and malaria risk in the highlands of western Kenya 開発原病と再興感染症
山本太郎
「水文化・水環境シンポジウム ジオコミュニケーション学構築をめざして」にてポスターセッション，香川大学遠隔教育調査研究室
2013年2月6日
- 5) 感染症と生態学的視点から
山本太郎
第3回院内感染症対策研修会，島根大学病院
2013年2月18日
- 6) 感染症研究の新たなプラットフォーム -ベトナム拠点の使い方，研究・教育・発信-
山城 哲
第52回 大分感染症研究会，大分レンブラントホテル（大分市）
2013年2月14日
- 7) 新型インフルエンザ対策に係る自然科学 及び 社会科学の融合研究
山城 哲
戦略的研究基盤形成支援事業「新型インフルエンザ対策に係る自然科学 及び 社会科学の融合研究」，京都産業大学 図書館ホール（京都市）
2013年3月2日
- 8) Indian Ocean Dipole and infectious disease dynamics in tropical Asia and Africa.
Hashizume M
APL-SATREPS Workshop, University of Tokyo
2013年3月1日

- 9) Ethical issues in developing vaccine in developing countries
Karbwang J
The IVI annual Conference on Vaccine Research and Development, Korea
2013年 3 月13日
- 10) アフリカでのマラリア媒介蚊フィールド研究
皆川 昇
招待講演/第155回日本獣医寄生虫学会, 東京都, 東京大学駒場キャンパス
2013年 3 月28日
- 11) 地球温暖化と病害動物学
皆川 昇
環境保健委員会・感染症対策委員会合同研修会, 徳島県医師会館
2013年 4 月13日
- 12) 「地球温暖化を考える」気候変動とウイルス感染症の動向～デングウイルス, 日本
脳炎ウイルス, ニパウイルス, 重症熱性血小板減少症候群ウイルス
森田公一
徳島県医師会感染症研修会, 徳島県医師会館
2013年 4 月13日
- 13) Distribution of Aedes mosquitoes in Malawi
Higa Y.
Cross-Sectoral Collaboration for Health and Sustainability through Research and Action in
Malawi, Zomba, Malawi
2013年 4 月18日
- 14) 感染症とヒト
山本太郎
講演, 沖縄県立沖縄中部病院
2013年 5 月 8 日
- 15) Flood, climate and diarrhea in Bangladesh
橋爪真弘
招待講演, Seoul National University, South Korea
2013年 5 月24日
- 16) The impacts of global and local climates on malaria in Papua New Guinea.
Imai C
GRL International Symposium -Health Risk Assessment of Climate Change and Air Pollu-
tion-, Seoul National University, South Korea
2013年 5 月24日
- 17) The Origins of Human Malaria Parasites
Richard Culleton
講義, 江蘇省血吸寄生虫病防治研究所
2013年 5 月26日

- 18) Quantitative Whole Genome Resequencing and Genetic Linkage Analyses Identify Genes Controlling Medically Important Phenotypes of Malaria Parasites
Richard Culleton
講義，江蘇省血吸寄生虫病防治研究所
2013年 5 月27日
- 19) Responsible Review of Clinical Research
Karbwang J
Annual Bioethics Training at Tientan Hospital, China
2013年 6 月 1 日
- 20) Ethical Issues in Clinical Trial.
Karbwang J
Annual Bioethics Training, Tientan Hospital, China
2013年 6 月 1 日
- 21) 結核分子疫学の用途と展望
和田崇之
結核菌分子疫学調査研修会，長?県南保健所
2013年 6 月27日
- 22) バイオテロと新興ウイルス感染症
安田二郎
京都舞鶴医師会学術講演会，ホテルマーレたかた
2013年 6 月27日
- 23) Ethical issues in human genome research
Kenji Hirayama
The 12th Nagasaki International Course on Research Ethics, Pompe Hall in Sakamoto Campus, Nagasaki University, Nagasaki, Japan
2013年 7 月 7 日
- 24) シンポジウムII（話題の新興・再興感染症と生体防御）デング熱・デング出血熱
森田公一
第24回日本生体防御学会学術総会，熊本市
2013年 7 月11日
- 25) DNA Sequence and Analysis of Virulence Plasmid of Enterotoxigenic Escherichia coli 0169:H41 that Adheres to HEP-2 Cells in Unique Aggregative Adhesion-like Manner
E. Ban（共同演者：Y. Yoshida, T. Wada, N. Ichikawa, T. Hamabata, T. Wajima, and Y. Nishikawa）
The 5 th Congress of European Microbiologists (FEMS)，ドイツ
2013年 7 月21日

- 26) Application of MALDI Spiral-TOF MS with High Mass Resolving Power to Assign Mycolic Acid Subclasses in Mycobacterium tuberculosis
E. Ban (共同演者 : K. Teramoto, T. Sato, T. Wada, A. Yamamoto, N. Fujiwara)
The 5th Congress of European Microbiologists (FEMS), ドイツ
2013年 7 月21日
- 27) Post MPGs-health
山本太郎
POST-2015 Project On Sustainability Transformation beyond 2015, 神奈川県横浜市
2013年 7 月27日
- 28) Quality Improvement in Ethical Review
Karbwang J
Annual Ethics Committee Training, KhonKaen University, Thailand
2013年 8 月 1 日
- 29) SIDCER/NECAST Recognition Program
Karbwang J
Annual Ethics Committee Training, KhonKaen University, Thailand
2013年 8 月 1 日
- 30) 結核菌の遺伝的多様性がもたらす研究展開：公衆衛生から自然史まで
和田崇之
長崎県職臨床技師会研修会, 長崎県央保健所
2013年 8 月 9 日
- 31) ポストMDGs-beyond2015
山本太郎
中日高齢化, 慢性疾患研究会, 中国昆明市
2013年 8 月 9 日
- 32) Molecular- to Genomic-Epidemiology of Tuberculosis: Refined Genotypic Characterization of a Nationwide Expanding Strain by Deep Sequencing Analysis
Takayuki Wada (共同演者 : Tomotada Iwamoto, Atsushi Hase, Aki Tamaru, Shinji Maeda, Junji Seto, Tadayuki Ahiko and Taro Yamamoto)
US-JAPAN Cooperative Medical Science Program: Tuberculosis and Leprosy Panel Meeting in Japan, 北海道大学
2013年 8 月17日
- 33) Retrospective Characterization of Mycobacterium tuberculosis Clinical Strains from FFPE Specimens Embedded Several Decades Ago
Takayuki Wada (共同演者 : Shiomi Yoshida, Takayuki Wada, Masanori Kitaichi, Katsuhiko Suzuki, Tomotada Iwamoto, Atsushi Hase, Taro Yamamoto and Kazunari Tsuyuguchi)
US-JAPAN Cooperative Medical Science Program : Tuberculosis and Leprosy Panel Meeting in Japan, 北海道大学
2013年 8 月17日

- 34) Climate, climate change and health in Tropical Asia.
Hashizume M
Joint Academic Conference Faculty of Medicine Siriraj Hospital and SUN/SixERS, Mahidol University, Thailand
2013年 8 月27日
- 35) Impacts of global warming on infectious disease pattern
Hashizume M
16th Forum Cheju International Parasitologists' Seminar, Seoul National University, South Korea
2013年 8 月30日
- 36) 結核菌臨床分離株のゲノム比較：公衆衛生的応用とパラログ遺伝子群の比較研究について
和田崇之
NGS（次世代シーケンサー）現場の会，兵庫県神戸市
2013年 9 月 4 日
- 37) ウイルス増殖を抑制する細胞性因子Tetherin/BST-2
安田二郎
京都大学ウイルス研究所セミナー “ウイルス研究の潮流”，京都大学
2013年 9 月 4 日
- 38) らせん型イオン軌道をもつMALDI Spiral-TOFMSによる結核菌由来ミコール酸メチルエステルの直接分析
和田崇之（共同演者：寺本華奈江，佐藤崇文，和田崇之，山本敦史，藤原永年）
第61回質量分析総合討論会，茨城県つくば国際会議場
2013年 9 月10日
- 39) DNA sequence and analysis of virulence plasmid of enterotoxigenic Escherichia coli 0169:H41 that adhere to HEp-2 cells in unique aggregative manner
Erika Ban（共同演者：Yuka Y, Takayuki Wada, Naoki Ichikawa, Takashi Hamabata, Takeaki Wajima, and Yoshikazu Nishikawa）
The 12th Awaji International Forum on Infection and Immunity (AIFII 2013), 淡路島夢国際会議場
2013年 9 月10日
- 40) ピロリ菌VacA毒素の多様な活性と受容体
平山壽哉
大阪大学微生物病研究所アドバンスセミナーシリーズ講演，大阪大学微生物病研究所
2013年9月26日
- 41) 東日本大震災について
山本太郎
講演，長崎褥瘡（じょくそう）学びの会
2013年 9 月29日

- 42) 熱帯医学会賞受賞講演『東アジアにおける日本脳炎ウイルスの分子疫学解析』
森田公一
第54回日本熱帯医学会総会, 長崎ブリックホール (長崎市)
2013年10月 4 日
- 43) Mycobacteriumkansasii : its epidemiological background in humans and a case of infection in
black bearded Sakis in a zoo
和田崇之
6th Asian Society of Zoo and Wildlife Medicine (ASZWM)meeting, シンガポール
2013年10月26日
- 44) Population Based Hospitalized Pediatric Respiratory Syncytial Virus Infection in Vietnam
Yoshida LM
Meeting of the Paediatric Respiratory Syncytial Virus(RSV) Investigators' Working Group,
Edinburgh
2013年11月 4 日
- 45) 感染症と人々の暮らし
山本太郎
医師会 特別講演, 津山市
2013年11月10日
- 46) Human Subject Protection: can we do better?
Karbwang J
The 13th FERCAP Annual International Conference, Bali , Indonesia
2013年11月17日
- 47) Emerging Infectious Disease Research in Connection with Plans for a BSL-4 Facility.
安田二郎
2013 US-Japan Medical Biosecurity and Biodefense Research Symposium, Bethesda
2013年11月21日
- 48) ポスト2015ー現代的課題 肥満を例に
山本太郎
ハーバード大学公衆衛生大学院 武見国際保健プログラム設立30周年記念プログラム,
日本医師会館
2013年11月22日
- 49) Japan Initiative for Global Research Network on Infectious Diseases (J-GRID) Collaborative
Study on Emerging and Re-emerging Infectious Diseases in Vietnam: Enhancement of
Research Capacity project - Phase II -
Tetsu Yamashiro
日越国交樹立40周年記念医学歯学交流ワークショップ, ハノイオペラハウス(ベトナム
ハノイ市)
2013年11月23日

- 50) Flooding and diarrhoea: methodological challenges for scientific evidence.

Hashizume M

Meeting of the Climate Change and Health Thematic Working Group of the Regional Forum on Environment and Health, Jakarta

2013年12月 9 日

- 51) 気候変動と健康

橋爪真弘

第3回熱帯医学研修課程フォローアップ事業「リフレッシャー講座」，東京都千代田区，フォーラムミカサエコ 8Fホール

2013年12月14日

11. 3 熱帯医学研究所主催の市民公開講座（平成25年度）

長崎大学熱帯医学研究所市民公開特別講座

日本脳炎とダニ媒介性脳炎 —節足動物が媒介する脳炎ウイルス—

日本脳炎やダニ媒介性脳炎は、人や動物にみられる致死率の高いウイルス性脳炎です。日本脳炎ウイルスは主にコガタカイモ、ダニ媒介性脳炎ウイルスはマダニの吸血により感染し、日本に広く存在しています。本講座ではこれらの感染症について、実際に我々がやっている「節足動物が媒介する感染症」研究の成果を交えながら紹介します。



講師：早坂大輔
長崎大学熱帯医学研究所 助教
北海道大学大学院農学研究科博士課程中退（獣医学博士）
日本学術会議特別研究員（北海道大学）、米国サザンメソッド大学、東京理科大学生命科学研究科などで研究経験あり。
現在は長崎大学熱帯医学研究所にて、ウイルス感染症についての研究に従事しています。

入場無料

日時：平成25年4月4日（木）
午後7時～午後8時30分

会場：長崎市立図書館 新興善メモリアルホール
〒850-0032 長崎市興善町1-1 TEL:095-829-4946

お問い合わせ：長崎大学熱帯医学研究所 TEL:095-819-7603 E-mail: biosafety@ml.nagasaki-u.ac.jp

2013年4月4日開催
「日本脳炎とダニ媒介性脳炎
—節足動物が媒介する脳炎ウイルス—」

講師：早坂大輔
熱帯医学研究所ウイルス学分野・助教

長崎大学熱帯医学研究所市民公開特別講座

ダニにより媒介される病気 ～知ることがあなたを守る～

マダニは森林にいる小さな虫で私たちの身体に噛みついて吸血しています。ヒトはまたその排泄物に巻き込まれる影響があります。マダニは特に日本紅斑熱や今話題のSFTS（重症熱性血小板減少症候群）などの病原体を持っていることがあります。ヒトの体でしっかりとした知識を身につけて、病気をもらわないようには気を付けましょう。マダニの生態、媒介する病気、予防法、刺されたときの対応法などについて紹介します。



講師：馬原文彦 馬原医院 院長
日本で唯一のダニ専門研究施設を開設
岡山保健衛生大学医学部客員教授、東海大学医学部非常勤教授
徳島県医師会感染症対策委員長、阿南市医師会理事
徳島県食の安全安心推進委員会、徳島県医学・感染症専門員

2013年8月1日（木）午後7時～8時30分

長崎市立図書館 1階 新興善メモリアルホール 入場無料
長崎市興善町1-1 事前申込不要

お問い合わせ：長崎大学熱帯医学研究所 TEL:095-819-7603 E-mail: biosafety@ml.nagasaki-u.ac.jp

2013年8月1日開催
「ダニにより媒介される病気
～知ることがあなたを守る～」

講師：馬原文彦
馬原医院・院長

長崎大学熱帯医学研究所 市民公開特別講座

動物が教えてくれる感染症の脅威 ～SFTSウイルスや新規ウイルスの発見を中心に～



ダニ類
ヒトに感染する感染症の多くは動物由来であり、動物にも感染します。動物における感染症を調査することによって、ヒトへの感染症の脅威を解明することができます。今回は、我々が2012年に発見したSFTSウイルスの発見の経緯とその後の動物での感染調査から得られた感染状況を紹介します。また、これまで動物から見つかったウイルスを抽出しているの紹介します。

講師 前田 健
山口大学農学部（共同獣医学部）教授
プロフィール
動物学博士 長崎大学農学部
Center of Infectious Diseases and Vaccine Research, University of Tsukuba
山口大学農学部 講師

2013年12月12日（木）
午後7時～8時30分
長崎市立図書館 1階
新興善メモリアルホール
長崎市興善町1-1 入場無料
事前申込不要

お問い合わせ：長崎大学熱帯医学研究所 TEL:095-819-7603 E-mail: biosafety@ml.nagasaki-u.ac.jp

2013年12月12日開催
「動物が教えてくれる感染症の脅威」

講師：前田 健
山口大学農学部・教授

12 主要な研究設備

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 反射型蛍光顕微鏡 | 20 デジタル画像電子顕微鏡システム |
| 2 ウルトラマイクローム | 21 耐腐食構造棚式真空凍結乾燥装置 |
| 3 落射蛍光位相差顕微鏡 | 22 リアルタイム定量PCRシステム |
| 4 万能倒立顕微鏡 | 23 液体クロマトグラフ質量分析計 |
| 5 走査電子顕微鏡装置 | 24 自動焦点維持装置付長時間観察システム |
| 6 生態機能解析装置 | 25 マルチラベルカOUNTERシステム |
| 7 病理組織標本作製システム | 26 生体分子精製システム |
| 8 原虫遺伝子DNA解析システム | 27 高感度ノンラベル・ゲノム定量解析システム |
| 9 宿主・寄生体相互作用解析システム | 28 デジタルセルソーターシステム |
| 10 プラスミド自動分離調整システム | 29 ジェネティックアナライザ |
| 11 感染症病原性解析システム | 30 透過及び操作電子顕微鏡用デジタル画像出力装置 |
| 12 熱帯性病原体成分機能解析システム | 31 多機能超遠心機 |
| 13 多機能ぜん虫行動解析システム | 32 パーソナル次世代シーケンサーベンチトップシステム |
| 14 熱帯性ウイルス感染症診断試薬作成システム | 33 マイクロ流路を応用した遺伝子発現解析装置 |
| 15 超遠心機 | 34 遺伝子解析システム |
| 16 核酸オリゴマー感染症治療薬開発システム | 35 共焦点レーザー顕微鏡システム |
| 17 生物顕微鏡 | 36 超解像顕微鏡システム |
| 18 細菌毒素活性測定解析システム | 37 高圧凍結装置 |
| 19 DNAシーケンサー | 38 自動細胞解析装置 |

13 刊 行 物

1) Tropical Medicine

当研究所が発行した機関誌で、熱帯医学の原著論文のほかに短報や総説などが掲載される。本誌は長崎大学風土病紀要として昭和34年に創刊されたものであるが、昭和42年に研究所名が改められたときにTropical Medicine（熱帯医学）と変更され、さらに平成元年からは英文のみの雑誌となった。毎年4号分を1巻として平成12年度には第42巻が発行されたが、平成13年度から休刊中である。

2) 長崎大学熱帯医学研究所年次要覧

昭和39年3月、当研究所の沿革および研究活動をまとめた最初の「長崎大学風土病研究所年次要覧、昭和38年度」が刊行された。その後、昭和42年の研究所名改称に伴う標記表題への変更はあったが、昭和45年度まで毎年刊行された。昭和46年度から54年度までの分はまとめて昭和56年3月に発行された。昭和55年度から再び毎年発行されることになり現在に至っている。平成24年度年次要覧は平成25年12月に発行された。

3) 長崎大学熱帯医学研究所 Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

国内及び外国からの来訪者に対する当研究所の紹介パンフレットとして、長崎大学熱帯医学研究所案内 (A Guide to the Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University) が昭和55年12月に最初に発行された。その後一部改訂されたものが随時発行されてきた。平成元年10月には、当研究所が共同利用研究所に改組されたのを機会に、標記のように表題を改めカラー印刷として発行され、その後は毎年発行されることになった。平成6年度に研究所の機構が大部門制に改組されたのを機に、このパンフレットはB5判からA4判に改められ、また日本語版と英語版を別々に作成することになった。平成26年度版は、平成26年7月に発行された。

4) 長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集

この報告集は、当研究所が平成元年に全国共同利用研究所に改組されたのに伴い、毎年実施される共同研究と研究集会の概要をまとめたものである。平成25年度の報告集は、平成26年7月に発行された。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧
平成25年度（2013）

平成26年12月発行

編集者：長崎大学熱帯医学研究所

発行者：長崎大学熱帯医学研究所

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4

☎(095)819-7800（総合案内）

印刷所：株式会社クイックプリント

〒850-0034 長崎市樺島町8-12

☎(095)827-1318